

小野正美著

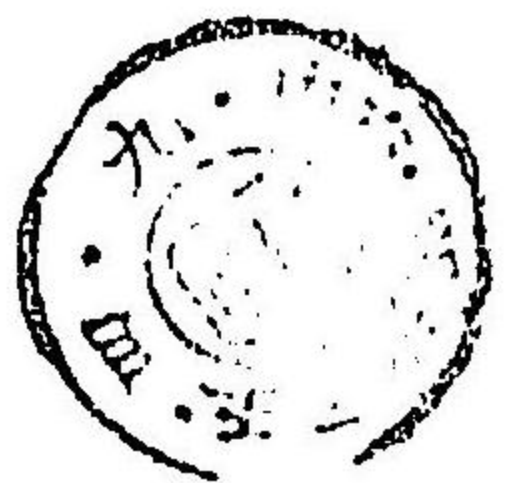
日本之部



新地理

東京

六盟館藏版



例言

一本書は中等教育の諸學校に於ける地理教科用に供する目的を以て編纂したり。

一本書は緒論、地方誌、總論の三章に分ち、緒論には地方誌を學ぶ前に必^ず先^ず知得すべき事項のみを略説し、次に地方誌に至りて、各地方の天然上、及び人事上の事項を分解詳述し、最後に總論を以て、日本全國の地文及び人文を總括し、以て學生をして略^が帝國の大勢に通せしめんことを期せり。

一本書は五號活字を以て、細説及び定義なる二小項を置けり。細説は生徒の進度に應じて教材の伸縮を自在ならしめんが爲め、定義は生徒をして、之を暗誦せしめ以て地理上の術

語を正確に記憶せしめんが爲なり。

一書中の統計は第十九統計年鑑、第十六次農商務省統計年鑑、臺灣總督府第二統計書等に據れり。

一挿畫は特に著者の意を用ゐたる處にして、主として、風景、動物の形狀、人種的の相貌、又は美術的建築等の如き、到底教師の口頭によりて説明し易からざるものを撰擇せり。而して之が材料の輯集に就きても、亦知人諸氏の盡力を仰ぎし處寡からず。但、挿畫中生蕃の風俗は特に坪井博士の好意により、大學所藏に係る鳥居氏撮影の寫真に據りたるものなり。此の有益なる挿畫により、本書が幾多の光彩を添へたるは著者の大に感謝する處なり。

一本書の編纂に際し、地勢に就きては、小藤博士、小川理學士、人

種上に關しては坪井博士、鳥居龍造氏の指教を受け、其の他書中の語格及び事實の修正等に就きて知人諸氏特に黒澤教一氏の助力を受けたる處寡からず。茲に謹みて右諸氏の好意を謝す。但、余の不敏なる尙或は事實の誤謬、記事の過不足等を免かれざるべし。大方諸士之が指摘の勞を惜まざるは幸甚。

明治三十四年十二月

著者識

中等新地理 本邦之部

目次

第壹章 緒論	一
位置	一
境域	二
廣袤	二
海岸	二
地勢	四
區劃	七
第貳章 地方誌	九
中域	九
中域東部	九

關東區.....一〇

〔東京府・神奈川縣・埼玉縣・千葉縣・茨城縣・
栃木縣・群馬縣〕

中央區.....三六

山梨縣・静岡縣・愛知縣・三重縣・岐阜縣・長野縣

北陸區.....五八

新潟縣・富山縣・石川縣・福井縣

奧羽區.....七〇

福島縣・宮城縣・岩手縣・青森縣・秋田縣・山形縣

中域西部.....八五

近畿區.....八五

滋賀縣・京都府・奈良縣・大阪府・兵庫縣・和歌山縣

中國區.....一二二

岡山縣・廣島縣・山口縣・鳥取縣・島根縣

四國區.....一二六

九州區.....一三四

香川縣・德島縣・愛媛縣・高知縣

〔福岡縣・佐賀縣・長崎縣・熊本縣・大分縣・宮崎縣・
鹿兒島縣〕

南 域.....一五二

琉球區.....一五三

沖繩縣

臺灣區.....一五七

〔西北部(分水嶺以西)濁水溪以南)東部(分水嶺以北)西南部(分水嶺
以西)濁水溪以南)東部(分水嶺以東)〕

北 域.....一七四

十州區.....一七五

〔渡島國・後志國・膽振國・石狩國・天鹽國・北見國・
根室國・釧路國・日高國・十勝國〕

千島區.....一八七

千島國

第三章 總論……………一九二

海岸……………一九二

河湖……………一九五

山脈火山脈……………一九九

海流……………二〇三

氣候……………二〇四

住民……………二〇五

人口・種族・教育・宗教……………二〇八

政治……………二〇八

國體・政體・兵備……………二二二

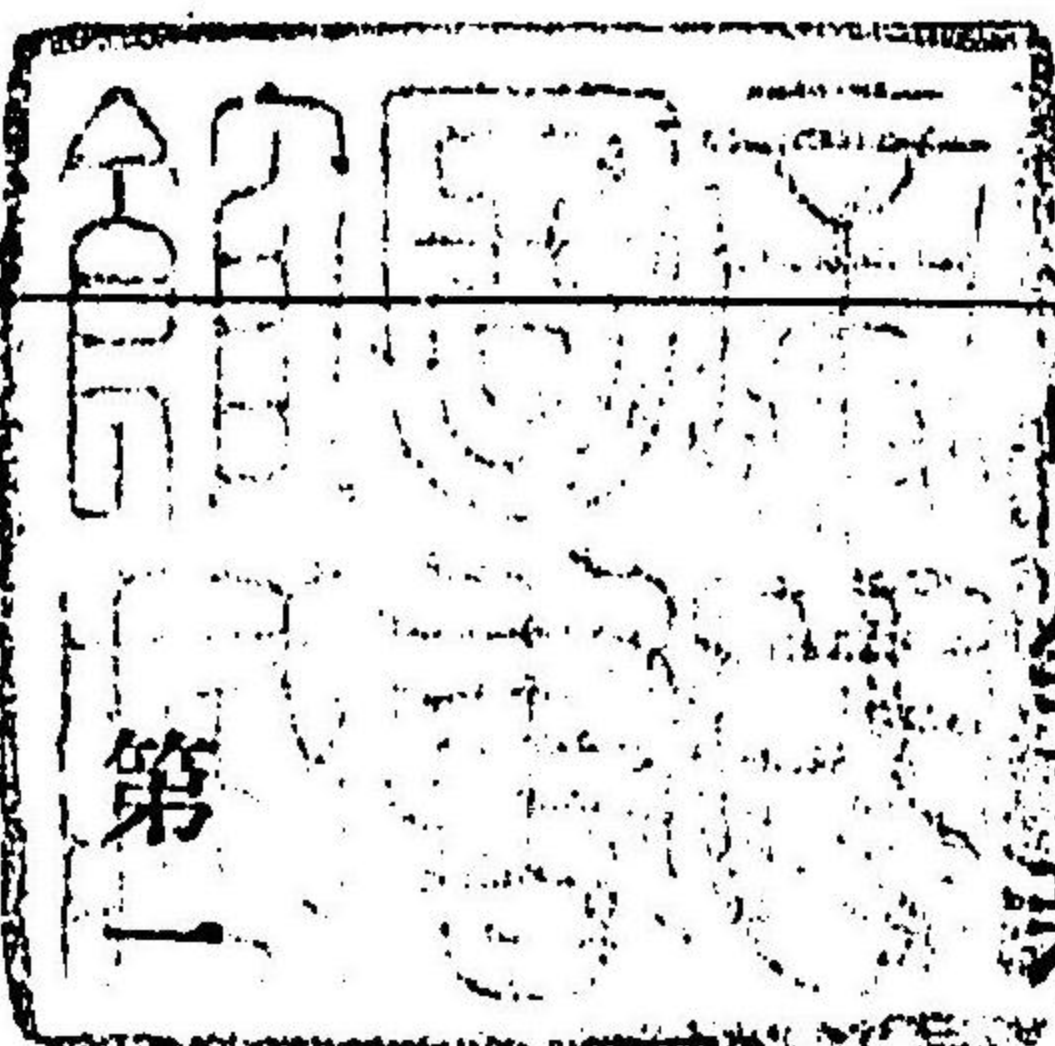
生業……………二二二

農業・林業・牧畜業・水産業・鑛業・工業・交通・商業……………二二二

中等新地理 本邦之部 目次終

中等新地理 日本之部

小野正美 著



第一章 緒論

位置

●位置 我が大日本帝國は、亞細亞大陸の東岸に近く、北太平洋の西北に位する群島より成り、東北より、斜に西南に凡、一千二百餘里の間に連亘す。中に就き、本州・十州（北海道）九州・臺灣・四國の五大島は、帝國の主要部を成せり。

- 極東 占守島東端 東經一五六度三二
- 極西 澎湖島花嶼西端 東經一一九度二〇
- 極南 臺灣南岬岩礁 北緯二一度四八

緒論 位置

極北 阿頼度島北端 北緯五〇度五六

境域

●境域 吾が國は、四面海を環らし、東は渺茫たる北太平洋にして遙に北アメリカ洲に向ひ、北は僅に千島海峽を隔て、露領カムチャッカ半島に接し、宗谷海峽に由りて露領樺太島に對す、西は一葦帶水の朝鮮海峽を隔て、朝鮮半島に向ひ、臺灣海峽に由りて清國の福建省に隣る。群島恰三個の弓形を呈して、オコツク海、日本海及び東海の水を擁し、而して南はバシー海峽を隔て、アメリカ領（北米合衆國）フィリピン群島と相呼應す。

廣袤

●廣袤 吾が國を組成せる主要なる島嶼は、前に述べたる五大島の外、淡路・佐渡・隱岐・壹岐・對馬等の數島・千島・琉球の二列島・小笠原・澎湖の二群島是なり。若し周回一里以上の

海岸

者のみを擧ぐれば殆ど五百に達し、全國の面積大約二萬七千餘方里あり。

（細説） 五大島の面積を比較すれば四國最小なり。臺灣・九州は四國に二倍し、十州は四國の四倍半に、本州は四國の十二倍に當る。

（定義） 列島とは、島の相連りて線狀をなせるを云ふ。○群島とは、一に島衆と云ひ、島の一處に相集れるを云ふ。

●海岸 海岸の狀態は交通の便否に關し、交通の便否は其の國其の地方の文野を支配すること頗大なり。吾が國は海岸線能く發達し、面積の大きさに比すれば、頗る海岸線の長きを見る。之れ一は島嶼の多きに因ると雖、亦海岸の屈曲寡からざるによれり。されども地方により其の狀自同からず。太平洋沿岸は、半島・岬角の突出、港灣の蝕入極めて

多しと雖、日本海沿岸は、之に反し、海岸概平直にして、只二三の出入あるに過ぎず。

(定義) 海岸線とは、陸地の海水に接する境界線にして、概屈曲するを常とす。○大洋とは、地球上の廣大なる水面を云ふ。○海は大洋の一部にして、多少陸地に限られたるものを云ふ。○灣とは、海水の深く陸地に侵入するものを云ふ。○港は灣の狭小なるものにして船舶の碇泊に適するものを云ふ。○半島は陸地の海中に突出して、三面海水に洗はるゝものを云ふ。○岬は崎又は鼻とも云ひ、海中に突出する狭小なる陸地の一端を云ふ。

地勢

◎地勢 我が國の地勢は、アヂヤ大陸の沿岸山脈と見做すべきものにして、三個の關連せる弓形の列島と、臺灣島とより成り、弓形の凹面は大陸に、凸面は大洋に面へり。三

弓中其の中間に位し、規模の最大なるものを本土列島と云ふ。半州^北本州四國九州等を含み、主として樺太、崑崙の二大山系より成れり。樺太山系は、北方樺太島に連脉し、十州^北の中央を貫き、本州を南走して、其の中部に達するものを云ふ。崑崙山系は、亞細亞大陸、崑崙山系の餘脈にして、南西の方より來り、九州四國等を貫き、本州の中部に赴くものを云ふ。此の兩山系の接合する處は、本州中最幅廣き處にして、此に一大裂帶あり、本州島を横りて、高峻なる數多の大火山を噴起せり。之を富士帶火山脈と云ふ。地理學上之より北を北日本と云ひ、南を南日本と云ふ。而して最北の弓體を、千島列島と云ひ、殆皆火山質より成り、千島帶と稱する火山脈の大部を形成す。此の脈の續きは十州に連り、

此にも又多くの火山を噴起して、遂に樺太山系に連続す。琉球列島は其の脈を臺灣島に起し、東北に向ひて走り、其の四面には霧島帯と稱する火山脈之と並行せり。此の火山脈は、九州に渡り霧島山等の火山を起して、崑崙山系に結接す。要するに、吾が日本群島の地體を構成する主要なる隆起帯は、以上述べたる二個の大山系及び三の大火山脈之なり。

(定義) 山脈とは、山の連続するものを云ふ。○山系とは、同方向に並走する數山脈の總稱なり。○火山脈は、一に火山列と云ひ、數多の火山相連れるものを云ふ。元來火山は地皮に生じたる割目に沿うて、地底の燒石等の噴出したるものなれば、割目の方向に従ひて、數多の火山相連れるを常とす。中には、列をなさずして、一處に集れるものあり。之を火山群又は

火山彙と云ふ。

我が國土は、幅狭く、且傾斜急峻なるを以て、廣大なる平原を生ずることなく、従て長大なる河系を造ること能はず。多くは、細流若くは急流に過ぎず。之等の河流は、國土の中央に連れる脊梁山脈によりて、兩側に分水せられ、各海洋に向うて注流す。故に流域は之を大別して、五大斜面區域となすことを得べし。即ちオホツク海、日本海、東海、瀬戸内海、太平洋の斜面區域之なり。

(定義) 河系とは、河川の本流及び支流の總稱なり。○流域とは、一河系の水を供給する地方を云ふ。○分水界とは、近傍の水を分流せしむる土地を云ふ。

區劃

●區劃 帝國には、施政上種々の區劃を置けり。中に最重

要なるものは、畿道國・道廳府縣之なり。畿道國は天然の形勢によりて劃したる、舊時の行政區域に過ぎざれども、歴史上又は習慣上、其の關係する處頗大なるを以て、地理を學ぶものは、必之を知らざるべからず。現今の行政區劃は、即道廳府縣にして、新領土臺灣を除き全國を一道・三府・四十三縣に分ち、臺灣には別に二十廳を置き總督府之を總管せり。(附録道廳府縣一覽表・畿道國一覽表參照)

第二章 地方誌

帝國の領土は、南北に著く延長せる一大列島なるを以て、之が地理を講究せんには、便宜上之を數區に分劃するを要す。因りて本書は、地勢・風土等、自然の狀況に基き、全國を分ちて、中域・南域・北域とす。中域は、本州・四國・九州を含み、南域は、琉球・臺灣を含み、北域は、十州及び千島を含むものとす。

第一 中域

中域は、帝國の最要部に屬するのみならず、地域最廣きを以て、又便宜上、鈴鹿山脈によりて、之を東部及び西部に分つ。

甲 東部

關東區

東部は、地勢上更に之を細別して、關東・中央・奥羽・北陸の四區とす。

關東區

當區は、相模・武藏・安房・上總・下總・常陸・上野・下野の八箇國より成れる所謂關東八州の地にして、現時の府縣區域は左の如し。

東京府 (武藏中部・豆南七島・小笠原諸島)

埼玉縣 (武藏北)

茨城縣 (常陸一圓・下總小部)

群馬縣 (上野)

神奈川縣 (武藏南小部・相模一圓)

千葉縣 (安房・上總・下總大部)

栃木縣 (下野)

地勢・氣候

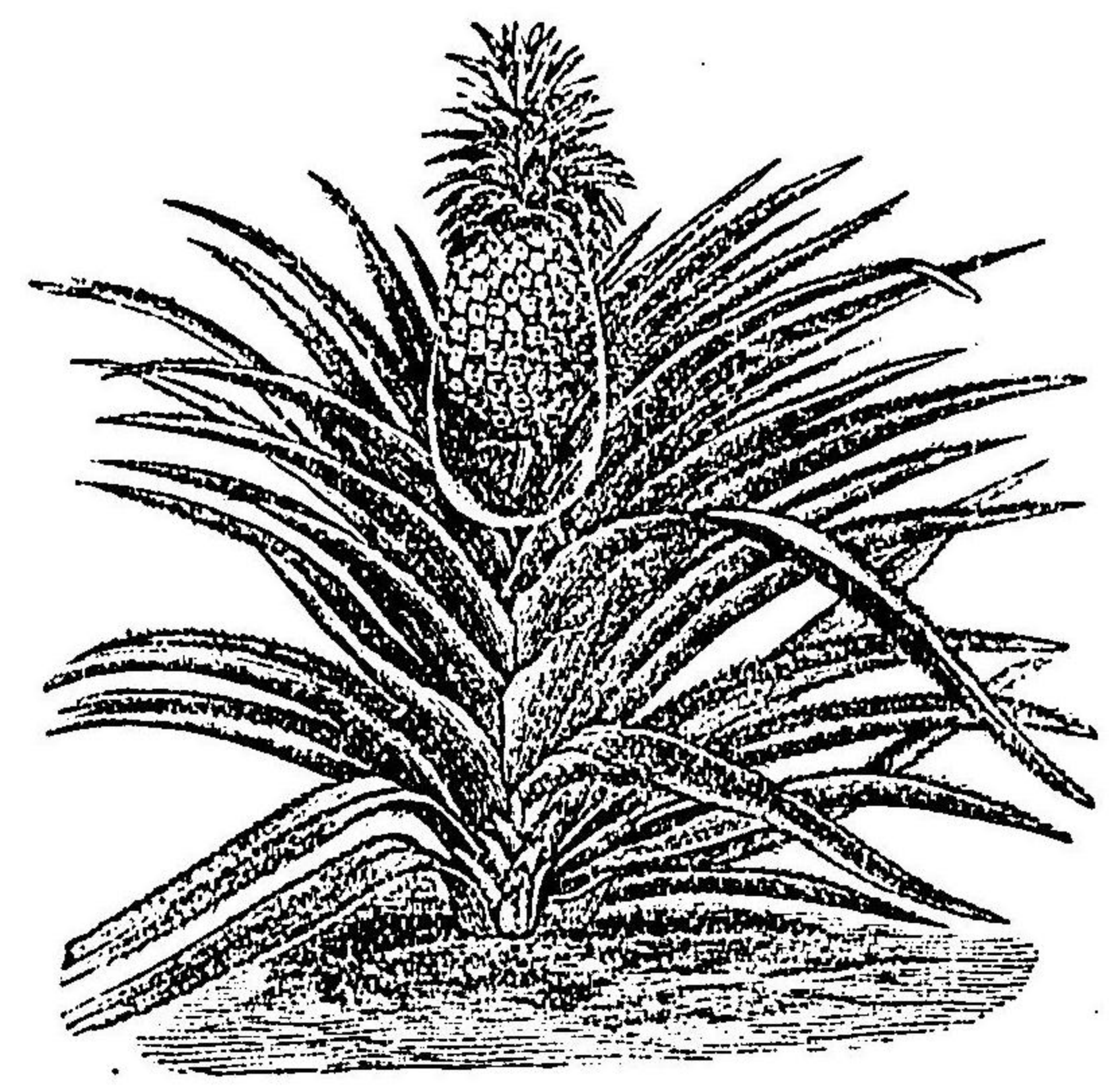
●地勢・氣候 北と西とは山岳重疊し、地勢頗峻峻。南は唯房總半島の南部に小山ありのみ、中央四方三四十里に亘れる本邦最大の平野を成し、氣候は温和

海岸・島嶼

にして且雨量に乏しからざるが故に、地味概肥沃なり。●海岸・島嶼 東海岸の中央に突出するは犬吠岬にして、其の南弓形の砂濱は、之を九十九里濱と稱し、漁業の



最盛なる所なり。安房の南端野島岬を西に廻れば東京灣あり。灣口を扼せる三浦半島



鳳梨

島羅列す。中に最大なる大島は、昔源爲朝の配流せられし處、其の三原山は、有名ある活火山にして、常に烟を噴く。最南なる八丈島は、八丈絹の産を以て名あり。其の東南小笠原島は、東京を距ると凡二百廿餘里の海上に位し、熱帶に

の觀音崎と、對岸富津崎とには嚴重なる砲臺の設あり。灣内には、横濱、横須賀等の要津あり。三浦半島の西は、相模灣にして、江の島の勝地此の内にあり。南方の海上に伊豆七

近きも、海風常に吹き、盛暑と雖甚暑からず。地味耕牧に適し、漁利又寡からず。甘蔗、鳳梨、椰子、實芭蕉、大蝙蝠、信天翁等の熱帶性動植物を産す。其の南に火山列島あり、硫黃を産す。

(細説) 伊豆七島は、大島、利島、新島、神津島、三宅島、三倉島、八丈島等の總稱にして、最南八丈島は、氣候溫和にして四時牧草生育し好牧場あり。小笠原島は今より三百餘年前小笠原貞頼の發見せしにより此の名あり。久しく無人島なりしが、明治以後南洋諸島との關係淺からざるを悟り、内地人の移住を獎勵し、現時は二千五百餘の住民を見るに至れり。嘗て移住せし西洋人は、悉歸化して帝國の民籍に編入せらる。

山誌 阿武隈山脈の南支は本區に現はれ筑波山に至りて盡く。北境を限れる兩毛の山地は火山に富む。其の東

山誌

水誌

部に峙立せるは、那須火山にして、西部に白根・淺間等の諸火山あり。其の他赤城・妙義・榛名は上野の三名山と稱せられ、妙義の石門・榛名の伊香保温泉共に著はる。○武藏は西境をなせるは、關東山脈にして、其の小佛峠は武相の境をなせる山道にして、長一哩餘のトンネルを通ず。其の南の大山には雨降神社ありて、夏時賽客絶えず。○當區の西方に鬱結せる富士帶火山脈は遠く南洋に連り、火山列島・小笠原群島・豆南七島等連脈をなし、白扇倒に懸れる富士の秀峯即其の盟主なり。脈中の箱根火山彙又其の名高し。

(定義) 峠は又越とも云ひ、山脊の一部にして山道を通ずる處を云ふ。

◎水誌 當區の河流は、太平洋斜面區域に屬し、北と西と

交通

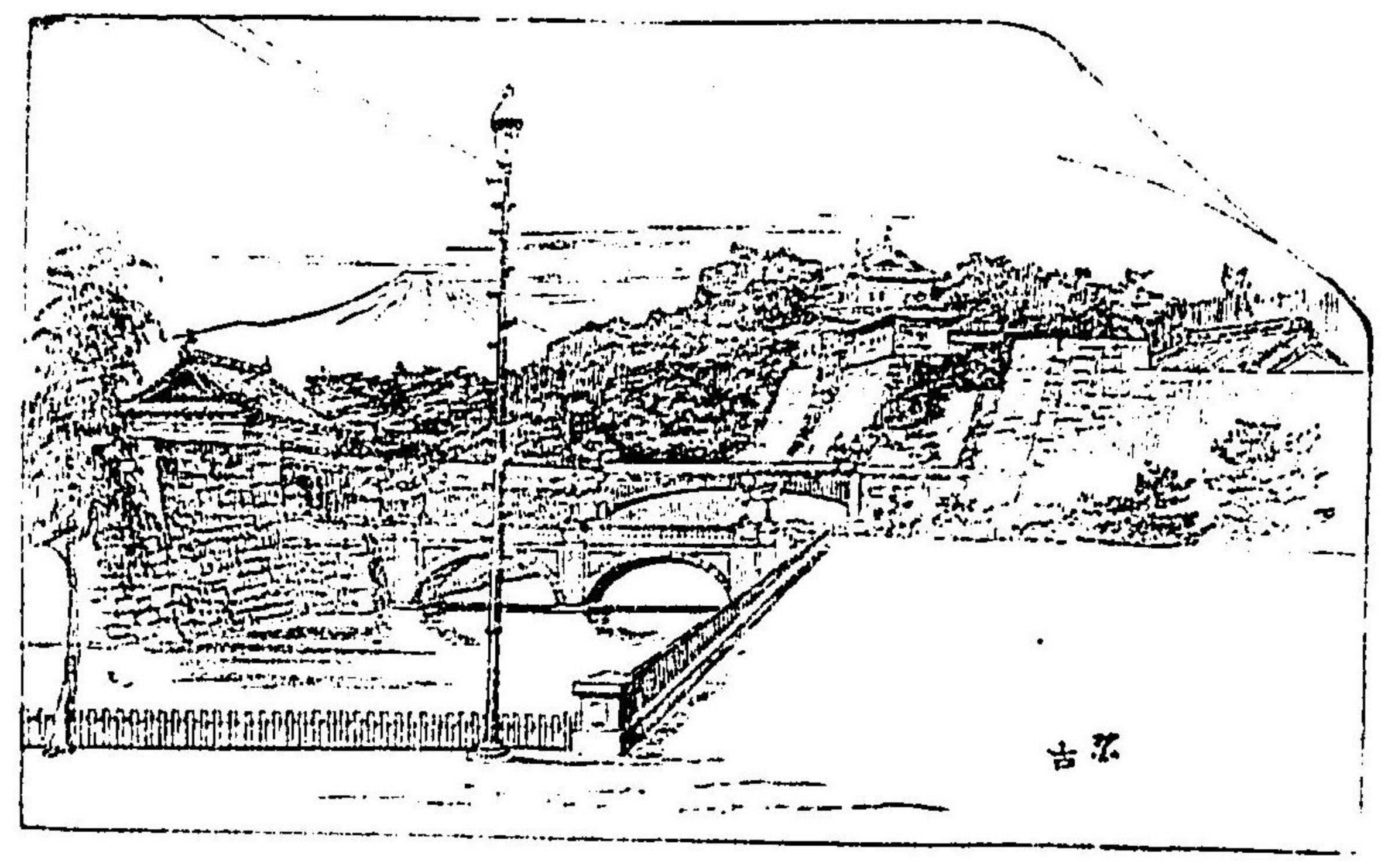
の兩山地に發し、概東南に向うて流る。中に最大なるものは坂東太郎の稱ある利根川にして、北境の山地に發源し、鬼怒川等の諸流を合せ、江戸川を分派し、東南に流れ銚子港に於て海に注ぐ。河口の幅二十五町餘、長七十餘里に達し、下流は、水勢緩なる上に、霞浦北浦等の大湖と通ずるを以て、舟楫灌漑の便極めて多し。又關東山脈より發する荒川(下流を隅田川と云ふ)は東京市を貫く要流にして、多摩川は水清く引きて東京市民の飲料に供す。

◎交通 本區は、道路一般に平坦に、河流及び湖沼に富み、鐵道は概主要の都邑を連絡し、汽船は沿海諸港を往復し、水陸共に交通頗便なり。而して國道及び鐵道は東京を中心として四方に通ず。其の主要なるもの數條あり。即ち(一)東

海道は西の方、太平洋沿岸に沿ふて京都に通じ、(二)甲州街道は西甲斐國に入り、(三)中仙道は北上野を經、それより内地の中央部を西方に通じ、(四)奥州街道は北方下野を過ぎ、て奥羽に通じ、(五)濱街道は東北下總常陸を經て、沿岸を通過じ、(六)千葉街道は東方下總に入る。○鐵道は概之等の街道に沿ひ、(一)東海道鐵道、(二)甲武鐵道、(三)日本鐵道高崎線、(四)同東北線、(五)同常磐線、(六)總武鐵道等あり。

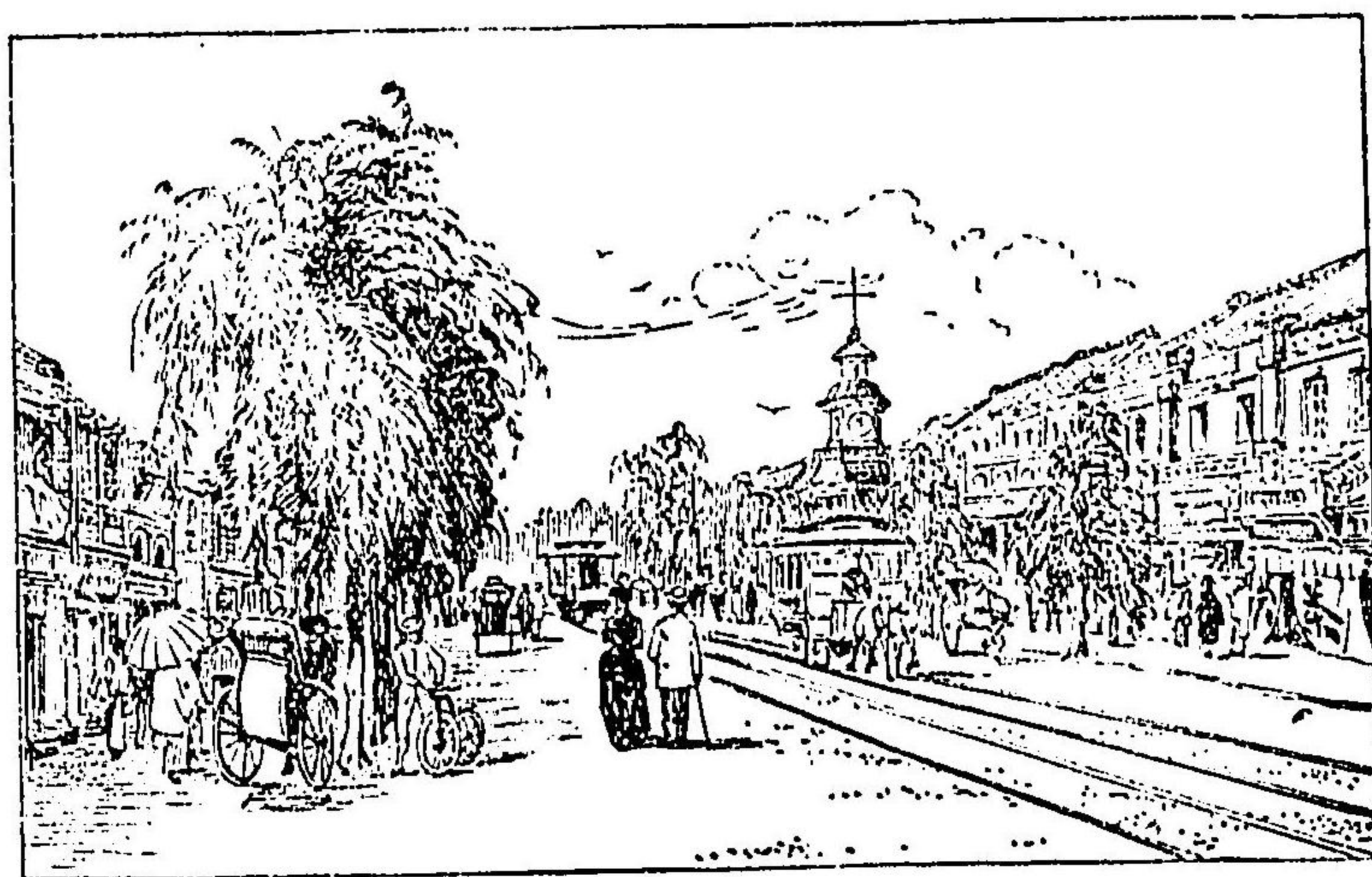
處誌

東京府 東京市は隅田川の河口に跨り、南は東京灣に臨み、他の三面は沃野遠く連る。東西凡三里、南北凡四里、人口百四十餘萬、市内を十五區(麹町・神田・日本橋・京橋・芝・麻布・赤坂・四谷・牛込・小石川・本郷・下谷・淺草・本所・深川)に分つ。其の中央は麹町區にして、實に宮城の所在地たり。



橋重二及び城宮

本市は中央政府の所在にして、政事及び學術・工藝・商業等の中心なれば、諸官省・國會議事堂を始めとして、近衛師團及び第一師團・府廳等宏大なる諸官衙、東京帝國大學、其の他各種の公私立學校、博物館、圖書館、動物園、植物園、大銀行、諸會社、諸工場等悉、此處に集



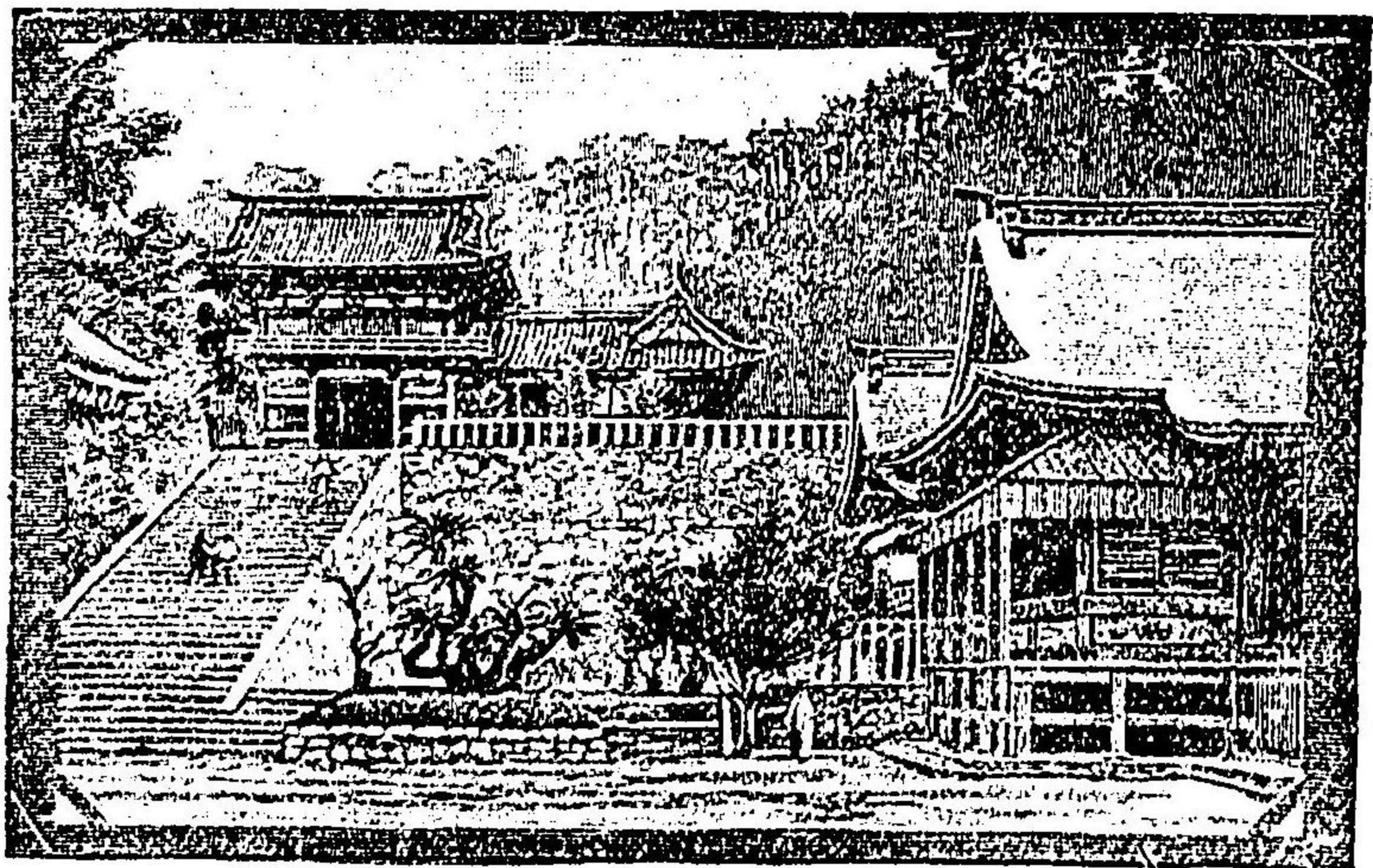
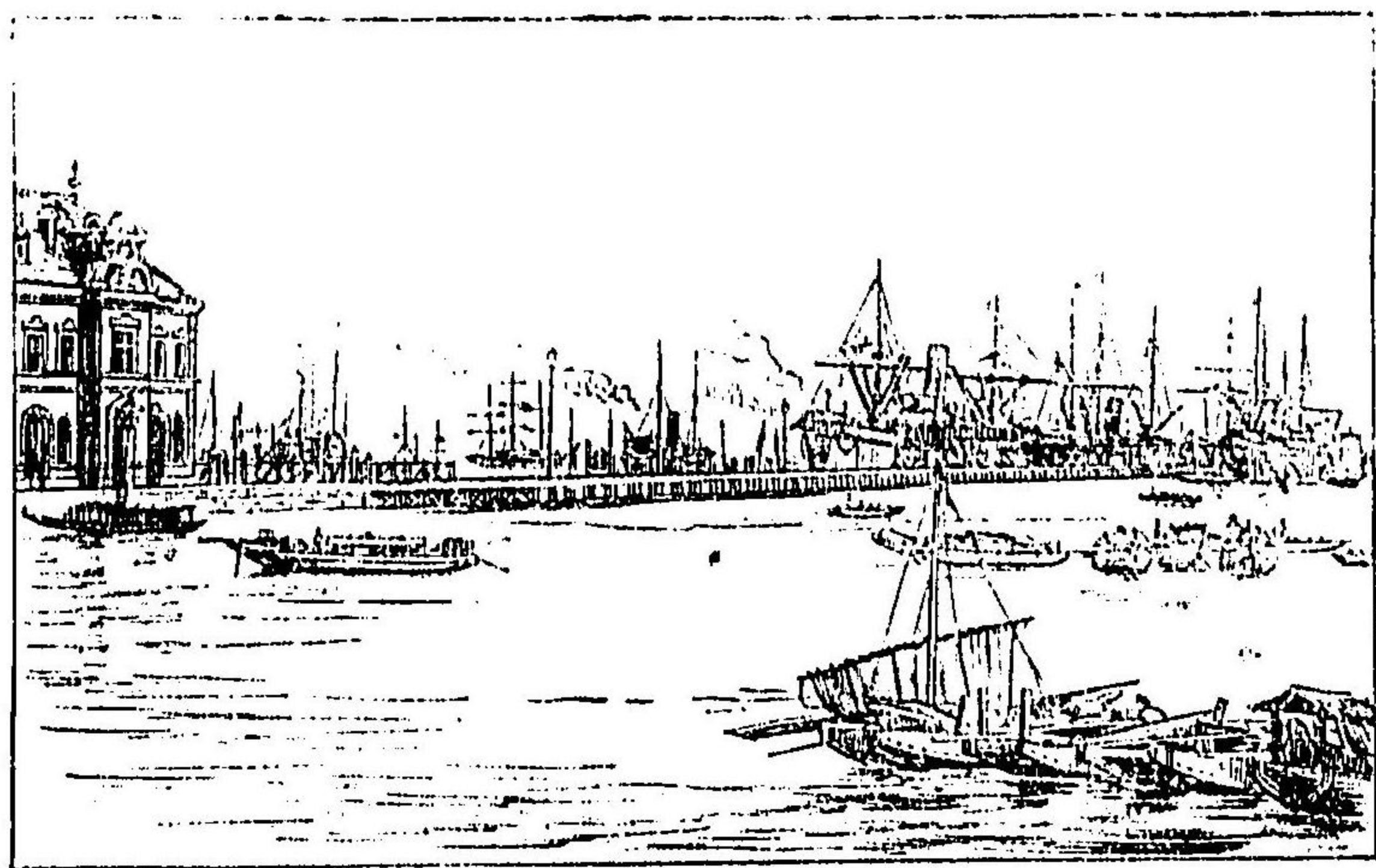
東 京 市 街 銀 座

まり、上野、浅草、芝等の公園は、市民の快樂に供せられ、主要なる街路には、馬車鐵道の設けあり。電燈は、街衢を照して、暗夜も尙白晝の如く、電信、電話の線は、縦横に懸りて、宛然蛛網に異らず。國道は凡六條あり。四宿の地(千住、板橋、品川、新宿)を経て諸國に達し、鐵道は市内四

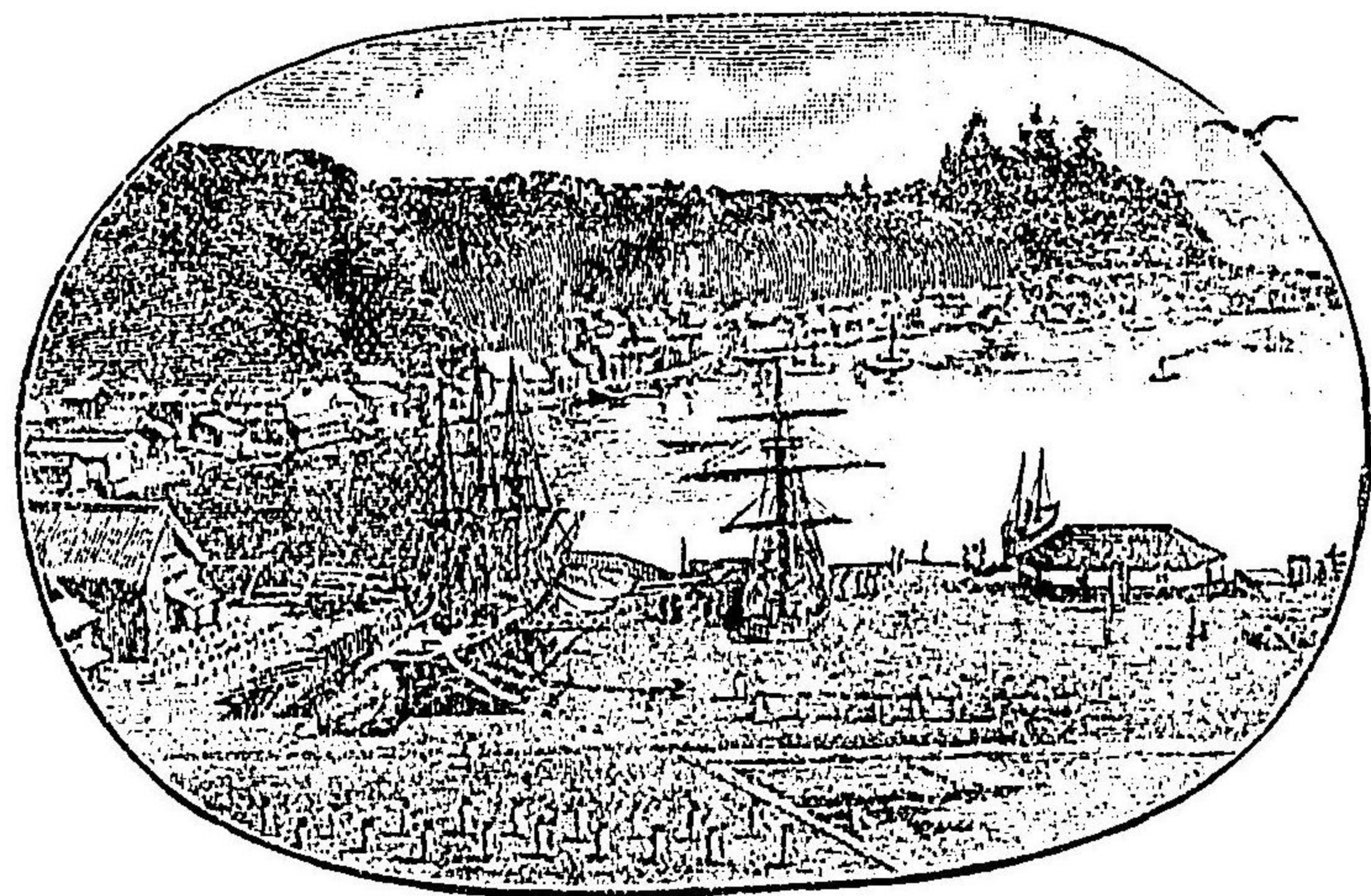
個處の停車場より、概國道に沿うて四方に通ず。本市は昔太田道灌の城を築きし地にして、當時は尙一面蘆荻の草原なりしが、徳川氏覇府を此の地に開きて天下に號令せしより、所謂大江戶の繁昌を致し、明治初年皇居及び政府の所在地となり、遂に今日の盛況を見るに至りしなり。市の産物として最著明なるものは、綿絲、燐寸及び錦繪、蒔繪、海苔等にして、特に書籍、器械の出版製作に至りては、全國に比類なし。東京を出で、甲州街道に沿ひ西行すれば、八王子町あり、絹織物の業甚盛なり。其の北方に、青梅町あり。輕便鐵道により甲武線に連絡す。近傍に石灰を産す。神奈川縣、横濱市は、縣廳所在の地にして、東京の西南八里、東京灣に臨み、吾が國最盛の開港場にして、内外の船舶

常に輻湊す。主要の輸出品は、生絲・茶・絹手巾・銅等にして、輸入品の主なるものは、綿絲・石油・砂糖・毛布・機械・雜貨等なり。此の地開港以前は(安政六年開港)小漁村たるに過ぎざりしが、今や人口二十餘萬の大都會となり、市街殷賑車馬の往復織るが如く、外國人の來住頗多

横濱埠頭



く、正金銀行・税關條約國領事館等あり。東海道鐵道は、東京新橋停車場を起點とし、横濱を経て、西南大船に至り、是より支線を三浦半島に分ち、鎌倉を経て横須賀に達す。鎌倉は昔源賴朝の幕府を開きし地にして、歴史上の遺跡甚多く、神社・佛閣には、鶴岡八



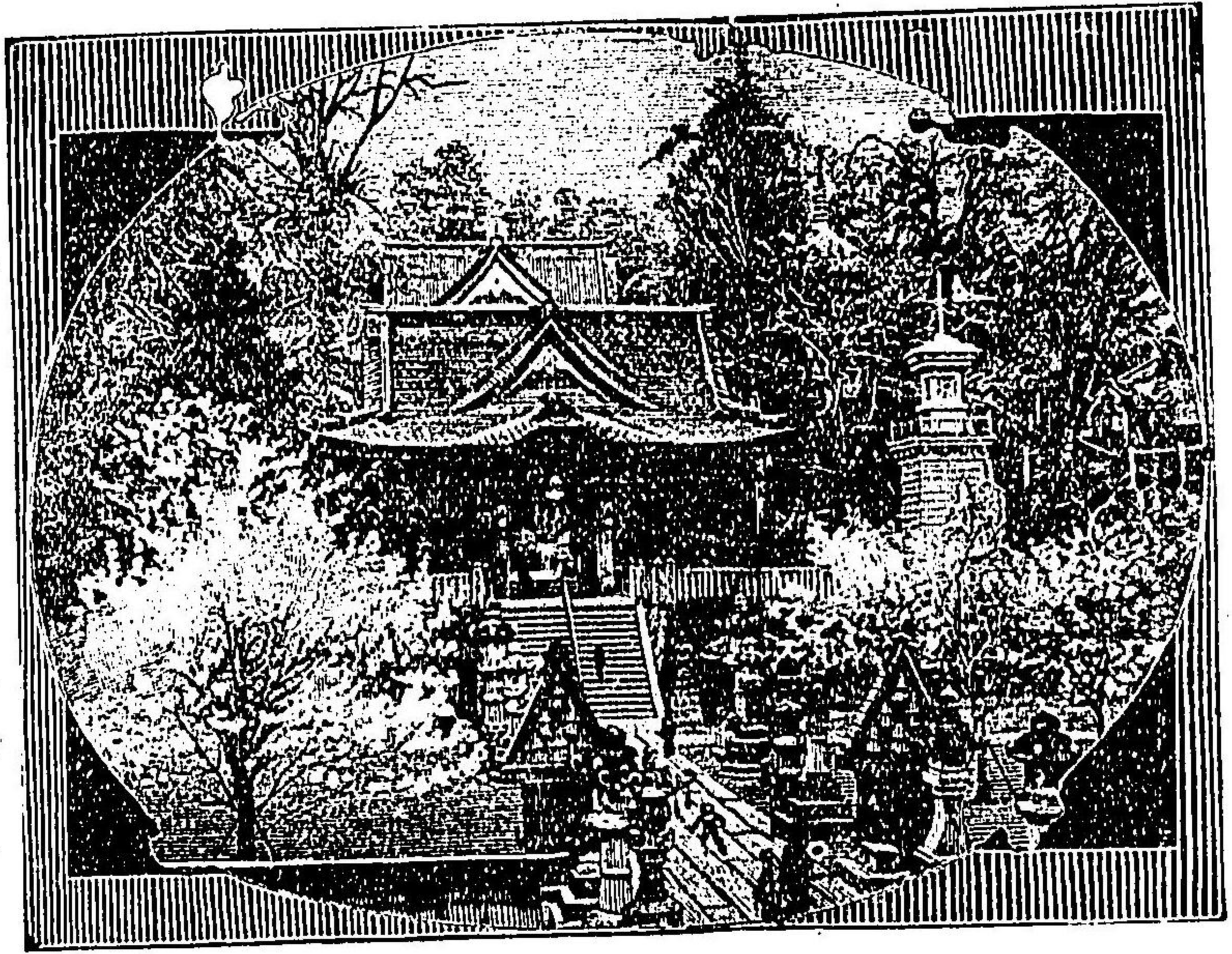
横須賀軍港(造船所)

幡宮・建長寺・鎌倉宮等
 最著明なり。横須賀
 は帝國五軍港の一に
 して、第一海軍鎮守府
 の所在地なり。又東洋
 屈指の造船所ありて、
 軍艦常に碇泊す。
 横須賀の東南に浦賀
 港あり。造船所の設あり。
 往年ペルリの始め
 て上陸せし地なるを
 以て、史上に名高し。近

時此の地に其の紀念碑を建設せり。鎌倉より西方に七
 里濱を過ぐれば、江の島に至るべし。

大船より本線は西走し馬入川を渡り大磯を経て國府津
 に至る。途上右に大山を見、左に三原山の噴煙を望む。國
 府津の西に小田原町あり。箱根の東北に位し、後北條氏の
 城址にして、漁業に従事するもの多く、又梅干の名産あり。

箱根山彙を横ぎる山道は、有名なる峻坂にして、古より
 東海道第一の難所と稱せらる。故に東海道鐵道は、國府津
 より酒匂川の溪谷に沿ひ、箱根山麓を迂回し、足柄山の南
 麓を過ぎて、静岡縣の域に入る。箱根山は温泉の涌出す
 る處多く、七湯の名世に高し。又山中に大涌谷(一名大)の硫
 氣孔あり。一奇觀なり。山上の蘆湖は所謂火口湖にして、水



を兼ね、縣廳所在の地にして、千葉醫學専門学校の設あり。

成 東京より來れる總武鐵道は、江戸川を渡り、山千葉を過ぎ佐倉を経新て銚子に達す。成田鐵道は佐倉より成田を過ぎて佐原に到る。又房總鐵道は、千葉を起點として、東南海岸地方に通ず。

江戸川は武總の國境をなし、其の沿岸には、國府臺の古戰場行徳流山野田等の名邑あり。其の東方には小金原及び習志野等の原野あり。佐倉町は歩兵第二聯隊司令部の所在地にして佐倉炭を出だす。成田町には、巨剎新勝寺あり。名高き不動尊を奉祀し、賽客跡を絶たず。佐原町は、利根川沿岸の要津にして、清酒醬油を産し、商業頗盛なり。地學者の泰斗伊能忠敬翁は、實に此の地より出づ。

(細説) 佐原の東一里に官幣大社香取神宮あり。建國の功神經津主命を祀り、武甕槌命を祀れる常陸の鹿島神宮(官幣大社)と共に本邦最古の神社なり。

銚子町は利根川口に臨み、水路の便を占め、市況繁華にして、醬油銚子節銚子縮の産世に名高し。銚子より海岸に

沿ひて西南に行かば、一宮及び日蓮の生地なる小湊を経て、館山灣の邊に出づ。灣に臨みて、館山及び北條の名邑相並べり。館山北條は下總の木更津と共に東京より日々小汽船の往復あり。

(細説) 鋸山は房總の境にあり、山脊水蝕により鋸齒狀を成せるを以て其の名を得、多く石材を出す。

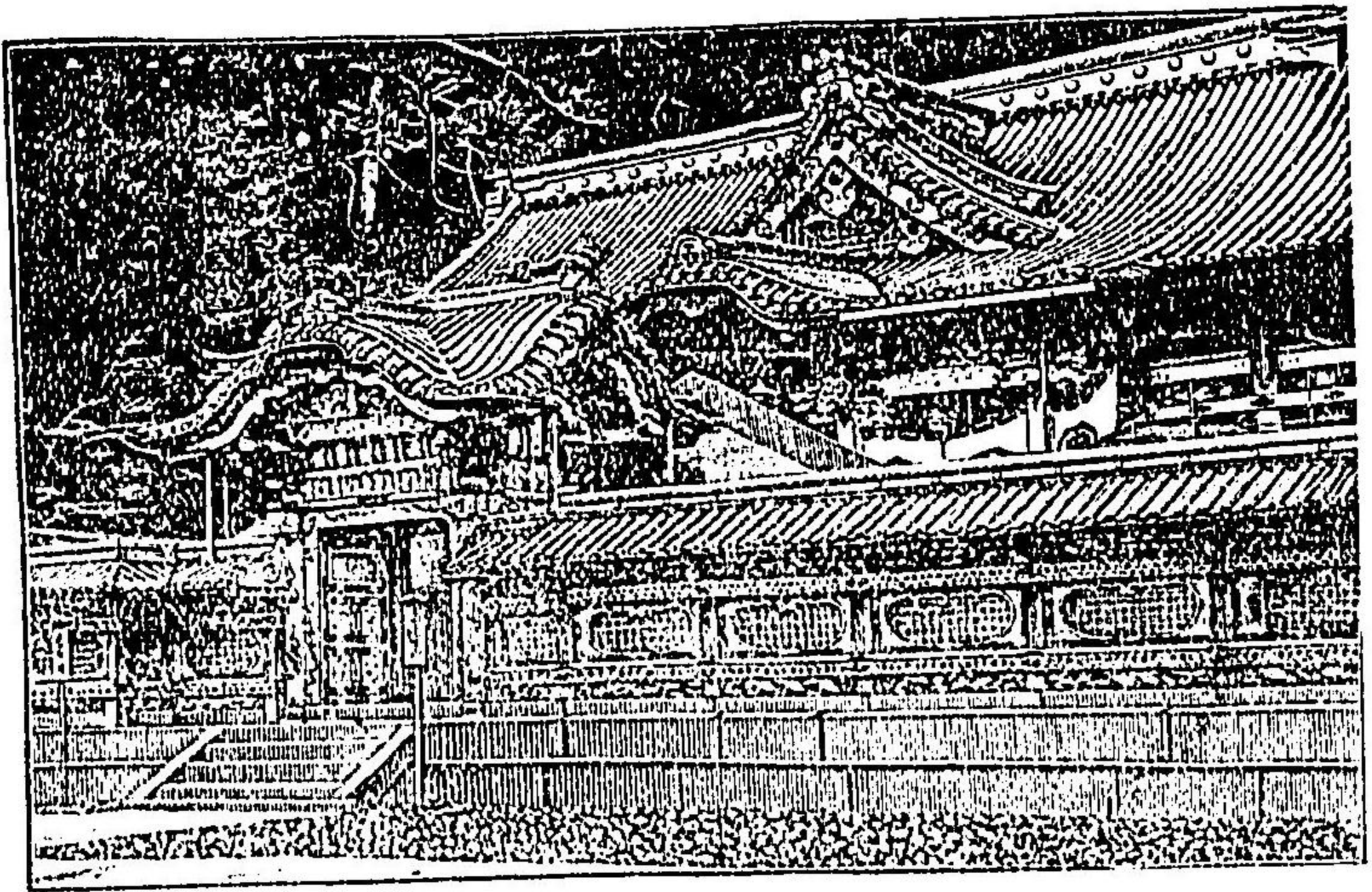
茨城縣 水戸市は常陸の中部、那珂川の南岸に位し、縣廳の在る所あり。徳川氏三家の一なる水戸家の舊城下に於て、多く偉人の輩出せし地なり。舊時有名なりし借樂園及び弘道館は、今尙存す。水戸煙草及び水戸節の産あり。

(細説) 名君光圀公學を好み、弘道館を興し、碩儒を禮せしより以來、學者輩出して、一種の學風を成し、齊昭公・藤田幽谷・東

湖等は近世に出でし偉人なり。文化年間、北地探検を以て名高き間宮林藏も、實に此地の出身なりと云ふ。

日本鐵道の常磐線は、東京より東北に向ひ、江戸川及び利根川を渡り、霞浦を右に見、土浦及び石岡を過ぎて水戸に到り、其れより海岸を東北に走り、平瀧の近傍を過ぎ、國境勿來關址を経て、磐城の國に入る。又一線は水戸より西に、筑波山の北方を過ぎ、結城を経て、下野の小山に至り、東北線に會す。土浦町は霞浦に臨み、汽船の便あり。醤油の醸造盛なり。結城町は鬼怒川に臨み、近傍より産する結城紬及び結城木綿の市場たり。

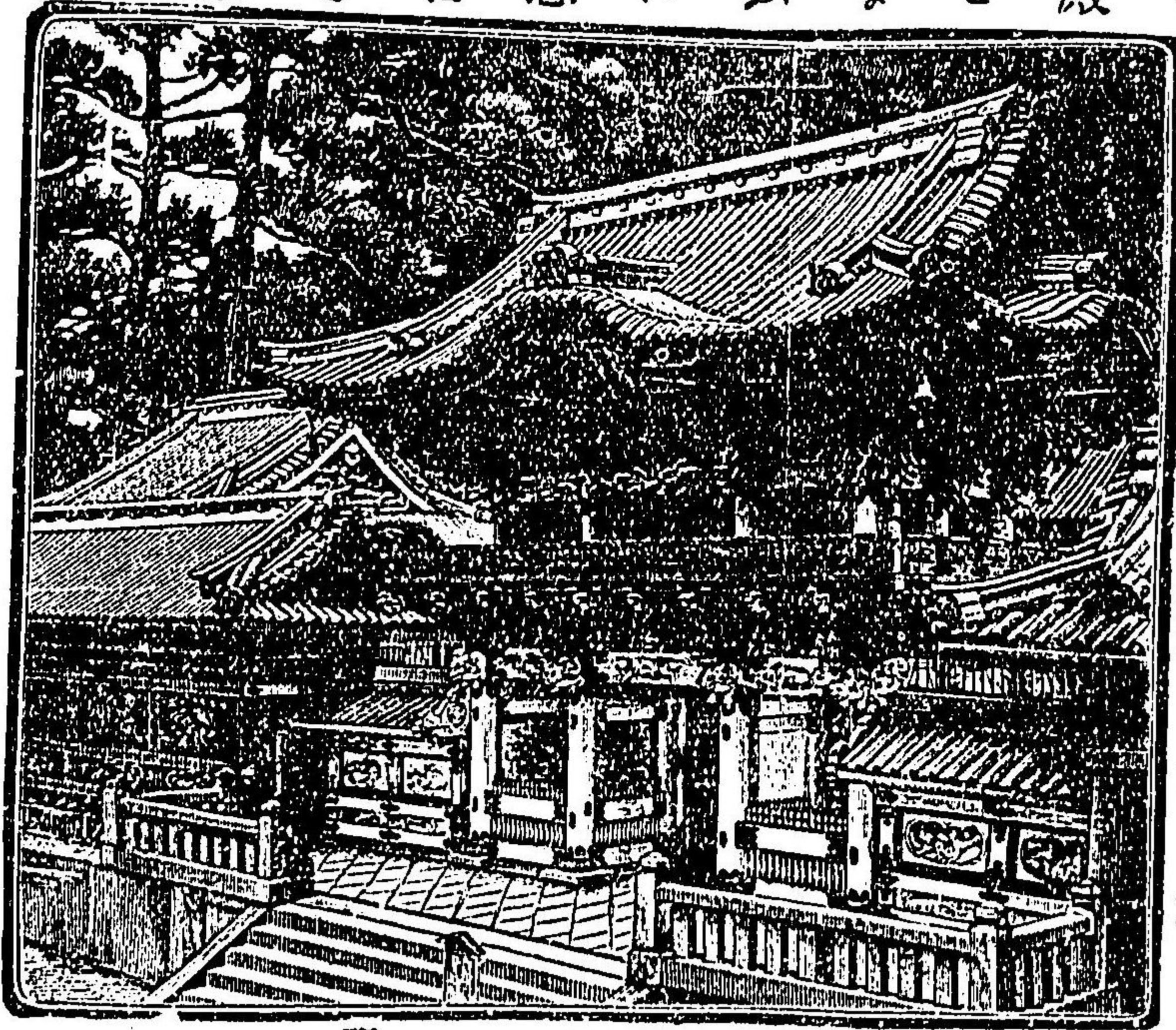
(細説) 石岡町は、醬油・清酒の産地にして商業盛なり。○古河は結城の西南下總の西北隅にあり、東北線路に當る一驛にして、昔時關東管領古河御所の所在地として史上に名あり。



日光東照宮

栃木縣 宇都宮市は
縣廳所在の地にして、
奥州街道日光街道の
要路に當れるにより、
市況甚々繁盛あり。
鐵道は、東京より小山
を経て、宇都宮を通じ、
北の方廣漠なる那須
野原を過ぎ、那須山を
左に見て磐城の境に
入る。又支線を分ちて、
西北日光に通ず。

日光町には、有名な
東照宮あり。社殿
の壯麗海内無比と
稱せらる。日光見な
いなら結構と云ふ
な」の俚言あるに
ても其の一斑を想
像すべし。又近傍日
光山中には、中禪寺
湖・巖華瀧等の勝景
あり。日光の西南
足尾町は本邦第一

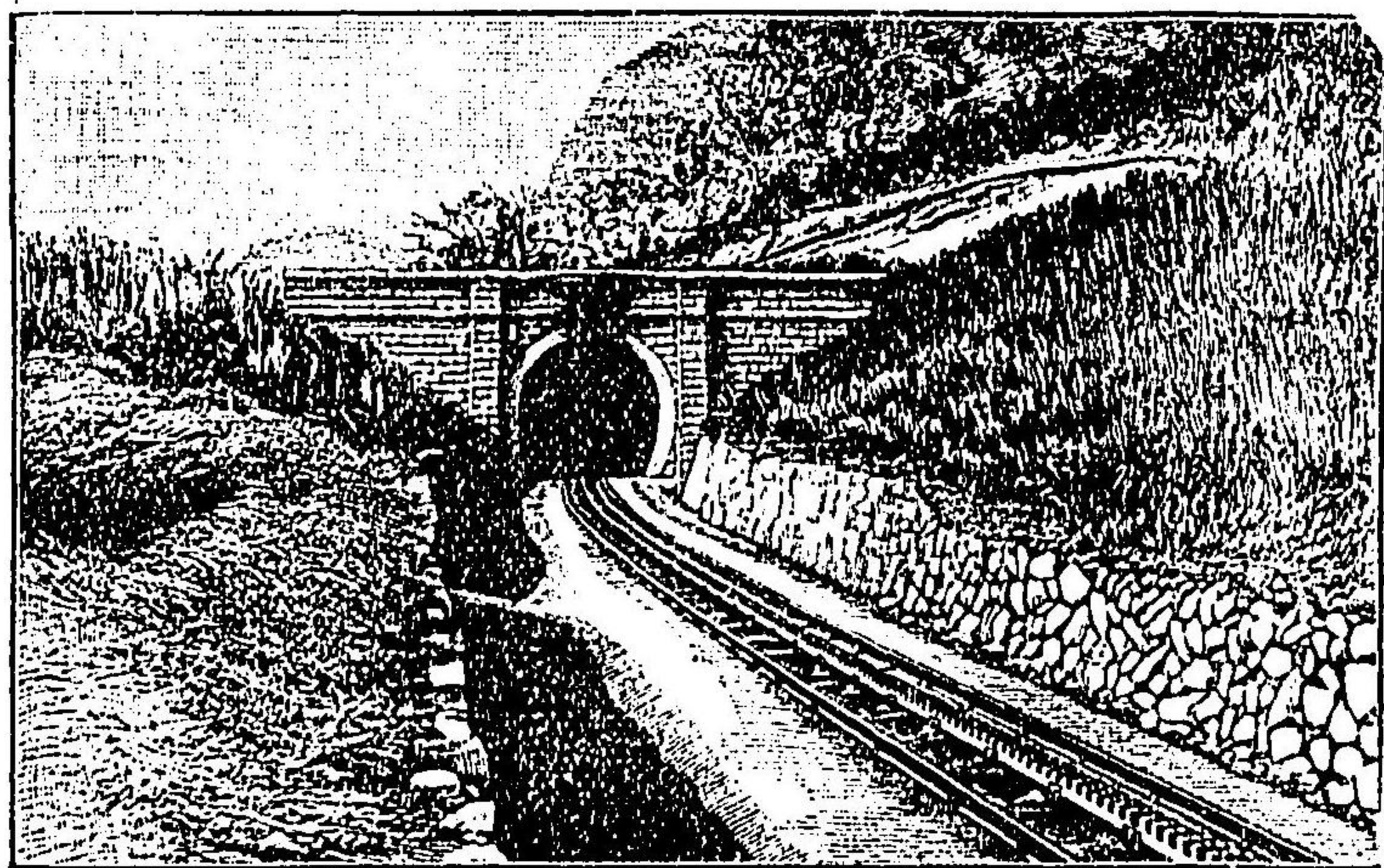


陽明門

の銅産地にして、之が爲に近時發達したる山間の小都會なり。○日本鐵道の兩毛線は、上野の前橋より來りて、足利枋木を経て小山に達し、此處にて、東北線及び水戸線と相會す。○足利町は、絹布の製出甚盛にして、足利絹の名世に高く、有名なる足利學校は今尙存す。

(細説) 日光線の途に當る鹿沼町は、近傍に産する大麻の市場にして市況頗繁盛なり。○宇都宮の東南に在る眞岡町は小都會なれども、眞岡木綿の産を以て著はる。但、現今は斯業に従事するもの稀なり。
男體山は八千尺の高峯にして山中に中禪寺湖あり、其の水落ちて華嚴瀧となり、直下七十五丈、終に流れて大谷川となり、鬼怒川に合流す。

群馬縣 前橋市は縣廳の在る所にして、利根川の上流に



道 隧 び 及 道 鐵 の 峠 氷 碓

臨む。生絲賣買甚盛にして、上州の生絲は、多く此所に集散す。
兩毛線は、前橋より來り、其れより伊勢崎桐生を経て下野に入る。○伊勢崎及桐生は、絹織物の製出夥く、足利と共に、本邦東部機業の中心たり。高崎町は、前橋の西南にあり。交通の要路に當れる

を以て、市況殷賑にして、製絲の業盛なり。歩兵聯隊の兵營をこゝに置く。其の東南にある富岡には、有名なる製絲場あり。

官設信越鐵道は、高崎線に連絡し、西の方妙義山の北麓を過ぎ、碓氷峠を越えて信濃に入る。碓氷峠は、中仙道第一の峻坂にして、鐵道は東洋唯一のアプト式(獨乙人アプトの創意に係る)により、十五分一の急勾配をなし、山中二十六個の隧道トネルを穿てり。

(細説) 朽木・群馬・兩縣の域即ち上野・下野の兩國は、昔毛野國と稱せしを、後分ちて上毛野・下毛野の二國となし、後現今の如く毛字を削り且稱呼をも改めたり。故に二國を併せ稱して兩毛地方と云ふ。

兩毛地方は、北部は、山岳重疊し特に火山多く、從ひて伊香保・

生業

草津等の温泉に富めり。南部は所謂關東平野の一部なれば、地勢平坦にして、蠶業大に開け、中にも上野の如きは、生絲・蠶卵紙の産出夥しく、機織の業甚盛なり。概して兩毛線の通過する地方は、蠶業の最盛なる處なり。

●生業 本區は氣候一般に適順にして、沃野遠く連り、河流湖沼に富み、灌漑の便宜しきを以て、米麥等の農産甚豊に、特に兩毛及び武藏地方は、桑樹栽培よく行はれ、從て蠶業大に發達し、生糸・繭・蠶卵紙の産出夥しく、機業又甚盛なり。○工業は機業の外に東京の綿絲・燐寸の製造等著名なり。○又一般に樹木の生育に適し、殊に兩毛山林の如きは夥く良材を産す。○礦産は足尾の銅を最多額とす。○沿海は概水族に富めるを以て、到る所多少の漁業行はれざ

る處なきも、特に房總半島の沿海を最も盛なりとす。○本區は此の如く物産に富み、且つ交通至便あるのみならず、東京及び横濱を始め、大都名邑の各地に散在せるもの甚多きを以て、從て商業頗盛に行はる。

中央區

當區は恰本邦の中央に位し、又中域の中部を占め、富士帶以西にある山海二道の殆全部を包括す。但地勢上より近江の一國を除き、縣域上より紀伊の一小部を加ふ。左に縣域を掲ぐ。

山梨縣(甲斐)

静岡縣(伊豆、但七島を除く、駿河、遠江) 愛知縣(三河、尾張)

三重縣(伊勢、伊賀、志摩、紀伊、小部)

岐阜縣(美濃、飛騨) 長野縣(信濃)

地勢

●地勢 中央區は、概山岳起伏し、山間の溪谷及び南方沿

海の地方に於て小平野を見るのみ。而して、山道の地域は地勢最高峻を極め、美濃の北境、飛信兩國の中央は、恰分水界を成し、之より地勢南北に傾き、河流は、此の兩斜面に沿うて、日本海若くは太平洋に注ぐ。

●氣候 南部の沿海諸國は、一般に温和にして雨量多し。北部の山國は、稍内地性の氣候にして、寒暑共に烈しく、且雨量寡く、特に信濃を最とす。但飛騨及び信濃の北境は冬季の雨量割合に多く、積雪丈餘に及ぶ處少からず。

●海岸 當區は南の一方太平洋に面し、海岸の出入寡からず。其の東端に斗出するは、伊豆半島にして、兩岸絶壁をなす。南端を石廊崎と云ひ、遠江の御前崎と相對して、駿河灣を擁す。灣内には、田子の浦、三保の松原等の勝地あり。御

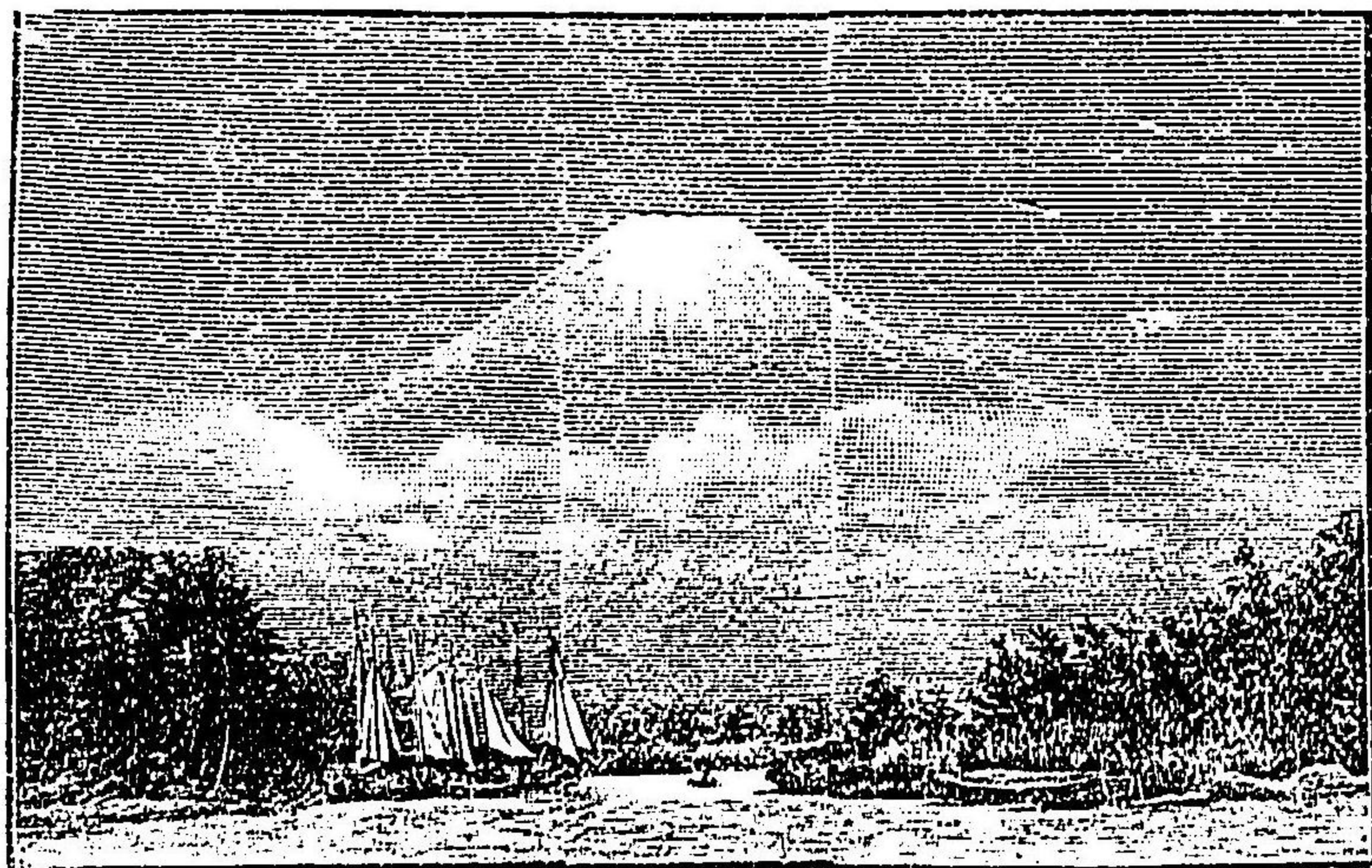
海岸

氣候

前崎より西遙に志摩の大王崎に至る間を、遠州灘と云ふ、波濤荒く、航海危険の處あり。海岸は、一帯平沙にして、中央に濱名湖あり。西部に突出するは、渥美半島にして、知多半島と共に、三河灣を抱き、志摩半島と相對して伊勢海の入口を扼す。海は北に向ひて灣入すること略十六里、沿海魚貝、海藻の利多し。

山誌

●山誌 東境は、富士帶火山脈、關東山脈等鬱結し、當區と關東區との間に、天然の障壁をなし、東西の交通を妨ぐる。こと頗大なり。富士帶火山脈は關東區に述べたる如く、遙に南洋に連りて、數多の火山島を起し、本州を横斷して、伊豆の天城山、相模の箱根山、駿河の富士山、甲斐の八ヶ岳、信濃の戸隠山等を噴起せり。天城山は、休火山にして、其の



富士山

(田子の浦より望む)

山林は多く良材を産す。富士山は、高一萬二千尺、山姿秀麗なること世界に稀なり。山腹に寶永山あり。山頂には、周回一里の舊噴火口あり。山麓には、諸所に湖水を泄へ、箱根の蘆湖と共に富士八湖の名あり。○赤石山脈は、北端富士帶に連り、大井川を挾みて南

走す。其の白峰山、赤石山等は高一萬尺以上に及ぶ。日蓮宗の本山たる身延山此の脈中にあり。○天龍川と木曾川との中間を西南に走れるは木曾山脈にして駒岳其の最高峰たり。○飛驒山脈は信濃と越中飛驒との國境をなし。本邦の山脈中最雄大なるもの、一なり。其の鎗岳、穗高山等皆一萬尺内外の高峰なり。此の山脈の西に連れる山地を飛驒高原とす。○當區西境の大部を塞けるは鈴鹿山脈及紀伊山脈にして、鈴鹿山脈には伊吹山及び鈴鹿峠あり。

(定義) 高原とは、通常海拔二百米以上に達する平地を云ふ。飛驒高原は、土地一體に高しと雖、群山到る處に起伏し、平地の見るべきものなし。故に眞の高原にあらず。

水誌

◎水誌 當區は飛信兩國の北部日本海斜面に屬し、他は

皆太平洋斜面に屬す。故に河流の重なるものは、信濃川を除くの外、富士、大井、天龍、木曾の諸河悉、南流せり。

信濃川は上流を千曲川と云ひ、信州東南境なる山地に發して北流し、犀川を合せて信濃川となり、越後に入り、遂に海に注ぐ。其の長、百里、本邦第一の長流なり。其の流域には、佐久平、松本平、長野平等ありて、信州第一の農産地たり。

木曾川は木曾の山中に發し、木曾飛驒兩山脈の峽間、凡、十數里の幽谷を西南流し、下流に至り、飛驒及長良川等を容れ、運輸灌漑の便を與へ、遂に伊勢海に入る。其の流域には、濃尾平野あり。地味肥沃、本邦屈指の農産地なり。(水利あれども水害多し)

天龍川は信濃の諏訪湖に發し、赤石、木曾兩山脈の縦谷を南流して、遠州灘に入る。其の沿岸に、伊那谷あり。(六十里の長流なれ)

交通

ども舟利は) 富士川は日本三急流の一なれども、甲斐より駿河に出づる唯一の便路なり。此の川は史上に名あり。
 (定義) 縦谷とは山脈と方向を同うする谷を云ふ。○縦谷に對し山脈を横斷するものを横谷と云ふ。

●交通 南部沿海地方は、道路一般に平坦にして、鐵道は概^テ國道に沿うて敷設せられ、海岸は良港に富めるを以て汽船の往來常に絶えず。故に此の地方は、海に陸に交通甚^ク便なれども、北部は山岳重疊し、峻坂通路を妨ぐるを以て、既に鐵道を開通せる一小部を除くの外は、來往尙不便あり。本區の主要なる國道は、凡^ソ三條あり。皆東京に通ず。(一)東海道は、沿海地方を經、鈴鹿峠を越えて近江に入り(二)中仙道は、碓氷峠等險阻の山道を越え、有名なる木曾路を通じ、

處誌

美濃を經て近江に入る。(三)又中仙道より分れて、越後に通ずる北國街道あり。○鐵道の主なるものは(一)東海道鐵道(二)關西鐵道(三)信越鐵道等なり。

●處誌

山梨縣(山梨縣域は四圍山岳を繞ら) 甲府市は國の中央にあり。縣廳所在の地にして、生絲葡萄酒を産す。縣下唯一の都會にして、貨物集散の中心なるを以て市況甚盛あり。東京より通ずる甲州街道は、桂川(馬入川)の溪間に沿うて本縣の域に入り、猿橋の奇工を以て名高き猿橋驛を過ぎ、笹子峠の峻道を越え、勝沼を經て此の地に達す。笹子峠の北に天目山あり。此等を含める連山、北より南に走りて土地を東西に分つ。其の東部(東及西)を郡内と稱し、

甲斐絹の製出盛なる處なり。甲府より富士川に沿うて、東海道に出づべし。富士川は激流なれども舟楫を通ずべく、水程十八里僅に半日に達す。若之を溯るには綱を以て、舟を曳き二晝夜を要す。は其の發着場なり。

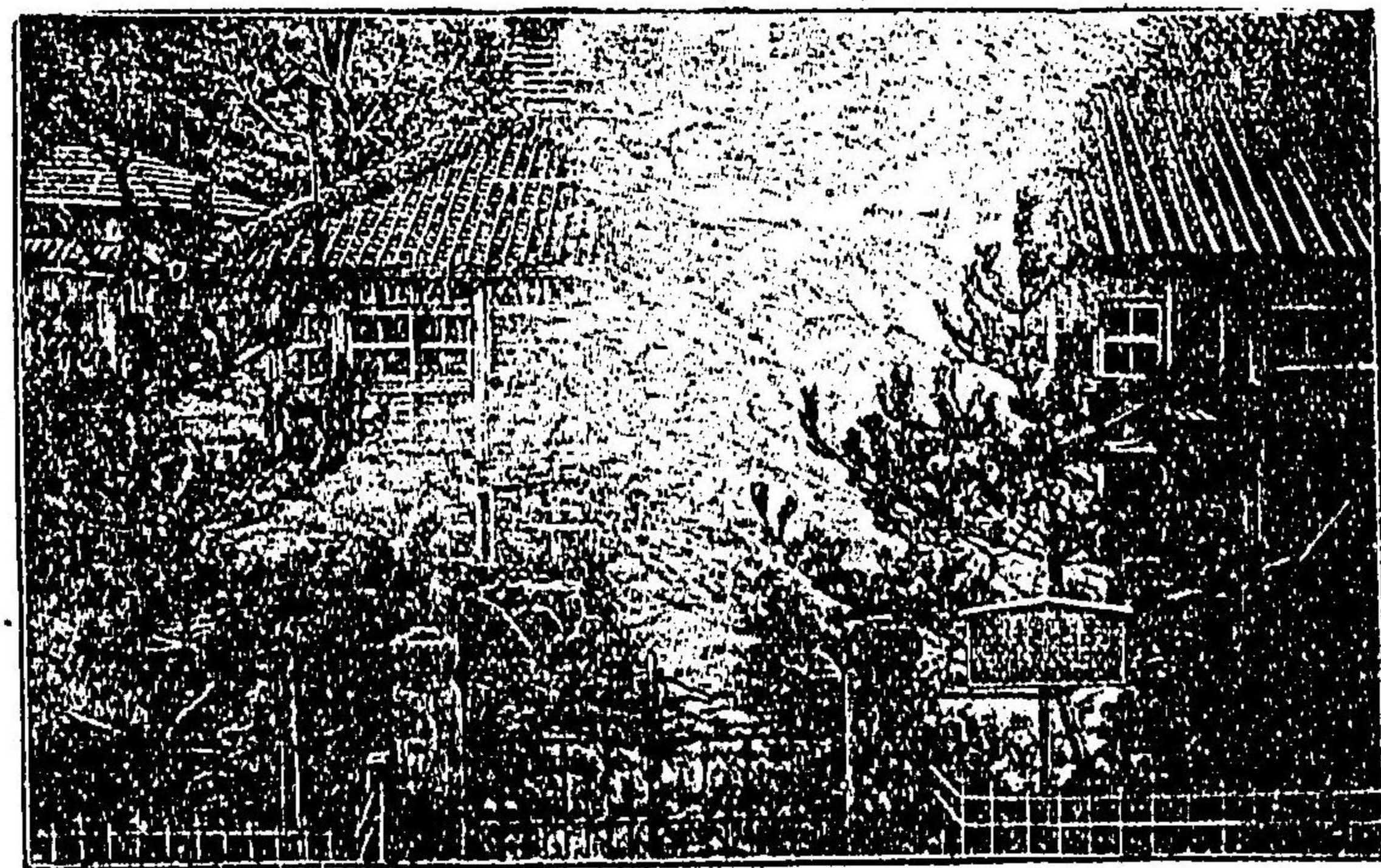
(細説) 金峰山・駒ヶ岳には水晶を、勝沼町には葡萄を産す。

静岡縣 静岡市は縣廳所在の地にして、又第三師團の分營を置かる。東海道鐵道の要路に當り、東京と名古屋との中間を占むるにより、市街繁盛にして、漆器竹細工等を産す。又製茶業盛なり。此の地もと駿府又は府中と稱し、昔徳川家康の退隱せし處にして、市の東方久能山には家康を祀れり。其の近傍の清水港は三保松原の砂嘴に抱かれたる佳港にして、開港場の一なり。茶の輸出夥し。

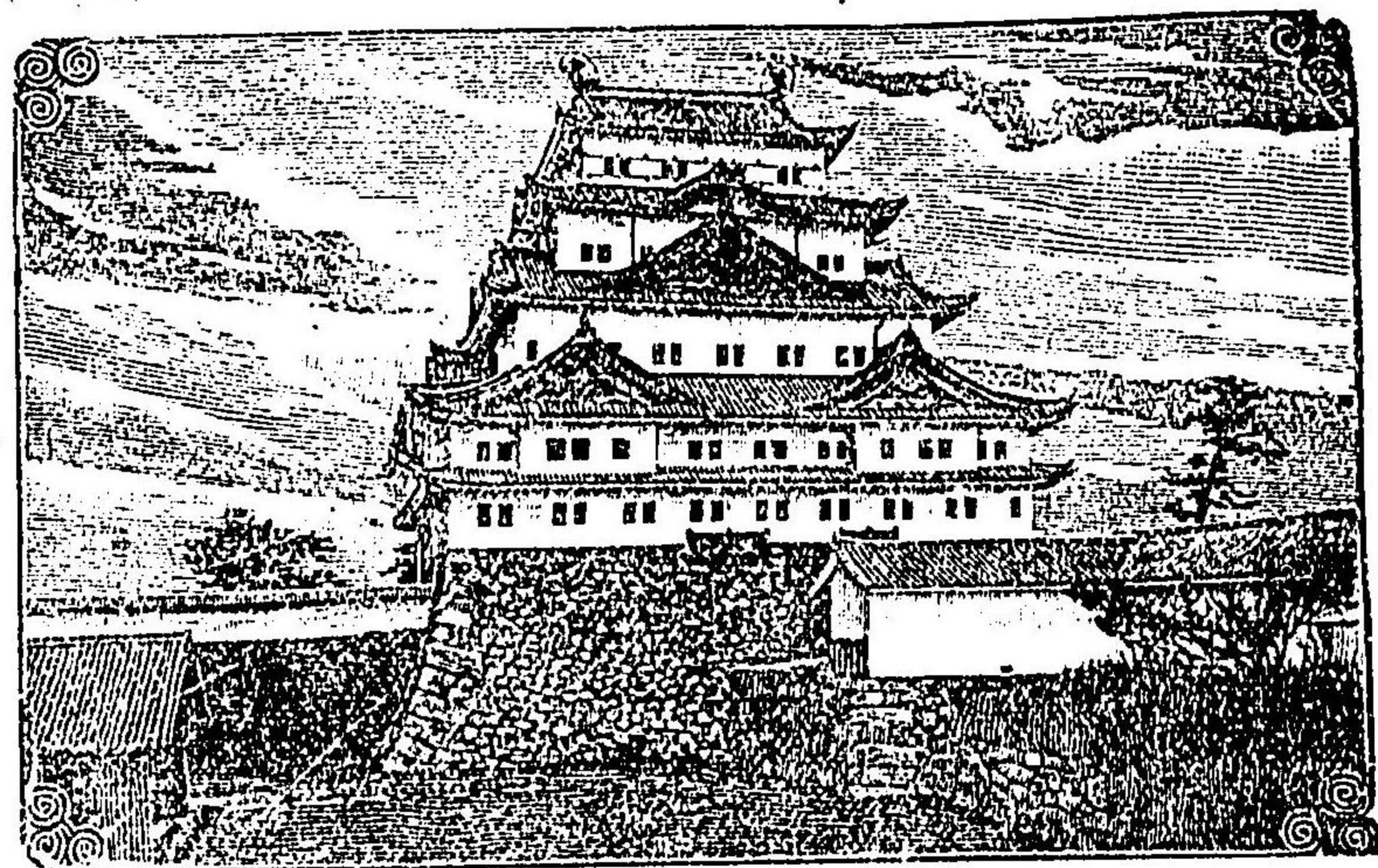
箱根山彙を迂回せる東海道鐵道は、有名なる箱根峠を越えて來れる國道と沼津に會し、相並びて富士山の南方駿河灣邊を西行し、富士川の急流を渡りて、静岡を通じ、それより大井川を越ゆれば遠江の域に入り、天龍川を過ぎ、濱松を經、濱名湖今切れの鐵橋を渡り、西走して三河の界に入る。沼津町は、駿河灣の東北隅に瀕す。此の邊は氣候溫和にして、風景甚明媚なるを以て、頗保養に適す。此所より狩野川を溯れば伊豆半島の地に入り、韮山・修善寺の附近を過ぎ、天城峠を越え、尙南行すれば下田港に達す。下田は良港にして、もと開港場たりし所なり。

伊豆半島には火山脈通過せるにより、處々に温泉を涌出

す。修善寺熱海は其の最著明なるものなり。熱海町は半島の東北隅にあり。大湯と稱する間歇温泉あるを以て名高し。熱海小田原間には人車鐵道あり。濱松町は遠州第一の都會にして、市街繁華、茶の輸出盛なり。其の北方に三形原の古戰場あり。



熱海間歇温泉噴出の景



名古屋城

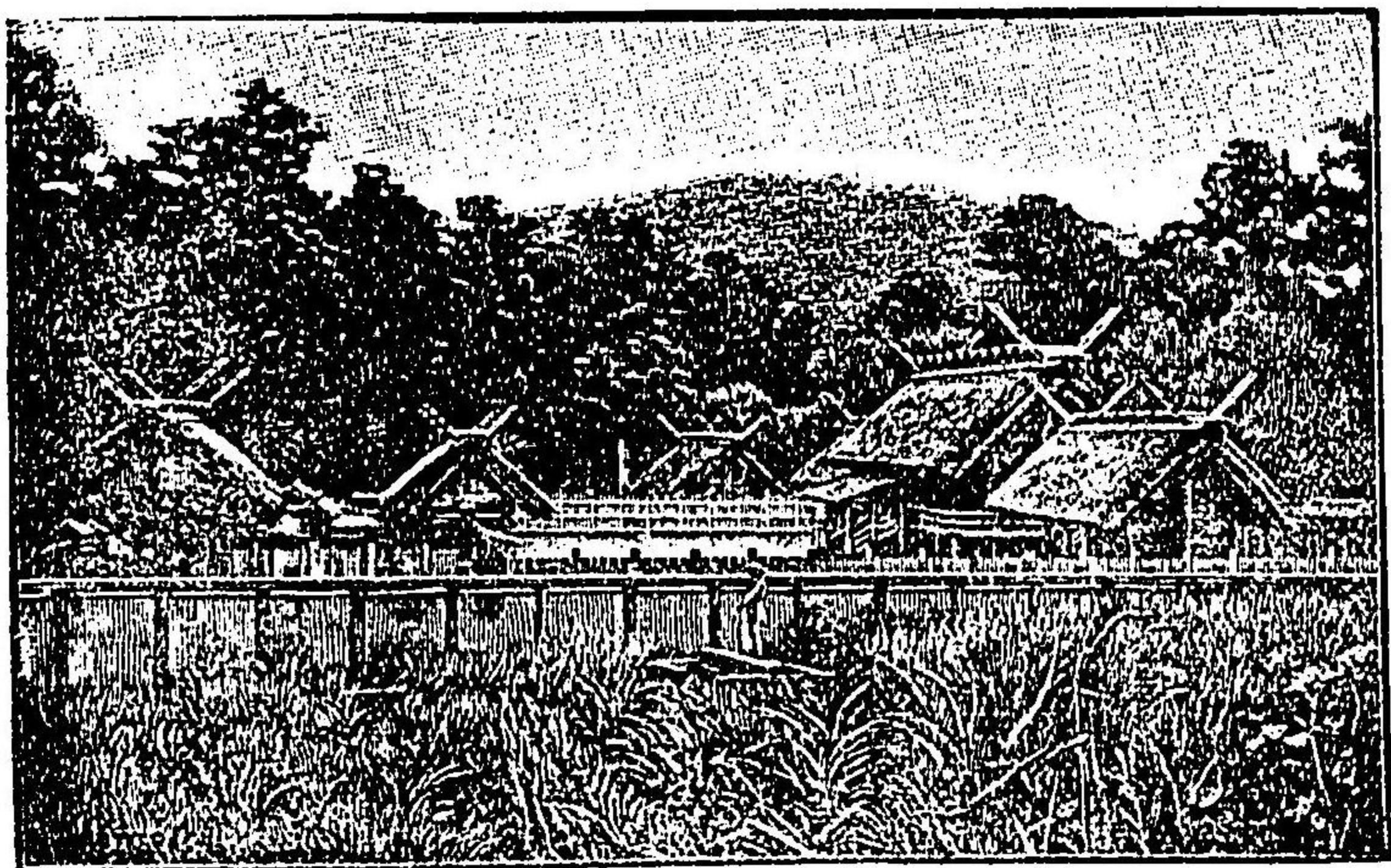
愛知縣名古屋市は縣廳の所在地あり。濃尾平野の南部、東西兩京の衝路を占め、要津を其の附近に控へ、水陸の交通頗便なれば、既に舊幕時代より繁華の地たりしが、今は人口殆廿四萬餘に達し、吾が國第四の大都會となり、今後益盛大となるべき傾向を現

せり。此の地もと徳川氏三家の一なる尾張家の城下に
して、有名の金城は、市北にあり。今は、第三師團の司令部を
置かれ、舊牙城は離宮となれり。産物は、織物・漆器・七寶・燒名
古屋扇等著名なり。市南に接する小都會は、熱田町にし
て、有名なる熱田神宮あるにより、單に宮とも云ふ。伊勢路
に渡る要港なるを以て、市街頗る繁華なり。其の以南知多
半島の東岸に半田・武豊あり。共に東海道鐵道の支線に沿
ひ、半田は酢酒の産地として世に知られ、武豊は貿易港な
り。半島の西岸、伊勢灣に瀕して、常滑町あり、陶器を出す。
東海道鐵道は、遠江より來り、豊橋・岡崎を過ぎ、尾張に入り、
桶狭間の古戰場附近を通じ、熱田・名古屋・清洲を經、木曾川
を渡りて、岐阜縣の域に入る。○國道は熱田より東海道鐵

道に分れ、名古屋を起點とする關西鐵道と相并びて西行
し、木曾川を越えて、伊勢に入る。
豊橋町は、豊川に臨み商業繁盛なり。此の地に歩兵第十七
旅團司令部の設あり(歩兵第十八聯隊は廿七八年)。豊川の
上流に、鳳來寺山あり。其の南に長篠の古戰場あり。岡崎
は徳川氏創業の地にして、矢作川に臨む。矢作川は其の
支流大平川及び豊川と共に國中の大河にして、三河國名
の由て來る處とす。

(細説) 本縣下は、昔戰國の世に、名將勇士、雲の如く起りし地
なるにより、史上に名高き舊蹟頗多し。○産業には、木綿及び
陶磁器の製出甚盛にして、其の産額は共に全國第一に位し、
瀬戸燒・鳴海・三河木綿最著名なり。
尾張の東北隅にある瀬戸町は、陶業甚盛なり。有名なる長

久●手●の●古●戦●場●其●の●附●近●に●あ●り●。●又●尾●張●の●北●境●に●犬●山●焼●を●
 産●す●る●犬●山●あ●り●。●其●の●南●方●に●は●史●上●に●名●高●き●小●牧●山●あ●り●。
 三●重●縣● 津●市●は●阿●漕●浦●に●臨●み●縣●廳●所●在●の●地●に●し●て●商●工●
 業●共●に●盛●な●り●津●紘●子●阿●漕●焼●の●名●産●あ●り●。●參●宮●鐵●道●は●之●
 より●南●に●松●坂●を●經●て●宇●治●山●田●に●達●す●。●松●坂●町●は●商●業●繁●
 盛●に●し●て●松●坂●縞●の●産●地●た●り●。●宇●治●山●田●町●(宇●治●は●南●に●山●田●
 の●相●距●る●三十町許)●は●宮●川●に●臨●み●大●廟●の●鎮●座●す●る●所●に●し●て●山●田●の●
 外●宮●に●は●豐●受●太●神●宇●治●の●内●宮●に●は●天●照●太●神●を●奉●祀●せ●る●
 に●よ●り●四●時●參●拜●す●る●者●絶●え●ず●爲●に●市●況●盛●な●り●春●慶●塗●及●
 び●御●山●杉●の●細●工●を●産●す●。●二●見●浦●朝●熊●山●の●勝●地●は●共●に●其●
 の●附●近●に●あ●り●。●鳥●羽●港●は●志●摩●の●北●海●岸●に●あ●り●天●然●の●良●
 港●な●れ●ご●も●陸●路●の●交●通●不●便●な●る●に●よ●り●船●舶●の●出●入●頻●繁●

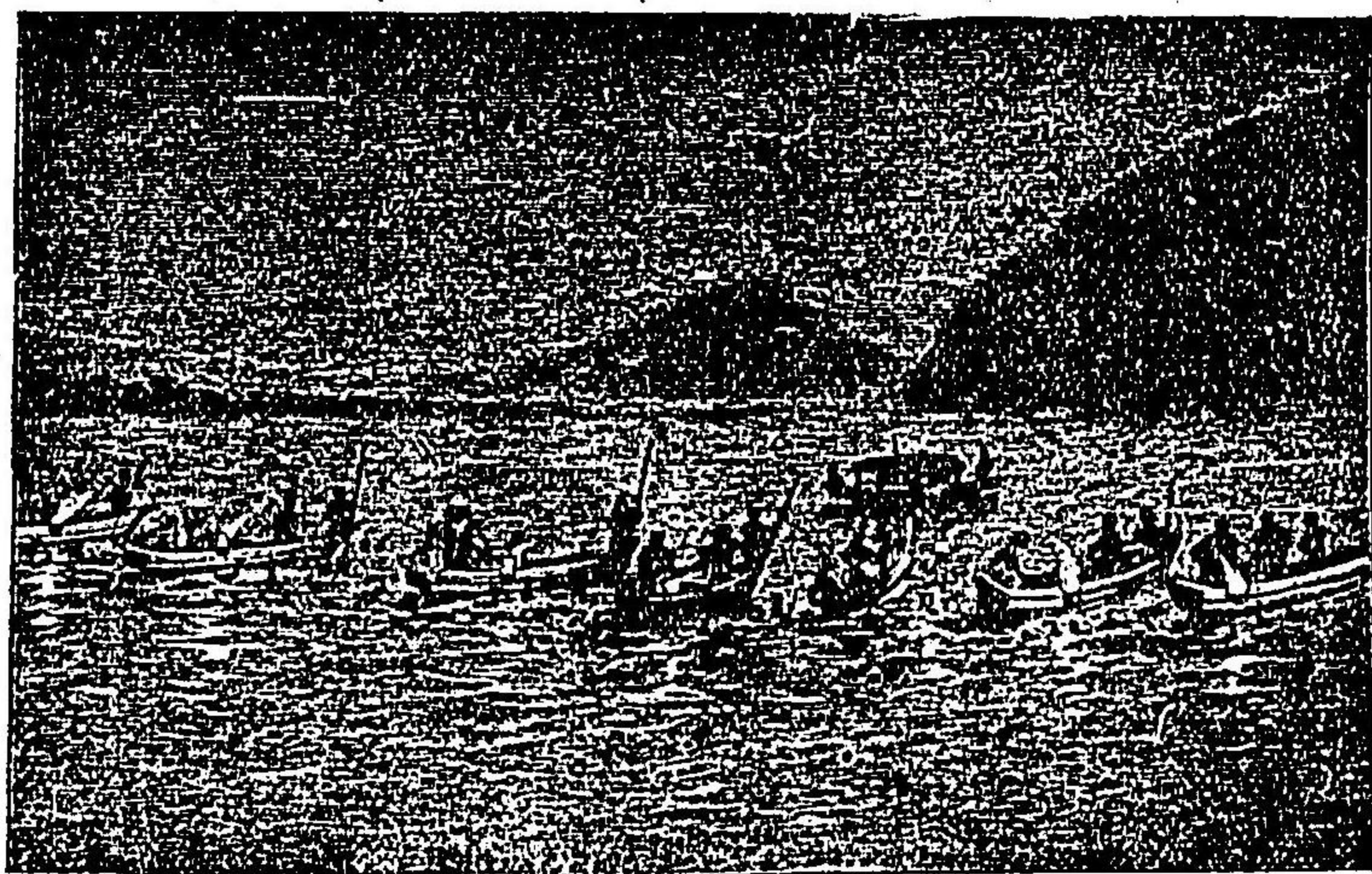


伊 勢 大 廟

關●西●鐵●道●は●名●古●屋●よ●
 り●國●道●に●沿●ひ●て●來●り●
 桑●名●四●日●市●を●過●ぎ●能●
 褒●野●を●右●方●に●見●龜●山●
 に●達●し●之●よ●り●支●線●を●
 津●市●に●通●じ●て●參●宮●鐵●
 道●に●連●絡●す●。●幹●線●は●
 關●に●て●鈴●鹿●峠●に●向●へ●
 る●國●道●に●離●れ●伊●賀●の●
 柘●植●に●至●り●一●線●を●分●
 岐●し●近●江●の●草●津●に●至●

りて、東海道鐵道に會し、幹線は伊賀第一の名邑上野を經て山城大和を過ぎ、大阪に達す。
 桑名町は揖斐川口にあり、熱田に渡る要津にして、米穀の取引甚盛なり。時雨蛤の名産あり。四日市市は伊勢灣の要津にして、貿易場の一なり。陸路南北に鐵道を通じ、横濱との間に定期の汽船常に往復するにより、商工業共に盛にして、紡績萬古燒等の業大に行はる。

(細説) 本縣管内に屬する紀伊の一部は、熊野川及び其の支流北山川によりて境す。北山川の下流に瀨八町の勝地あり。岐阜縣 岐阜市は縣廳所在の地にして、長良川に臨み、鐵道の便を占め、商業盛なり。提灯團扇縮緬美濃紙等の名産あり。長良川の鵜飼は、古來奇觀を以て其の名高し。岐



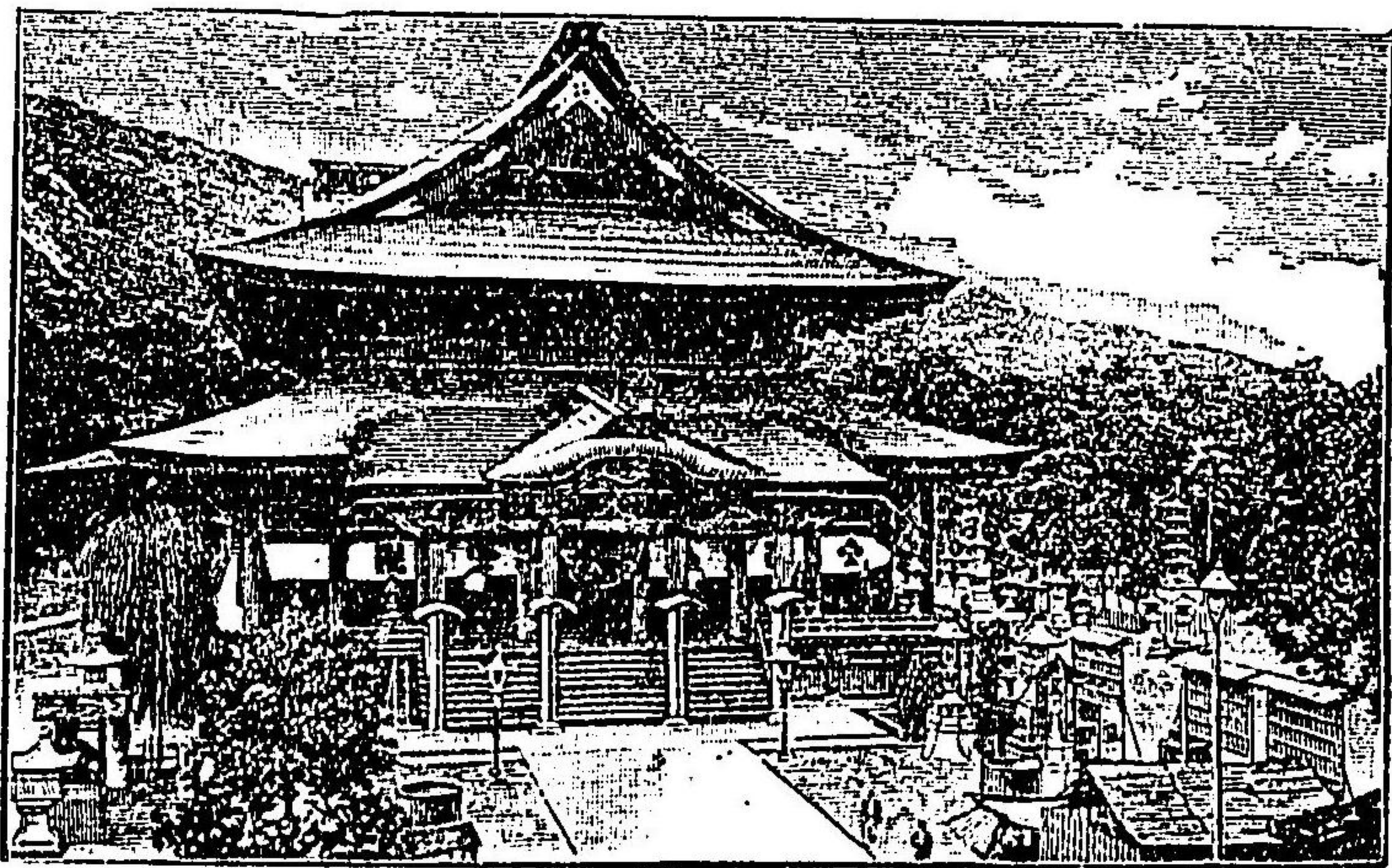
長良川の鵜飼

阜の西瀛車程二十分の處に、大垣町あり。此の地は、揖斐川に臨み、桑名との間に通舟の便あれども、有名なる水害地たり。
 東海道鐵道は、略中仙道の國道に沿ひ、岐阜大垣を通じ、養老山の北方、有名なる關原古戰場を過ぎ、伊吹山の南麓を超え、近江の域

に入る○岐阜より東中仙道に沿ひ、木曾川の沿岸を溯れば、信濃の境に入り、東北行して、飛驒川の沿岸地方を過ぐれば、飛驒の中央なる高山に至る。

高山町は、山間の小都會にして、生絲・陶器・春慶塗を出たす。西南に聳ゆる位山は、全山水松を産するを以て名あり。此の地より北陸地方に出づるには、宮川の沿岸に沿うて下るべし。宮川に合流する高原川を溯れば、茂住・神岡等本邦有数の銀山あり。

長野縣 長野市は縣廳の在る所にして、天台宗の巨刹、善光寺此處にあり。市の南方千曲川と犀川とに擁せらるる地方を、川中島と云ふ。上杉・武田兩氏の古戰場あり。長野より犀川の沿岸を溯れば、松本を経て中仙道の往來に出



善 光 寺

づべし。松本町は縣下第二の都會にして、蠶業甚盛に、商業頗活潑なり。

岐阜縣より本縣の域に入り、中仙道の往還に従ひて東北行すれば、木曾・飛驒兩山脈の峽間木曾谷を通ず。此の邊一帶の大山林は、有名なる木曾の良材を産す。木曾山脈の

北端なる鹽尻峠を越ゆれば、冬季氷上に人馬を通ずるを以て名高き諏訪湖の近傍下諏訪を過ぐ。その附近の地方を諏訪平と稱す。蠶業甚盛にして生絲の産額本縣第一なり。湖水は南流して天龍川となる。其の河岸なる伊那谷に飯田町あり。此の地信濃より東海道に出づる要路に當り、市街賑なり。元結を産す。下諏訪より和田峠を超え、淺間山の麓を過ぎ、碓氷峠の峻坂を越ゆれば、上野に入る。碓氷峠は東海道の箱根峠と相並びて關東の境をなせり。信越鐵道は上野の高崎より來り、碓氷峠を越えて西行し、追分驛より、中仙道に離れ、千曲川の沿岸に沿ひ、生糸・紬の名産地なる上田町を過ぎ、田毎の月を以て名高き姨捨山を左方に望み、長野市を過ぎ、戸隠山を左に見て、越後に入

生業

る。

◎生業 沿海地方は、伊豆志摩の二國を除くの外、一般に平野多く、地味概肥沃なるを以て、農産甚豊に、特に尾張は、濃尾平野の大部を占め、耕地の多きこと、全國に比なく、従ひて米・麥の産額は、本區中第一位を占む。茶の産出は、駿遠地方最多く、實に本邦中に冠たり。北部の山國は寒氣強く、土地概瘠薄なるを以て、米・麥等の産出は、甚寡少なれども、地味桑樹の栽培に適するを以て蠶業大に行はれ、生絲・繭蠶卵紙・眞綿等の産額夥し。中にも信州地方最盛にして、全國中第二に位す。◎林産は、木曾の山林、最名高く、本邦の最大美林と稱せらる。又天城山林之に亞ぎ、多く良材を産出す。◎礦産亦寡からず。岐阜縣の銀は本邦第二に位し

遠州の石油は越後より亞ぐ。○本區は、又工業盛にして、諸種の製作品を出す。紡績業は、三重・愛知兩縣最盛にして、機業は、愛知縣の木綿織及び甲信地方の絹織物を重要とす。陶磁器は、美濃の美濃焼、尾張の瀬戸焼及び犬山焼の産額最も多く、伊勢の萬古焼これに亞ぐ。○沿海は、一般に漁利多けれども、特に志摩半島の近海を最とす。

北陸區

當區は若狹・越前・加賀・能登・越中・越後・佐渡の七國を包括する北陸道の全體にして、現時之を左の四縣に分轄す。

新潟縣(越後佐渡)

富山縣(越中)

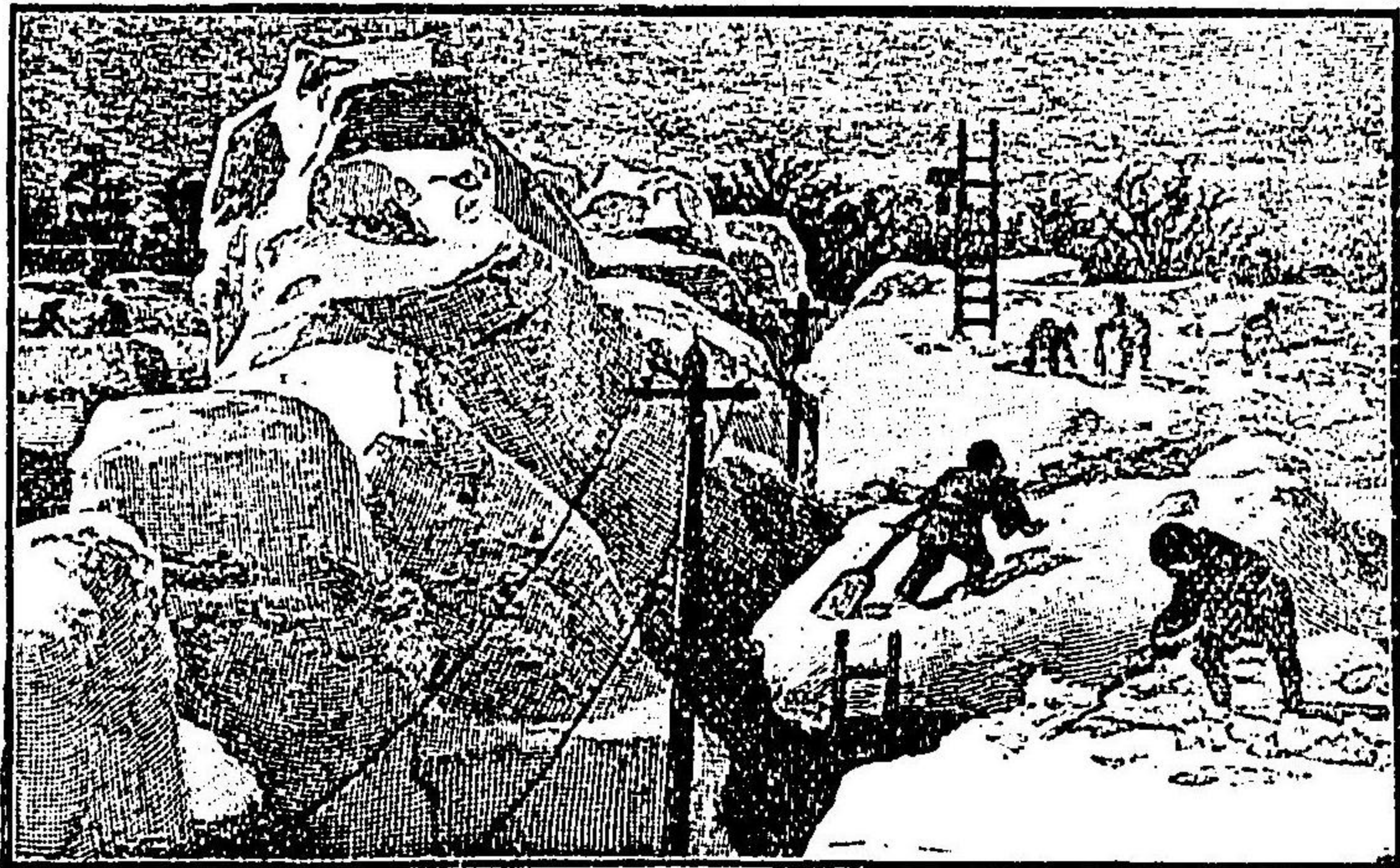
石川縣(加賀能登)

福井縣(越前若狹)

地勢・氣候

●地勢・氣候 北陸區は、連山東南の境を限り、地勢日本海

北越深雪之景



此圖は明治二十六年三月三日の撮影に係る長岡町深雪の景なり。此の階二家町は所き低段一右左よせ視法にさ柱信電さ子梯見ノ火りたし下りよ根屋の家町はのもし如の山く高に央中りな根屋の建(側實)尺六丈五立直さ高の其てにのもるたげ上み積を雪る

に向ひて緩斜し、河流悉、北流す。大河の沿岸及び沿海地方に小平野あり。○氣候は、冬季寒烈なる西北風多きも、對馬海流の影響を蒙り、寒氣甚しからず。寒暑の度は略關東地

海岸

方と同じく、但、冬季積雪深きは全國中其の比を見ず。
●海岸 海岸の中央に斗出するは能登半島にして、其の東北端なる珠洲崎附近は舟行最、危険なり。半島の東側に、七尾港を有する七尾灣あり。其の東南は富山灣にして、灣内に伏木の開港場あり。之より以東は、平直にして、信濃川の口に新潟港あるのみ。海上の佐渡島は、地形分銅に似たり。本域の西端なる若狹灣は、灣内屈曲多くして、敦賀の良港を有せり。

山誌

●山誌 越後の東南境には、羽越山脈あり。阿賀、川之を横ぎりて、東西の通路を開け、其の他は、漸清水越の如き、嶮道を通ずるのみ。越後の西南に崛起する妙高山及び焼山は、富士帶火山脈に屬し、越中の境をなせる連山は、高峻

水誌

なる飛驒山脈の續きにして、北端は直に海に迫りて、斷崖を成す。其の海濱を通ずる街道は、所謂親不知、子不知の嶮かるが、今は山腹に新道を開けり。○越中、加賀、越前の南境は、飛驒高原の諸山蟠踞して、交通便ならず。加賀の東南境に聳ゆる高峰は白山にして、之より小山脈北に走りて越中、加賀の境を限る。此の脈中に俱利伽羅峠あり。近江の北境は、中國山脈の東端にして、其の西にある若狹は、地勢上寧、山陰道に屬すべきものなり。

●水誌 本域中、平地の最大なるものは、越後平野にして、信濃川、阿賀、川の巨流之を濕ほし、地味肥沃にして、多く米を産す。此の地方を管する新潟縣は、米の産額全國に冠たり。神通川、射水川は、共に飛驒高原に發し、北流して富山

交通

灣に入る。其の沿岸は、飛驒に通ずる便路にして、下流地方は地味肥え、越中米の産地たり。○湖沼は、大抵瀧と稱する海岸湖にして、面積は皆廣からず。加賀の河北瀧は、其の最大なるものなれども、周回僅に六里に過ぎず。

●交通 本域は、連山南境を塞ぎ、支脈北に走りて國境を限り、海岸は屈曲に乏しくして、良港少く、且冬季は風強く浪荒きにより、航海殆ど絶するを以て、舊時は海陸共に交通頗る不便なりしが、近年鐵道の延長に従ひ、漸く不便の憾なきに至らんとす。國道は信濃より通ずるものを、北國街道とし、沿海地方を通ずるものを北陸道とす。○鐵道は(一)信越鐵道(二)北越鐵道(三)官設鐵道北陸線の三線を其の重なるものとす。

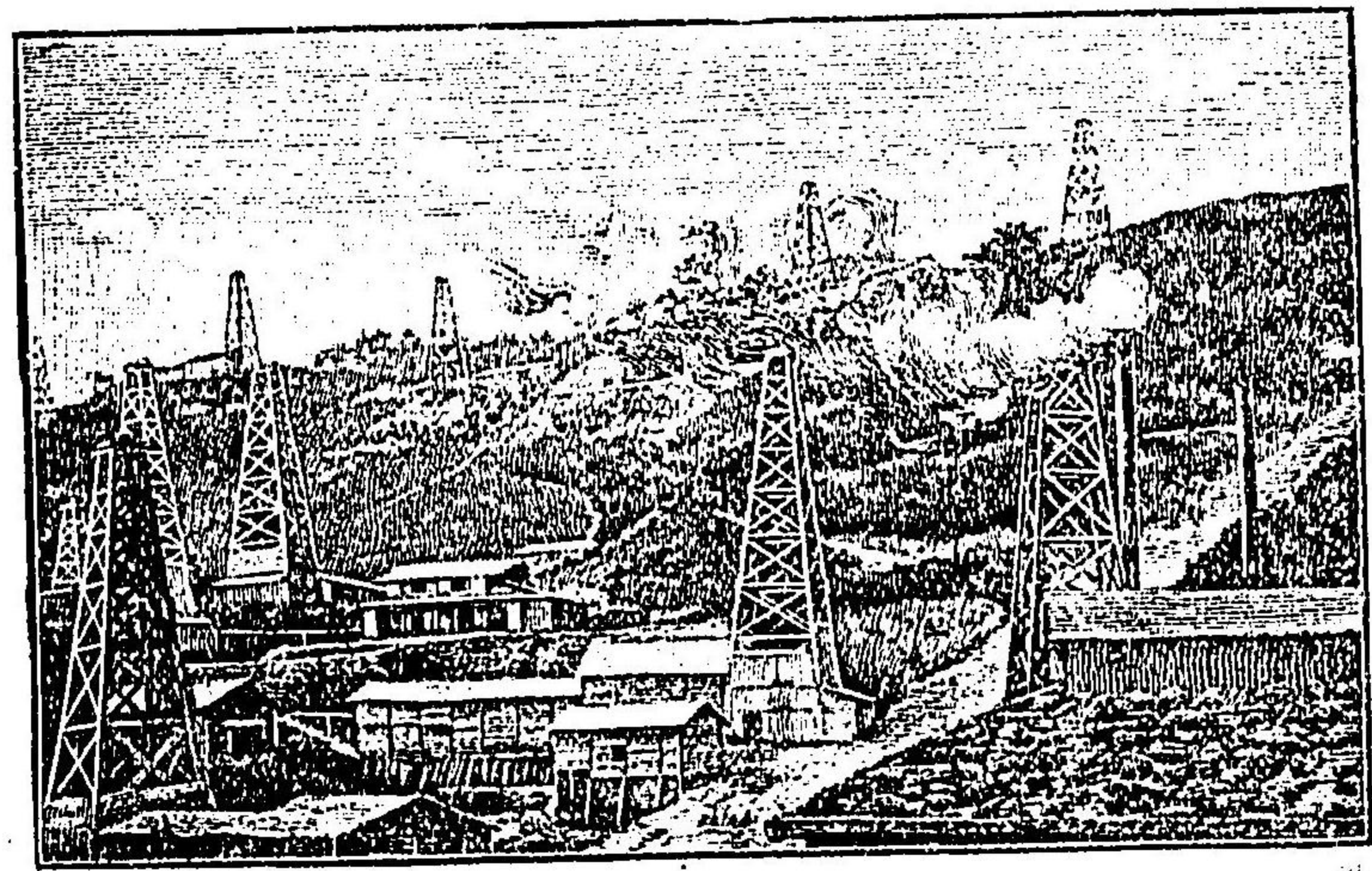
處誌

●處誌

新瀧縣 新瀧市は信濃川口に臨み、縣廳所在の地にして、開港場の一なり。市況繁華にして、商業活潑なれども、河口に砂洲ありて船の碇泊に便あらざること、冬季は日本海の航海殆ど絶ゆることにより、貿易は極めて微々たり。新瀧の東方に新發田町あり。歩兵聯隊司令部を置く。新瀧の南阿賀川の中流に、五泉町あり。絹織物の名産地なり。北陸鐵道は新瀧の對岸沼垂町より、三條長岡を経て信濃川を渡り、製油業の盛なる柏崎に至り、新瀧より海岸に沿うて來れる國道と會し、相並びて直江津に至る。

●長岡町は、信濃川に臨み、小汽船は常に新瀧に往來し、上流小千谷地方に産する、越後縮賣買の中心に當り、且東方(二)

浦 瀨 石 油 坑



明治三十三年十月の調査によれば採油の井の油井の及及び手掘り合せて十六坑内外及び一日平均三百五十六石の産出あり

半)には北越屈
指の石油産地
なる浦瀨を控
へ、製油業甚盛
なるを以て、市
況極めて殷賑
にして、商業頗
活潑なり。直
江津町は小錨
地なるも、船舶
の出入頻繁に
して、鐵道は南

信越線によりて東京に連絡し、東北越線によりて新潟に
通ずるを以て、百貨輻湊し、商業繁盛なり。直江津の南に
名邑高田町あり。新潟より、西北の海上に佐渡あり。其の
相川町は、島中第一の名邑なり。其の東北に有名なる金北
山を控へ、市況繁華にして、無名異焼の産あり。眞野灣に
は順徳帝を奉祀せる眞野宮あり。夷小木は、共に佐渡の
要津にして、越後の諸港と往復繁し。特に夷(新潟を距る川二湮)は天
然の良港なり。
富山縣 富山市は縣廳所在の地にして、縣の中央を貫け
る神通川に跨り、北方に富山灣を控へ、且北陸鐵道の終點
に當れるにより、市街繁盛なり。此の地は、藥種商多く、その
賣子は全國到る處に行商し、反魂丹、熊膽圓等の名古より

世に知られしが。今は朝鮮支那等の海外にも輸出するに至れり。

越後より來る北陸街道は、親不知の嶮附近を過ぎ、魚津を經富山に達す。北陸鐵道之より國道に沿ひて西走し、高岡を過ぎ、天田越を越えて、(俱利伽羅峠の北約一里)石川縣の域に入る。

高岡市は縣下第二の都會にして、銅器漆器等を産す。

高岡の北方に伏木あり。開港場の一にして、主として米を輸出す。

石川縣 金澤市は、もと日本第一の大諸侯前田氏の城下たりし地にして、舊時は三都に次ぐ繁昌なりしも、維新後に至りて、漸衰頽し、今や人口八萬餘に過ぎず。而も尙北陸第一の大都會にして、石川縣廳第九師團司令部第四高等

學校、金澤醫學專門學校を置く。兼六園は、市の中央に位し、日本三公園の一と稱せらる。絹布銅器陶器漆器等の名産を出だす。

越中より來る北陸線路は、津幡より能登半島に支線を岐ち、七尾に達す。本線は金澤を過ぎ、小松大聖寺を経て、福井縣に入る。

七尾町は七尾灣に臨む。開港場の一あり。輪島町は、日本海に瀕し、堅牢を以て名ある輪島塗(又能登塗とも云ふ)の産あり。

小松及び大聖寺は共に加賀絹九谷焼の名産を出たす。安宅關址は小松の近傍にありしが、今は海中に沈降せりと云ふ。

(細説) 富山・石川兩縣下は、美術・工藝の盛なること三都に次

く。蓋此の地は舊前田氏百餘萬石の領地なれば、豊臣氏滅びて、徳川氏之に代はるや、工業家の江戸に快からざるもの、多く此の地に集りしが故なるべし。

福井縣 福井市は、足羽川に跨り、縣廳の在る地なり。近年羽二重絹手巾の製造盛に行はれ、多く海外に輸出し、また奉書紬を産す。市中に、新田義貞を祀れる藤島神社あり。坂井港は、(一に三國港と云ふ)九頭龍川の河口に位し、福井と漕運の便あり。

北陸鐵道は、北は加賀に通じ、南は福井・武生・敦賀を過ぎて、近江に入り、東海道鐵道に連絡す。武生町は元府中と稱せり。又物・蚊帳・鳥子紙を産す。敦賀港は、北國第一の要津にして、開港場の一なり。港内水深く

生業

して大船を容るべく、陸路は、北陸の咽喉に當り、南は汽車により、七時間にして大阪に達すべく、運輸交通の便を占め、將來頗有望の地なり。第十八旅團司令部あり。敦賀の西南方に小濱あり。若狹塗瑠瑠細工の名産を出す。港は若狹の要津なり。

◎生業 本域の平野は、地味一般に肥沃にして、多く米を産す。所謂北國米にして、特に越後米・越中米の産額を最多とす。○沿海は、一帯に漁利に富み、特に能登の海岸には、製鹽業行はる。○鑛産は、佐渡の金・銀古來最名高く、越後の石油は、近年著しく噴出の量を増加し、今は東洋屈指の大産地となれり。いまだ内地の需用を充すに足らざれども、前途頗有望なり。○近時蠶業大に開け、盛に諸種の織物を製

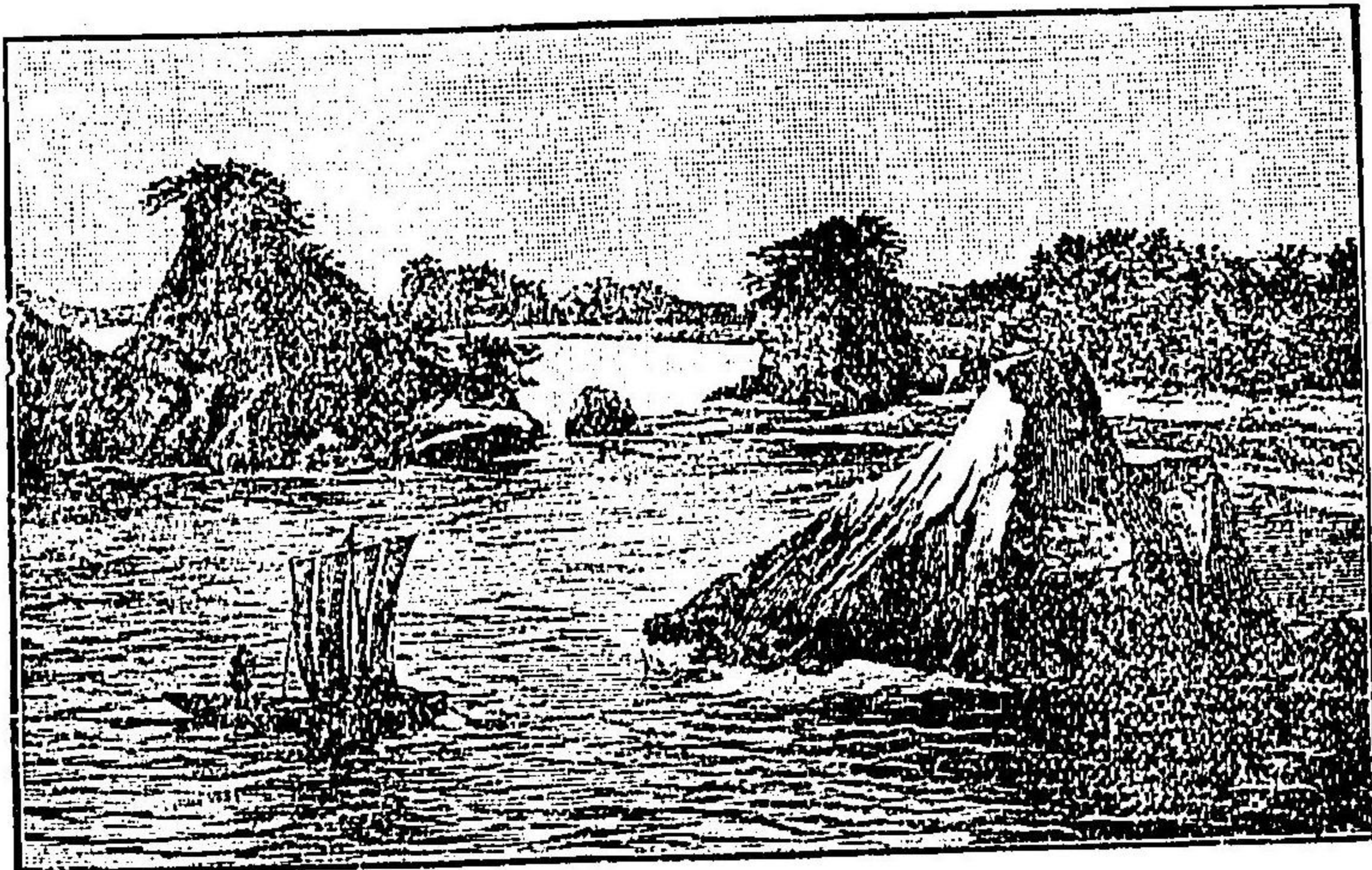
出す。其の最盛なるは福井縣にして、羽二重奉書紬等を産し、絹織物の産額は、京都・群馬に亞ぐ。此の他越後の越後縮、越後上布・五泉平及び加賀の加賀絹等最名あり。陶漆器は、石川縣の産最多く、且九谷焼は精美を以て、輪島塗は、堅牢を以て、共に世に聞ゆ。製紙は、福井縣の奉書及び鳥子紙最名あり。

奥羽區

當地域は、舊奥羽の地にして、本州の東北に位し、岩代・磐城・陸前・陸中・陸奥及び羽前・羽後の七ヶ國を包括し、現今之を左の六縣に分轄す。

- 福島縣 (岩代・磐城大部)
- 岩手縣 (陸中大部・陸奥及陸前小部)
- 秋田縣 (羽後大部・陸中、小部)
- 宮城縣 (陸前大部・磐城小部)
- 青森縣 (陸奥大部)
- 山形縣 (羽前全部・羽後小部)

地勢・氣候



松島一部の景

●地勢・氣候 當區は、分水山脈其の中央を南北に走り、地域自東西に兩分し、之に或は並行に或は直角に連れる山脈あり。北上阿武隈最上等の大河其の間を曲流し、河谷は稍、狹長なる平野をなす。○本區は、地域本州の東北に偏せるに、より、關東地方に比す

海岸

れば、氣温一般に低く、特に冬季長く、寒氣頗強けれども、西
 海岸は對馬暖流の影響を蒙るを以て、常に寒流に洗はる
 ゝ東海岸に比すれば、温度著しく高く、雨量も遙に多し。
 ●海岸 北端は、斗南津輕の兩半島、相并び突出して、陸奥
 灣を擁す。灣内の大湊は、有望の良港にして、軍港の豫定地
 なり。津輕半島の北端は龍飛岬にして、斗南半島の北端は
 尻屋大間の兩岬なり。太平洋沿岸は、北部は一帶に砂濱
 なれども、中部は鋸齒状をなせる懸崖絶壁にして、良港に
 乏しく、牡鹿半島斗出して仙臺灣を擁す。是より以南は、亦
 平坦なる砂濱をなす。仙臺灣内には、松島の群嶼、星列碁布
 し、風光絶美、眞に日本三景の一たるに耻ず。又荻の濱、石巻
 等の要津あり。日本海沿岸は、一帶平直にして、男鹿島半島

山誌

斗出して、八郎潟を擁す。半島の沿岸は、奇景に富み、灣口の
 船川港は良港なり。
 ●山誌 分水山脈は、當區の脊梁山脈をなし、火山の噴起
 多く、峻嶽高嶺に富み、東西交通の天險をなす。磐梯山、吾妻
 山(岩代)、岩手山(山中)、八甲田山(奥陸)等皆火山にして、著名の高峰な
 り。○分水山脈の東に之と並走する阿武隈北上の兩山脈
 あり。阿武隈山脈は阿武隈川の東側に沿うて南に走る。脈
 中の靈山(リウジン)は南朝の忠臣北畠顯家の城址あり。北上山脈
 は北上川の東側に連亘し、仙臺灣によりて斷絶せらる。早
 池峯山は脈中の高峰なり。釜石鐵山には多量の鐵鑛を産
 す。○分水山脈の西に、之と並走せるものは、羽越山脈にし
 て、亦火山に富み、河流諸處に之を横斷す。飯豊山、月山(前羽)、鳥

海山(羽)岩木山(陸)等の名山あり。飯豊山を除き其の他は悉、火山あり。

水誌

●水誌 北上川は、分水北上兩山脈の間を南流して、石巻港に注ぐ。長七十餘里、流勢概緩にして、水運灌漑の利に富めること、實に奥羽區第一に位するのみならず、又本邦屈指の良河なり。阿武隈川は、分水阿武隈兩山脈の間を北流すること五十里、仙臺灣に注ぐ。此の二川の流域は、狹長なる奥州平野をかし、南北の交通線路を通ず。地味肥沃にして、米穀の産に富める宮城野は、即其の一部あり。日本三急流の一なる最上及び御物能代の三大川は、羽越山脈を横斷して、日本海に注ぐ。其の流域は農産に富み、都會の有る所にして、兩羽地方の最要部なり。陸奥の岩木川の

交通

沿岸亦農産多し。○猪苗代湖は岩代の稍、東部にあり。周圍十三里、風景に富み、汽船の來往あり。又灌漑の利に富む。下流は日橋川となり、只見川を入れて阿賀川となり、羽越山脈を横斷して日本海に注ぐ。岩越鐵道は他日其の沿岸に敷かれんとす。八耶瀉(カ)は澤湖にして、周圍十五里、十和田湖は周圍十里、火口湖なり。

●交通 本區は、分水山脈東西兩部の交通を妨ぐ。東部は北上阿武隈二川の沿岸によりて、南北の通路を開き、鐵道之に沿うて全通せるを以て、概して交通上の不便甚しからざれども、西部は分水山脈の支脈横走し、南北の交通を妨ぐ。鐵道は、目下僅に奥羽南北線の一部を開通せるに過ぎざれば、陸路の交通、甚不便なるが上に、海路の航行も亦

東岸に比し、遙に不利なり。本區を通ずる主要なる國道二條あり。(一)奥州街道は東京より來り、阿武隈北上二川の流域を通じて、青森に達し、(二)羽州街道は、奥州街道の福島より分岐し、兩羽を通じて青森に達す。外に(三)濱街道あり。○鐵道は(一)東北線(二)常磐線あり。(三)羽州街道に沿うて敷かれんとする奥羽南北線は目下工事中なり。

處誌

●處誌

福島縣 福島町は縣下第一繁盛の地にして、縣廳此處に在り。生糸の賣買盛に行はる。其の北方に半田の銀山あり。西方に近年破裂したる吾妻山あり。

福島は、奥羽南線を西、米澤に通し、東北線を北は仙臺に、南は郡山須賀川、白河等を経て、宇都宮に連絡す。○郡山町は

製糸の盛なる所にして、其の東方三春の附近には、多く馬を産す。白河は戊辰の激戦地にして、須賀川と共に馬の市場として、其の名高し。白河關址は、其の東南三里にあり。勿來關と共に奥州の通路を扼せし處なり。

岩越鐵道は、郡山より西方に向ひ、磐梯山を右に見、猪苗代湖畔を通じ、現今若松に達す。○若松市は會津平の中央にあり。松平氏の舊城下にして、戊辰の籠城は、其の名天下に聞ゆ。會津燒、會津塗は市の特産なり。

常磐線は、水戸より勿來(關址は丘上にあ)を過ぎ、平中村を通じ、陸前に入りて、東北線に連絡す。○平町附近は、多く石炭を産す。中村町は、相馬氏の舊城下にして、相馬燒の名産あり。宮城縣 仙臺市は、伊達氏の舊城下にして、現時縣廳第二

師團司令部控訴院第二高等學校仙臺醫學專門學校等を置き、人口八萬餘市街の繁華實に奥羽區第一の大都會なり。仙臺平八橋織埋木細工等の名産を出だす。仙臺より南は汽車時程十二時間にして、東京に達し、北は岩切を経て盛岡に到る。支線は岩切より分岐して鹽竈に通ず。○鹽竈は風光明美を以て海内に名高き松島灣頭にあり。漁舟の輻湊する處、有名なる仙臺鮭の漁獵、盛に此の近海に行はる。松島灣の東に石巻港あり。北上川河口に位し、縣下の要港なり。其の東は牡鹿半島にして、半島の西岸なる萩濱には、横濱函館間を通ずる汽船の出入繁し。岩手縣盛岡市は縣廳の所在地にして、南部織鐵瓶は市の特産なり。其の西方に、麴川の柵址あり。西北に南部富



盛岡より岩手山を望む

士イワテの稱ある岩手山あり。此の邊の一帶を、南部地方と云ふ。鐵道は北は遠く青森に通じ、南は、汽車時程五時間にして、仙臺に通ず。○沿道に平泉ヒラノイの館址あり。往昔藤原氏三代清衡・基衡・秀衡の豪華を極めたる處にして、其の近傍に、古刹中尊寺あり。其の有名

なる金色堂は當時の遺物なり。北上山脈の東方は、之を外南部と稱す。其の北方には、牧場多くして、南部駒を産し、南方には多く鐵鑛を出だす。釜石鐵山の産額は、實に本邦第一なり。

青森縣 青森市は、縣廳の所在地にして、青森灣に臨み、南は鐵道によりて東京に通じ、北は函館と汽船の往復頻繁なるにより、市況頗る繁華なり。

東北鐵道は、陸中より馬淵川に沿うて尻内に來り、之より支線を八戸・鮫港に通じ、本線は小河原沼を東に見て、野邊地を過ぎ青森に達す。奥羽北線は西南に弘前を過ぎ、現今秋田縣の能代に達せり。漸次延長し、他日奥羽南線と連絡を通せんことを期せり。

弘前市は、岩木川の流域にあり、縣下第一の都會にして、第八師團の司令部あり。津輕塗及び林檎は、市の名産なり。津輕富士の名ある岩木山は、市の西北に屹立せり。

秋田縣 秋田市は、縣廳所在の地にして、御物川の下流に瀕し、河口に土崎港を控へ、商業盛に行はれ、精巧なる秋田畝織・八丈縞等を産す。又此の地方より産する秋田露は、莖葉共に長大なるを以て世に名高し。土崎港は縣下の要港にして、百貨の集散頗る盛に、特に多く米穀を輸出す。

青森縣より來れる國道は、能代川に沿うて西行し、南に折れ、八郎潟に沿ひて進み、秋田に達す。能代川の口に能代町あり。附近に鐵道を通じ、小港に臨み、春慶塗を産す。能代川の上流に陸中の尾去澤の銅山あり。其の北方に小坂



山形市の街の圖

の銀山あり。又支流阿
仁川の上流には阿仁
の銅坑あり。
秋田より、御物川の流
域に沿ひて南行すれ
ば、木綿の市場ある横
手町を過ぎ、有名なる
院内の金銀山を西に
見て、山形縣の域に入
る。
山形縣 山形市は、古
最上と稱ふ縣廳所在

生業

の地にして、市街繁華なり。歩兵聯隊の兵營を置く。
秋田縣より來れる國道は、龜綾織の産地なる新庄を過ぎ、
最上川の流域を通じて山形に達す。新庄より最上川に
沿うて西行すれば、南に羽黒湯殿ケツツヤ月山等を仰ぎ、北に出羽
富士の稱ある鳥海山後羽を望みて、酒田に達すべし。○酒田
町は一小港に過ぎざれども、最上川の口に位し、船舶の出
入繁く、北は海岸を経て秋田に達し、南は鶴岡を過ぎて、越
後に通ずる街道に當れるにより、商業頗盛に行はる。
山形より南は鐵道により、米澤を経て福島に到るべし。○
米澤市は上杉氏の舊城下にして、米澤糸織の名産を出だ
す。

●生業 本區は、地域廣き割合に平野少く、加ふるに、住民

稀疎にして、耕地よく開けざるを以て、農産は豊なりと云ふを得ず。米は宮城・福島の兩縣に最多し。桑樹は、福島縣を第一とす。從て蠶業最盛にして、蠶絲・繭・蠶卵紙等の産出夥し。○牧業には馬の畜養最盛に行はれ、南部・三春の産は、特に良種を以て古來其の名高し。○森林は各地に繁茂すれども、特に陸奥の羅漢・柏林羽後の杉林は、中央區なる木曾の扁柏林と共に、本邦の三大美林と稱せらる。○鑛産に富めるは、本區の特色にして、特に秋田縣を第一とす。秋田は、金・銀・銅・硫黃等の産出少からざるも、特に多きは、銀にして、實に本邦中第一に位し、全國總産額の過半を占め、銅は、栃木・愛媛の産額に亞ぐ。其の他釜石の鐵鑛・磐城の石炭・半田の銀等最要かり。硫黃は、一般に産すれども、陸奥の恐山

を最とす。○沿海は、到る處漁利多く、特に岩手・青森兩縣の近海尤著名かり。○工業は機業の外、舉ぐべきもの少し。機業の最盛なるは、山形・宮城の兩縣にして、米澤織・仙臺平八橋織等の名世に高し。陶漆器は、會津・燒會津塗の産最多し。

乙 西部

西部は、地勢と便宜とに基き、之を近畿・中國・四國・九州の四區に分つ。

近畿區

當域は、山城・大和・河内・和泉・攝津の畿内五國を中心とし、地勢上、近江・紀伊(三重縣に屬する小部を除く)の二國と、縣域上丹波・丹後・但馬・播磨及び淡路の五國を含む。現時、之を左の數府縣に分轄す。

地勢・氣候

滋賀縣(近江)

京都府(山城・丹波)

奈良縣(大和)

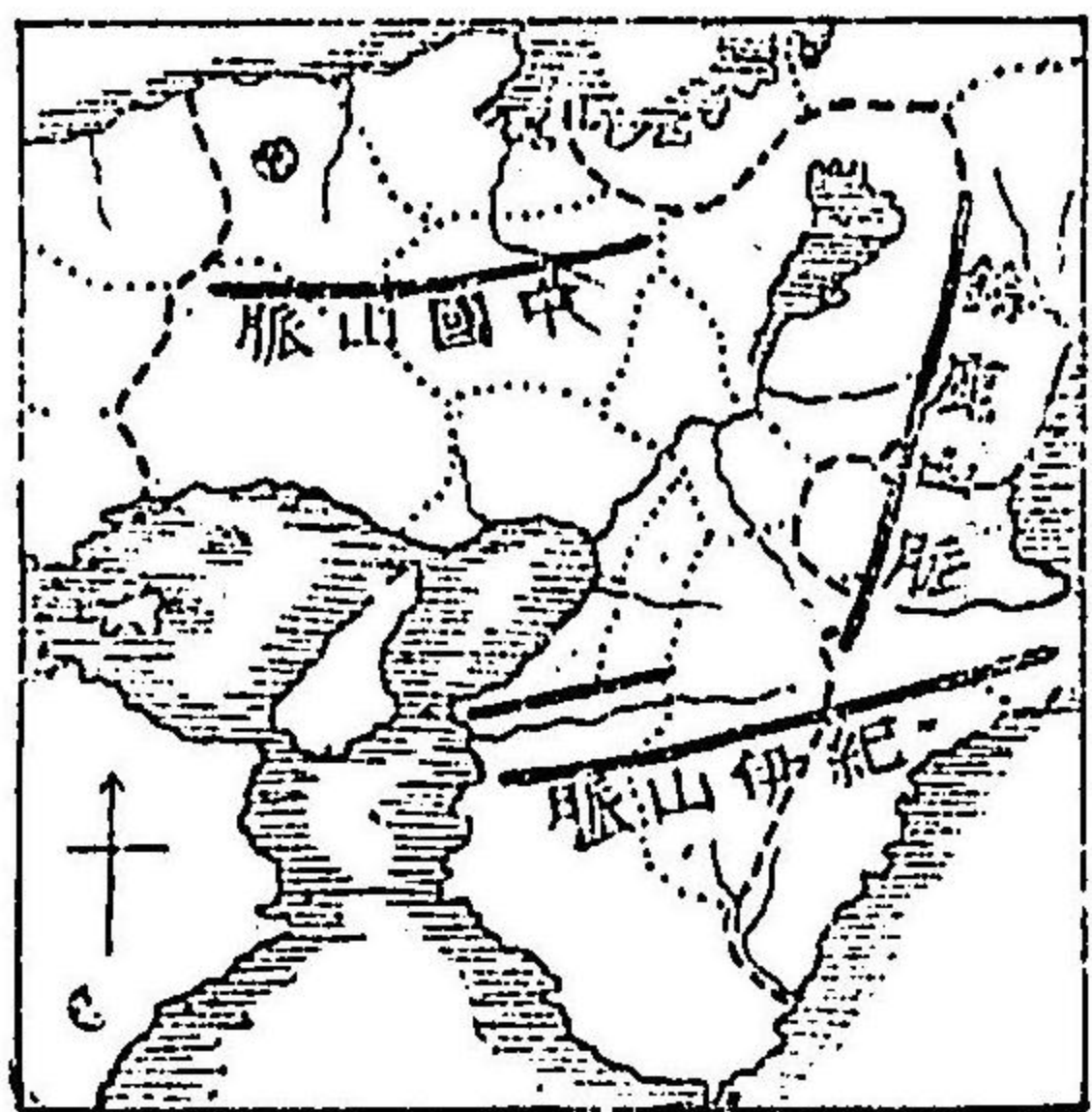
大阪府(攝津東半部・河内・和泉)

兵庫縣(攝津西半部・丹波・但馬・播磨・淡路)

和歌山縣(紀伊)

●地勢・氣候

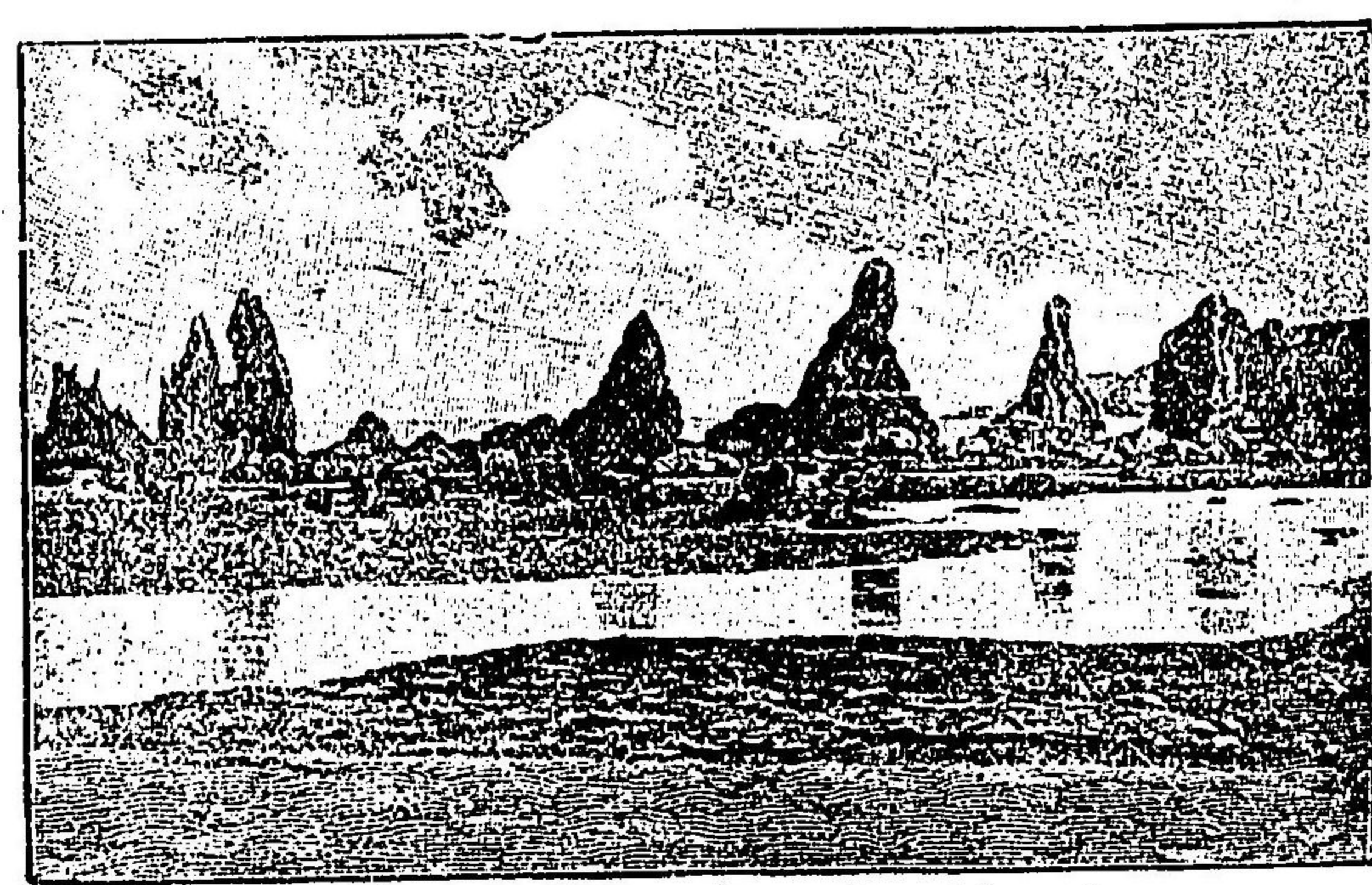
本域の地形は恰矩形をなし、西より南に彎曲す。其の北部に中國山脈、南部に紀伊山脈あり。兩部の中間は、東北より西南に亘り、土地一帯に低平なり。(地學者の所謂瀬戸内地溝帶の一部)即琵琶湖沿岸の平地及び淀川平原にして、本區中最主要なる生産地たり。○氣候は一般に温和なれども、各地稍異なる處あり。紀伊は大洋に面し、冬季



甚、溫暖にして、夏季は清涼なれども、山城・近江の如き海に瀕せざる地方は、冬は寒氣強く、夏は却て暑氣強し。雨量は、紀伊最多く、本邦最多雨地方に屬し。内海に沿へる諸國には、甚、寡少なり。

海岸

●海岸 日本海岸には、丹後半島突出す。其の東側の宮津灣(一名與謝海と云ふ)は、若狹灣の一部にして、内に、舞鶴の軍港及び宮津の貿易港あり。日本三景此一なる天の橋立は、宮津港の西北に當り、一條に長洲、海中に横はり、白沙青松相映じて、眺望佳絶なり。○太平洋沿岸は、紀伊の南端に潮岬あり。之より東北、志摩に至る海上を熊野灘と稱し、潮流悪しく航海危険なれども、捕鯨盛なる處なり。又沿海は奇岩に富む。串本浦の橋杭岩の如き、其の一なり。潮岬の西北にあ



申本浦橋杭岩

申本浦に對する大島に至る一里許の間に高三四丈乃至二
十餘丈の巨岩數十個に列し遠く望まば恰も橋の杭の
残りたるもの如し

る比井岬の北は、
紀伊水道の東岸
にして、其の海上
に和歌浦の勝地
あり。由良海峽
は、大阪灣に入る
の門戶にして、嚴
重に砲臺を設け
て守備に充つ。
大阪灣は、灣内に
大阪神戸堺等の
要津あり。明石海

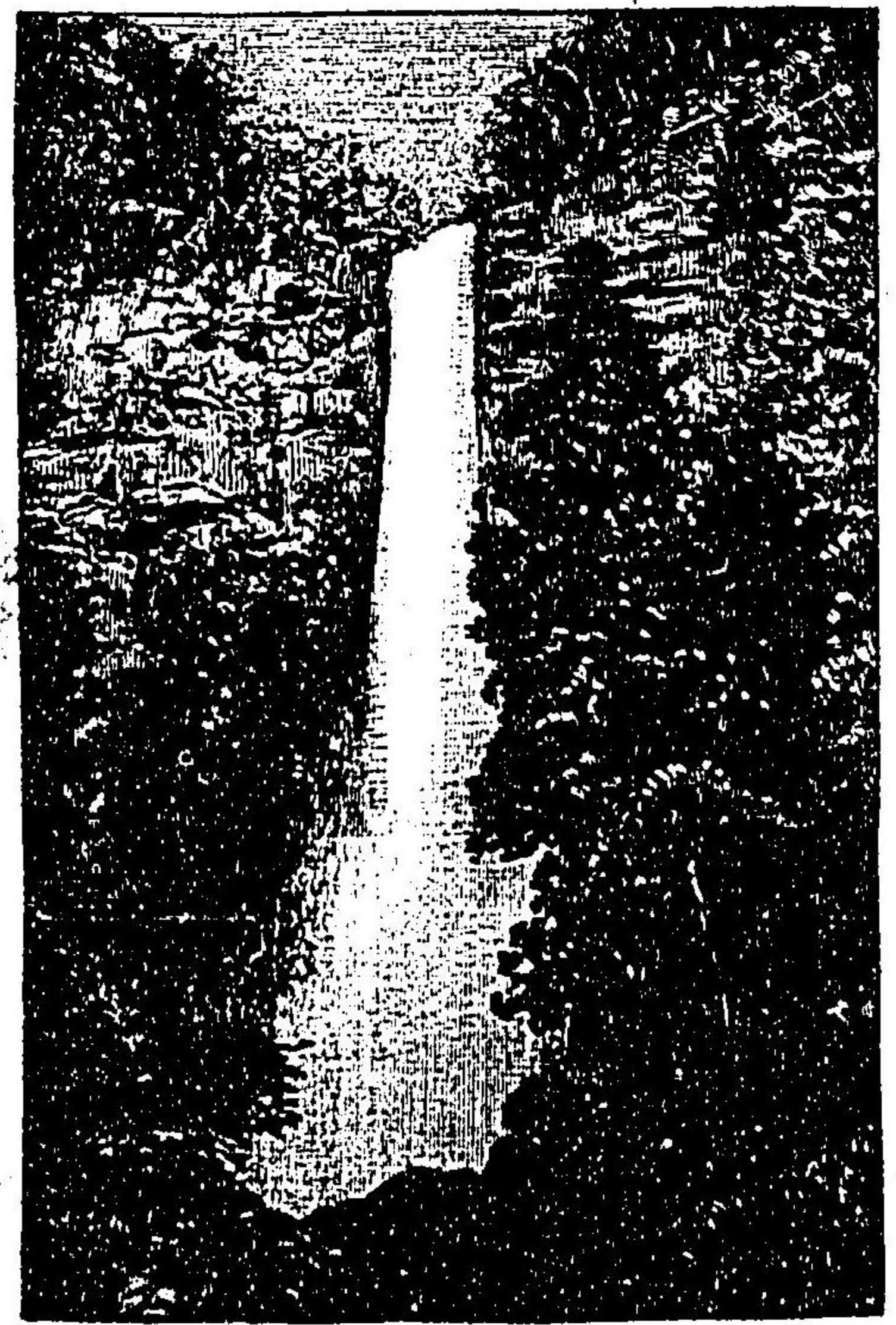
山誌

峽を西に過ぐれば、播磨灘に出づ。攝津・播磨の海岸に、須磨・舞子・明石の勝地あり。白沙青松遠く相連り、南方遙に淡路島を望み、風景頗る明媚なり。

●山誌 本域の東境には、鈴鹿山脈南北に連り、南方には、

那智の瀑

那智の瀑の一は二瀑の三の瀑の三
者にして、此の關は即ち一瀑の源に
ありたる中最大のものなり



水誌

紀伊山脈蟠廻し、大和の南半、紀伊の全體に亘り、山岳鬱結して、今尙人跡の到らざる處あり。吉野十二峯の一なる吉野山は、南朝四代の宮址にして、櫻花の名世に高し。西に紀伊の高野山あり。有名なる金剛峯寺其の頂上にあり。山中の大森林は、高野槇の良材を出たす。木國の名空からず。南に那智山あり。山中に日本第一の大瀑布あり。直下八十丈、幅十丈、熊野灘より望見すべし。○河内、大和の國界をなせるは、葛城山脈にして、其の金剛山は史上に著はる。中國山脈の一部は、西より東に走り、近江の北境に達す。其の支脈南に延び、山城、近江の國境を限る。本脈中の著名なるものは、但馬の生野銀山、山城の鞍馬山、比叡山等なり。

●水誌 本域は、日本第一の大湖、琵琶湖を有す。此の湖は、

四周山岳を繞らせるにより、諸水悉、此處に集り、其の沿岸は、平地にして、土肥え、有名ある江州米を産す。湖上は、漕運の利大にして、湖中は、魚族に富み、湖畔は、風光明媚にして、其の近江八景、古來世に名高し。

(細説) 琵琶湖は、東西は、一里より五里に過ぎざれども、南北は、十六里に亘り、周回凡六十里あり。湖中に、竹生、多景、沖の諸島あり。西方には、比叡山、比良嶽屹立す。湖水は、勢多川、宇治川、淀川等となりて、大阪灣に注ぐ。

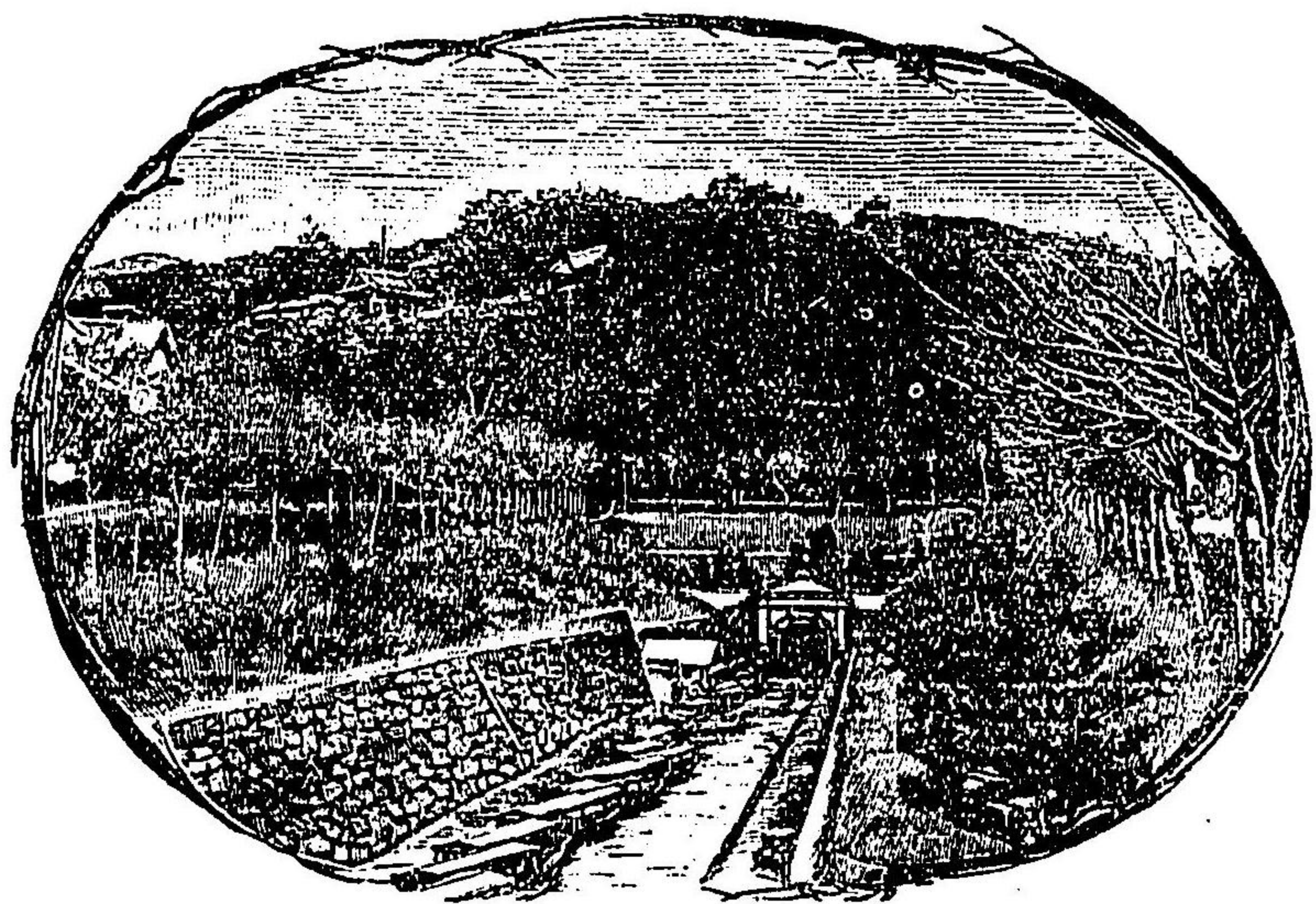
○湖水は、西南に流れて、淀川となり、桂木津等の諸流を合せて、大阪に至り、安治、木津の兩河に分れて、大阪灣に注ぐ。長二十里なれども、水底深く、流勢緩に、漕運灌漑の利頗大なり。大和川は、大和に發し、河内の中央を貫きて、大阪灣に入る。通舟灌漑の利多く、其の沿岸は、綿の産出夥し。大和

交通

川・淀川の流域には、所謂畿内平原ありて、甚豊饒なり。吉野川は、大臺原山に發し、西流して、紀伊に入り、紀川となり、和歌山に注ぐ。十津川は、紀伊山脈を横ぎりて、紀伊に入り、熊野川となり、海に注ぐ。

◎交通 本區は、水陸共に交通甚便なれども、大和の中部以南一帶の地方は、山岳多く、鐵道の便なく、交通頗不利なり。本區は、四條の重要なる國道を通ず、即(一)東海道は、鈴鹿峠を越え、(二)中仙道は、不破關址を過ぎ、共に近江に入り、草津に會し、湖畔を経て、京都に達す、(三)京都より、西北に通ずる山陰街道あり、(四)西南に、大阪神戸等の諸要地を連ね、西に、山陽道の往來を通ずるあり。○鐵道は、概之等の街道に沿ふ。其の重なるものは、(一)東海道鐵道(二)關西鐵道(三)阪鶴

處誌



水 疏 湖 琵琶

りな場船渡るけ於に口入の道陸るて穿に麓山等長てしに部一の水疏
りあ碑念紀役南西てしに部一の寺井三るな名行は宇堂のゆ見に上丘

鐵道(四)山陽
鐵道等あり。

●處誌

滋賀縣(近江)
はを管す、國境
は、四周山脈
を繞り、中央
を穿て、大
湖をなす大
湖は、國名の
基なり。大
津市は、縣廳
の所在にし
て、歩兵聯隊
を駐屯せら

る。湖上には、汽船の便あり。陸路には、四方に鐵道を通じ、交通の要衝に當れるにより、商業頗る繁盛なり。市西の長等山には、巨剎三井寺あり。有名なる運河は、此の山麓を繞りて、京都に通ず。國道は、京都より逢阪山を越えて、本縣の域に入り、大津を過ぎて草津に至れば、東海道は、之より東南に向ひて、伊勢に入り、中仙道は、更に東北行して美濃に入る。○東海道鐵道は、東山道に沿ひ、彦根を過ぎ、米原を経て美濃に入る。關西鐵道は、草津より、東南伊賀に入る。東海道線は、米原より、北陸線を分岐し、長濱を經、賤岳附近を過ぎ、柳瀨の隧道を通じて、越前に入る。長濱町は、交通の要路に當り、市街賑かに、縮緬奉書紬の名産を出たす。

(細説) 近江の國は京都より、東及び北に通ずる要衝に當れるにより、有名なる三關は皆此の國の境界に設けられ、古來屢兵を蒙り、有名なる古戰場少からず。○又琵琶湖を排水する勢多川は、京都の要害に當れるを以て、古來東西の戦争は、多くは此處に決せらる。義仲の戦死せる粟津原は、其の近傍にあり。

本縣人は、勤儉の美風ありて、農商を勵み、富豪寡からず。特に、古來行商するもの甚多く、近江商人の名は、富山の賣藥と共に、廣く世に知らる。

京都府 京都市は、山城の中央畿内平原の北部に位し、賀茂川市の東部を貫流す。府廳所在の地にして、人口三十五萬、市街端正にして、清潔なること、全國其の比を見ず。市内を分ちて、二區とす。此の地は、もと桓武天皇奠都千有餘年の帝都たりしを以て、由緒ある神社、佛閣及び名所舊跡、



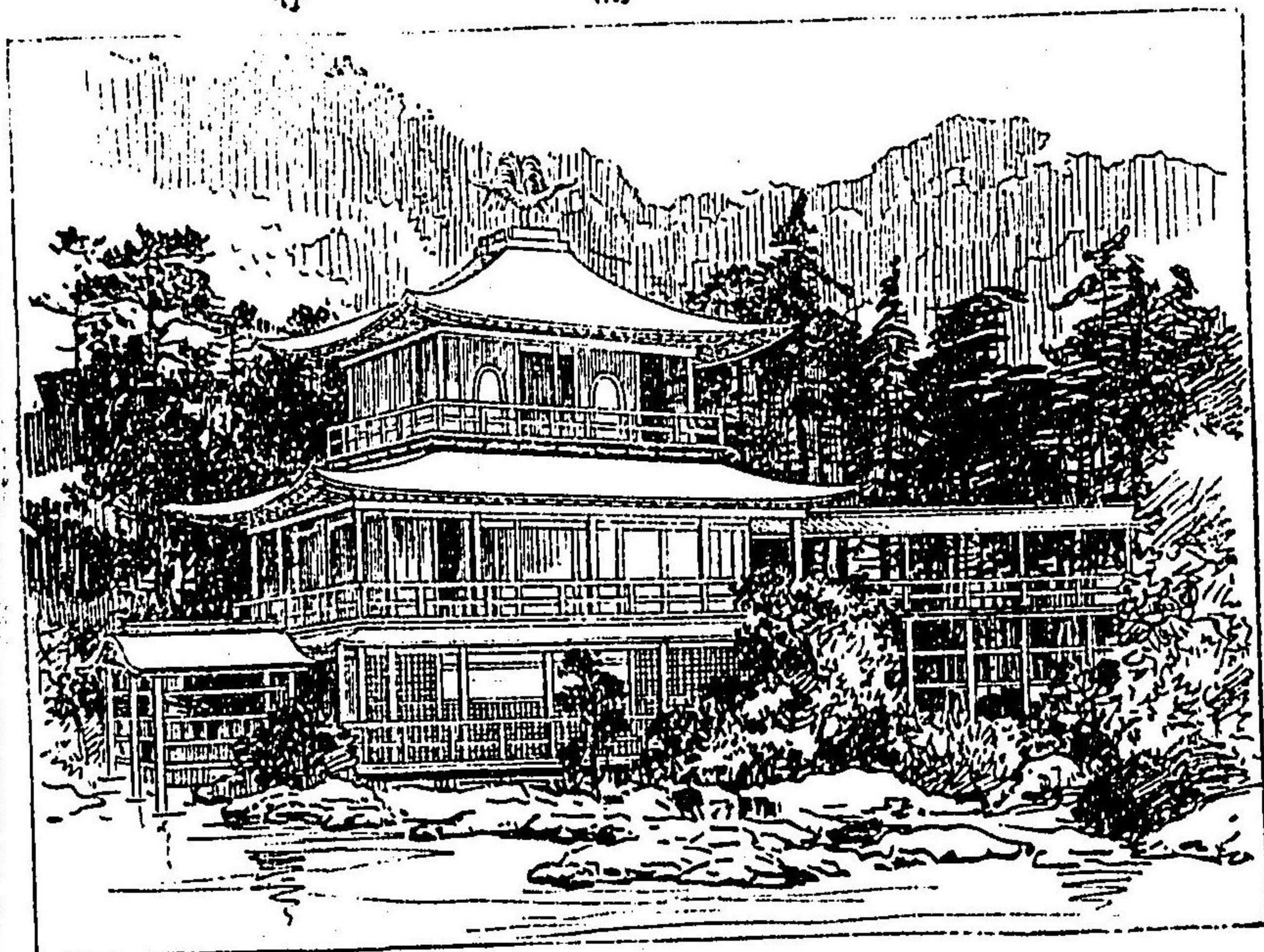
紫 宸 殿

市の内外に散在し、且近傍の山水は、風光頗秀美なるにより、四時遊客の跡を絶たず、京都御所は、市の北部にあり、依然として、舊摸を存し、即位の大禮等を行はせらるゝ所なり。二條城は、市の西部にあり。今は離宮となれり。又此の地に京都帝室博物館、京都帝

國大學、第三高等學校等を置かる。此の地は、久しく美術工藝の中心ありしが、今尙其の聲價を墜さず。西陣織・友禪染・継箔・粟田焼・清水焼等著名の物産を出す。

(細説) 京都は、三面に山を負

金 閣 寺



ひ、南の一方遠く開けて、所謂淀川平原に屬す。市の東北に聳ゆるは、比叡山にして、東山、市の東方に連る。知恩院・清水寺・銀閣寺等の巨刹。名寺多く此處にあり。其の他、北山の金閣寺・北野の天満宮。市内の東本願寺・西本願寺・東寺等最著名なるものなり。

此の地明治二年遷都以來、大に衰へしと雖、商工業の中心たるを失はず。且近頃大學・高等學校を置かれ、關西文教の中樞となり、鐵道の布設周くして、四方の交通自在となり、更に湖水を、加茂川に疏通してより、舟運の便を開き、其の水力を利用し、工業は益進歩の域に向ひ、市の面目將に一新せんとす。京都は、東海道鐵道により、東は東京に、西は、大阪・神戸に通じ、奈良鐵道により、南の方、伏見を過ぎて、大和の奈良に連絡す。京都鐵道は、京都より、丹波を経て、丹後の舞鶴軍港に布設せられんとす。(現に丹波の關部迄開通す)

伏見町は、宇治川に瀕し、京都より奈良及び大阪に通ずる要路に當れるにより、市況繁華なり。當地に、第十九旅團司令部を置く。茶の産地として名高き宇治は、伏見の東南にあり。その平等院の鳳凰堂は、美術の精妙を以て、其の名高し。

(細説) 宇治川は、勢多川の下流の稱にして、伏見を過ぎ、淀に至り、桂川を合せて、淀川となり(桂川は、丹波より來り、嵐山の麓を過ぎて、東南流し、賀茂川を合せ、宇治川に入る)西南流し、史上に名高き笠置山の南麓を過ぎて來れる木津川を合せて、攝津に入り、遂に大阪灣に注ぐ。○高雄山の紅葉と共に名を知られたる清瀧川は、桂川の支流なり。

山陰道往還は、京都より西北の方、老坂を越えて、丹波に入り、龜山・福知山を経て、但馬に入る。



宮津港

宮津港は海門東北に面し西に巴形な海を以てし、水深及底が浅く、常時四時以上の風浪に故がらに此の地は若しな港其のざらに易得に眞てしに度適に共實と港其の利便頗ばら至にるす絡連と戸神阪大と通を道鐵しべるな

福知山町は、山間の小邑なれども、軍事上樞要の地なるを以て、第二十旅團の司令部あり。阪鶴鐵道は、大阪より此地に通じ、他日舞鶴に達せんとす。舞鶴は東西の二市街

に分る。(相距る一里半) 其の東舞鶴は第四海軍鎮守府の所在地なり。宮津町は、舞鶴の西北にあり。開港場の一にして、丹後第一の繁華地なり。宮津の北に、天の橋立の勝地あり。峯山町は、丹後の北部にあり。丹後縮緬の本場たり。大阪府 大阪府は、府廳所在の地にして、淀河口に跨り、人口八十二萬人、全市を分ちて、四區とす。實に吾國第二の都會たり。陸路は、鐵道を四方に通じ、海路は、瀬戸内海の要衝に當り、安治川口は、船舶の出入常に絶えず。市内には、縦横に運河を貫きて舟楫を通じ、二百有餘の橋梁を之に架し、所謂四通八達の要地にして、商業の隆盛なること全國第一なり。此の地は、開港場の一あれども、河口淺く、巨船の碇泊便ならざるにより、外國貿易は、尙盛なりと云ふを得



大 阪 城

す。故に、目下一大築港の工事中なれば、之が落成の暁は、其の盛大期して、待つべきなり。工業又盛にして、煙突林立し、綿絲紡績燐寸銅器鐵器等の製造大に行はれ、舊來の特産なる雜貨の製出亦寡からず。此の地は、古の難波津にして、豊臣秀吉大阪

城を築きて、施政の中心と定めしより以來、大に繁榮を極むるに至れり。現時、第四師團司令部、控訴院、造幣局、砲兵工廠等を置く。高津神社及天王寺は、名高き社寺にして、其の境内は、市民の遊覽地なり。東海道鐵道は、淀川に沿うて、大阪に來り、西の方、神戸に通ず。關西鐵道は、一線は大和川に沿うて、東の方、奈良に經て、遠く名古屋に通じ、一線は、名高き古戰場なる四條畷を過ぎて、本線に接續す。南海鐵道は、南の方、堺、岸和田を經て、紀伊の和歌山に到る。堺市は、古の互市場なりしが、今は大阪に繁昌を吸收せられ、舊時の盛況なきも、尙商業地たるを失はず。鐵器、段通織は、此の地の特産たり。



東大寺

奈良縣 奈良市は、縣廳の所在にして、古、七十五年間の帝都たりし所にして、(舊都は、市として今は、田圃となれり)市の内外に、名所舊蹟散在す。故に各地より來遊するもの常に絶ゆることなし。三笠山、市東に峙ち、春日神社其の麓にあり。其の他、東大寺、興福寺の巨刹あり。又奈



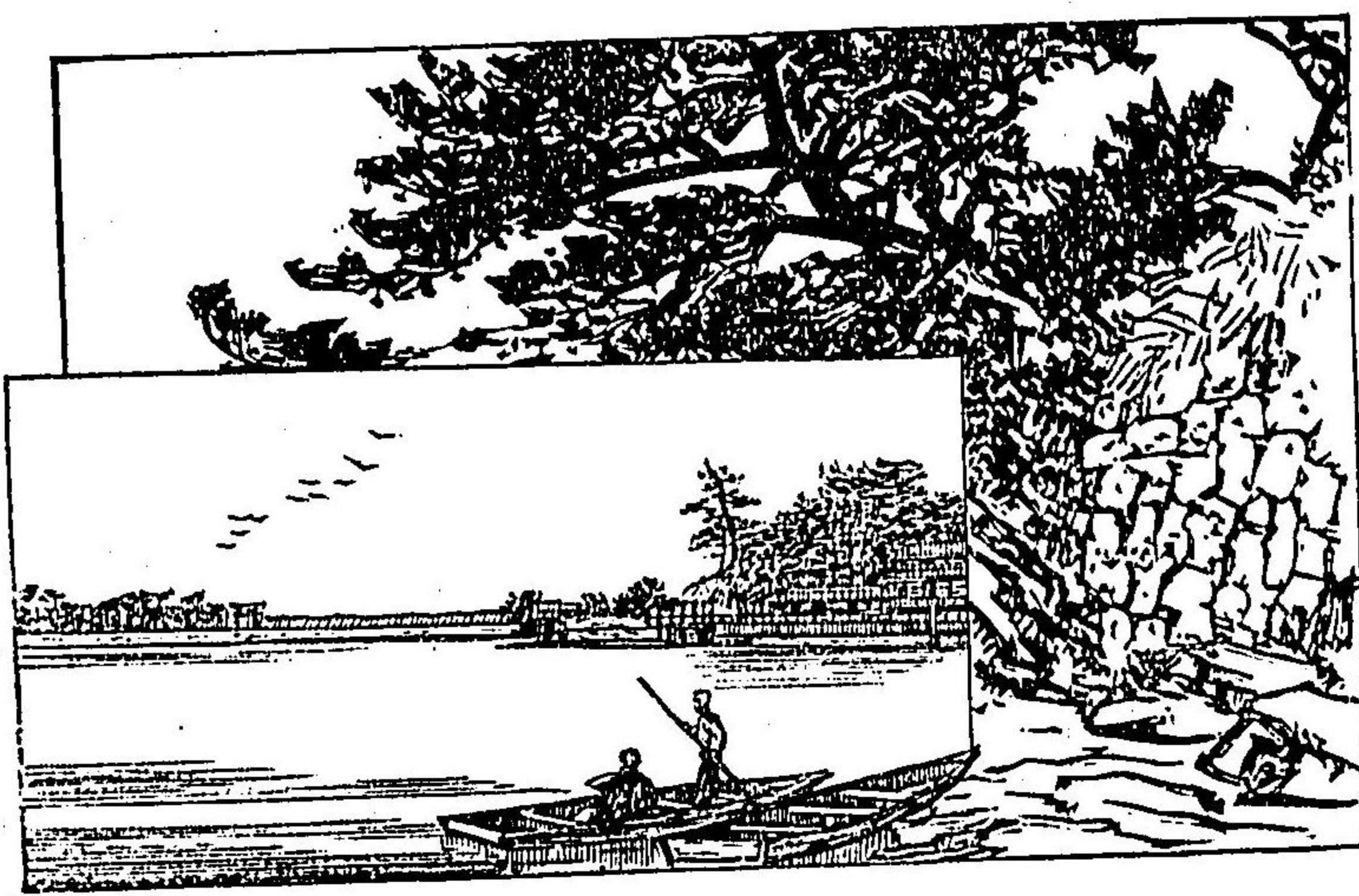
談山神社

良帝室博物館の設置ありて、館内には多く美術の貴品を陳列せらる。奈良晒布、奈良漬、筆、墨等は、市の特産なり。關西鐵道は、大阪より來り、日本最古の名刹を存する法隆寺村を過ぎ、郡山を経て、此地に達す。京都より來る奈良鐵道は、更に

南に延長して櫻井に至る。

(細説) 奈良より東行すれば、木津川の上流に月瀬あり、二里に亘る名高き梅林あり。又櫻井の東方には、長谷寺あり、南方には、藤原鎌足を祭れる談山神社、榎原の宮址なる榎原神宮及び神武天皇の御陵等あり。○吉野山は、櫻花を以て名高く、山中に舊蹟少からず。○吉野地方は、吉野紙・吉野葛・吉野漆等を産す。之より以南は、交通極めて不便にして、人跡の到らざる處多し。○十津川の上流に十津川郷あり。

和歌山縣 和歌山市は、紀川の河口に位し、もと徳川氏三家の一ある紀州家の城下たりし地にして、今は縣廳の在る所なり。汽車・汽船大阪に往來し、百貨の集散自在なるに、より、商工業盛に行はる。綿フランネルは、市の名産なり。紀川の沿岸は、大和に入る通路にして、鐵道は、此の沿道に



和歌の浦

敷かれて大和に入り、關西鐵道に連絡す。和歌山より、海岸地方を南行すれば、漆器の名産地なる黒江を過ぎ、有田川を渡りて、湯淺に至る。有田川の沿岸は、所謂紀州蜜柑の主産地なり。本縣の東南端、熊野川の河口に新宮町あり。木材及び薪炭の集散

地にして、新宮杉の名

世に知らる。

兵庫縣 神戸市は縣

廳所在の地にして、北

に山を負ひ、南は神戸

兵庫の二港に瀕す。神

戸港は、舊五港の一に

て、水深く、大船巨舶を

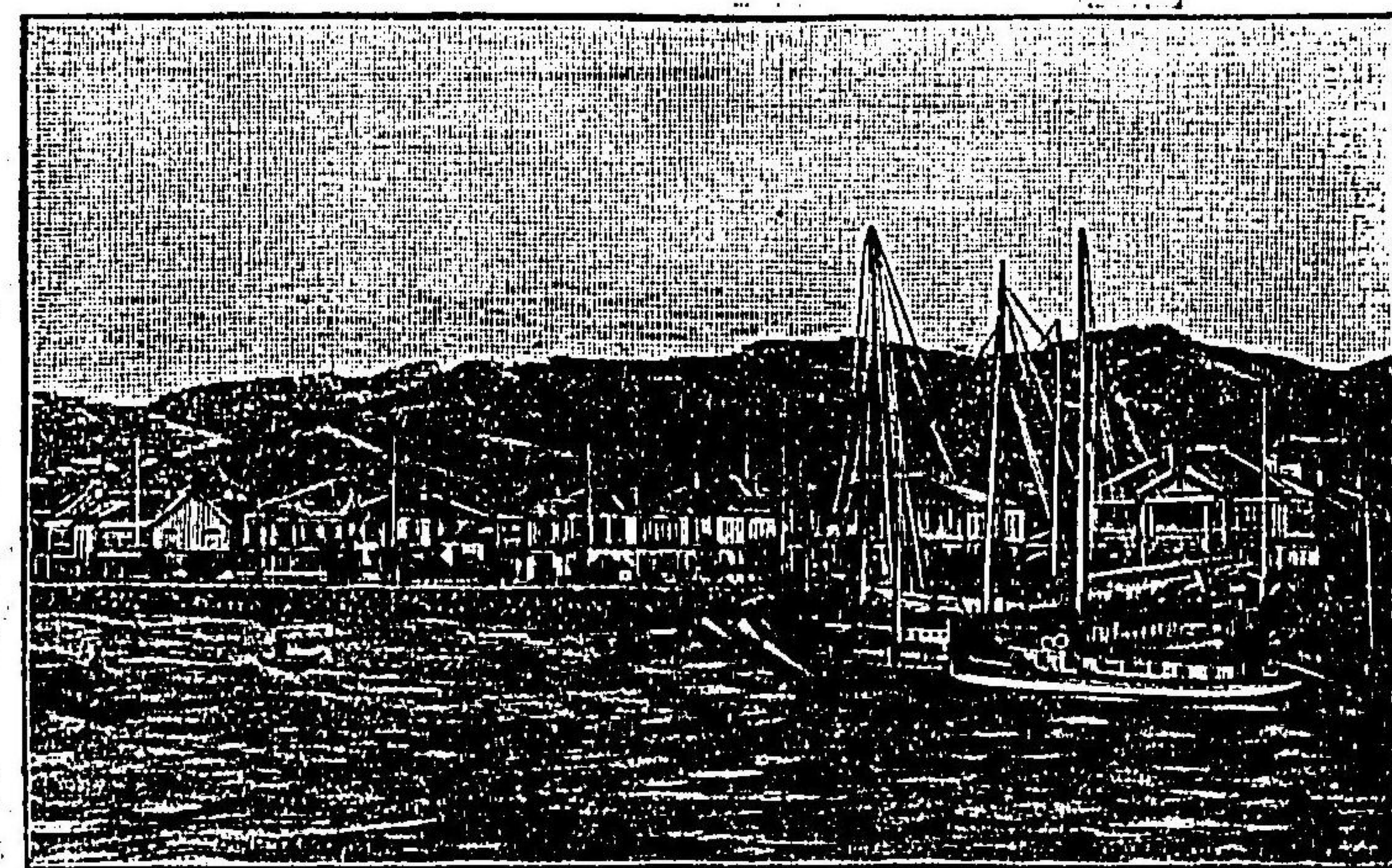
容るゝに便にして、東

に大阪の大商業地を

控ふるにより、開港以

來、日に月に隆盛とな

神 戸 港 海 岸



り、今は人口二十一萬餘、帝國第六の大都會となれり。外國貿易は、横濱に次ぐ盛況にして、主に米・茶・燐寸・樟腦等を輸出し、綿花・綿絲・砂糖・石油等を輸入す。史上に名高き湊川は、もと市の中央を貫流せり。但此の河は現今河道變更の工事中にて新河道は市街の西郊を通ずることゝなれり。福原舊都の址及び湊川神社は、湊川の東にあり。其の近郊生田、森布引、瀧は、共に有名なり。

(細説) 湊川は、河床高く、市内人家の上に位し。一旦豪雨あるときは、濁水汎濫して、民害をなし、が河道變更の功を被れば其跡には市街を新設せらるゝ豫定なり。

東海道鐵道は、神戸より東に西宮を経て、大阪に通ず。西宮町は、灘地方の名邑にして、清酒の名産地なり。尼崎、其の東にあり。阪鶴鐵道、此の地より起り、北に東海道鐵道を横



む 望を島路淡りよ 濱子舞

ぎり伊丹(兵庫縣下)池田(大阪府)の清酒名産地を過ぎ、温泉を以て名高き有馬の近傍を通ず。神戸を起點とする山陽鐵道により西行すれば、須磨舞子の勝地を通じ、北に鐵拐峰を仰ぎ、南に淡路島を望み、明石縮を産する明石を經、姫路に至り、揖保千種の二川を渡り

生業

て備前の域に入る。揖保川の中流に醬油の名産地龍野あり。千種川の下流に製鹽を以て名ある赤穂あり。姫路市は、第十師團司令部の在る所にして、革細工は、市の名産あり。書寫山市の北に聳ゆ鐵道を南は、飾磨津に北は、但馬の生野に通ず。但馬の北部圓山川の沿岸に、豊岡町あり、柳行李を多く産す。其の東南に出石焼を産する出石あり。淡路の名邑は、東岸に洲本及び由良あり。由良町は、紀伊に渡る要津にして、要塞の設あり。島の西岸に福良町あり。此の地は阿波に渡る要津にして、珉平焼を産し、多く支那に輸出す。

◎生業 本區は肥沃の平野に富み、農産頗豊なり。米は、兵庫縣の産額最多く、全國第二に位す。綿は、淀川・大和川の流

域に多く、茶は山城を第一とす。紀伊は、蜜柑の産出夥し。○大和・紀伊の山林は、巨多の良材を出す。○牛は、但馬の産最。名あり。○漁業は、紀伊最盛にして、熊野灘捕鯨業は、古來著名あり。製鹽業は、播磨の沿海に行はれ、赤穂鹽は、品質の佳良を以て、日本一と稱せらる。○鑛産は、但馬の生野より、金銀を出す。○機業は、京都の西陣織、近江の長濱縮緬、丹後縮緬、河内木綿、大和紵、紀伊の綿子ル等最名高く、大阪の紡績業と兵庫の燐寸製造とは、何れも、本邦第一にして、盛に海外に輸出す。漆器は、黒江・京都を最とす。酒は、灘地方の醸造高全國の首位を占む。播磨の醬油亦著名なり。

中國區

當域は、山陰・山陽兩道即中國の大部にして、美作・備前・備

地勢・氣候

中・備後・安藝・周防・長門及び因幡・伯耆・出雲・石見・隱岐の十二國を含み、行政上左の數縣に分つ。

岡山縣(備前・備中・美作)

廣島縣(備後・安藝)

山口縣(周防・長門)

鳥取縣(因幡・伯耆)

島根縣(出雲・石見・隱岐)

●地勢・氣候 地形東西に細長く、山脈之に従うて脊梁をなし、地勢南北に緩斜せるにより、河流は、悉南北に流る。高度著しからざれども、山地に富み、沿海及び河谷に狹小なる平地を見るのみ。○氣候は、北面の地は冬季北風強く、山地は積雪數尺に及ぶを常とす。然れども、割合に寒冷ならず。之れ對馬海流の影響あるを以てなり。南面は、一般に温和にして、激變なし。且雨雪の量少し。之れ此の地方の製鹽に適する所以なり。

海岸

◎海岸 内海は、沿岸の出入錯綜極りなく、其の海上には大小の島嶼、碁布羅列す。備前備中の海は、之を水島灘と云ひ、水母及び鯛を名産とす。此の海に斗出せる兒島半島は、同名の小灣を擁く。古の藤戸の渡は、其の地頸に當れり。備後の海上を、備後灘と云ひ、鞆尾道系崎の諸港あり。西の隠戸瀬戸を過ぐれば、廣島灣あり。灣内には、吳軍港及び宇品港あり。宇品港は、廿七八年の戦役に軍隊多く此の地より出發せしを以て名あり。其の海上にある嚴島(宮島とも云ふ)は風景絶佳、日本三景の一にして嚴島神社あり。其の東方江田島には、海軍兵學校あり。室津半島の西方は、周防灘にして、檀の浦の古戰場、其の西端にあり。其より馬關海峽を過ぐれば、日本海の響灘(ヒビキナガ)に出づ。海峽の幅狭き所は五町餘

山河

兩岸には堅固なる砲臺の設あり。◎日本海岸は、其の特性として、屈曲に乏しく、突出の著しきものは、只島根半島の一あるのみ。半島は、夜見濱と、共に中海を擁す。夜見濱の南方に米子の良泊あり。北端に、境の開港場あり。出雲の沖に隠岐島あり。其の西郷港は要津なり。石見に濱田の開港場あり。

◎山河 當域の脊梁をなせるは、中國山脈にして、其の脈九州に連り、著しき高山なし。中國第一の高峰は伯耆の大タカ山にして火山なり。地勢細長く、山脈中央に横はりて、分水界をなせるにより、河流の大なるものなし。江川最大にして、備後に發源し、横谷をなして北流し、石見を過ぎて、日本海に入る。長五十

交通

里、舟楫を通ずること二十里、其の河谷は、石見より備後に通ずる便路なり。其の他南流する重なるものは、旭川(大)川吉井川(東大)高粱川(川邊)太田川等なり。○中國の大湖は、共道湖及び中海(周回十里)なり。共道湖の水は、大橋川によりて中海に通せり。中海の東壁をなせる夜見濱は、北に突出すること二里に亘れる砂嘴にして、多く綿を産す。

●交通 本區は、中國山脈によりて、南北の交通を妨げられ、日本海に面する地方と、内海に沿へる諸國とは大に交通の便否を異にす。北面は鐵道の設なく、海上は北陸地方と同じく、航海稀疎にして、冬季は、航行を絶つ。南面は之に反し、鐵道の便あるのみならず、内海の航行も頗頻繁なり。

本區の國道は、沿海地方を通ずる山陰・山陽の兩街道を

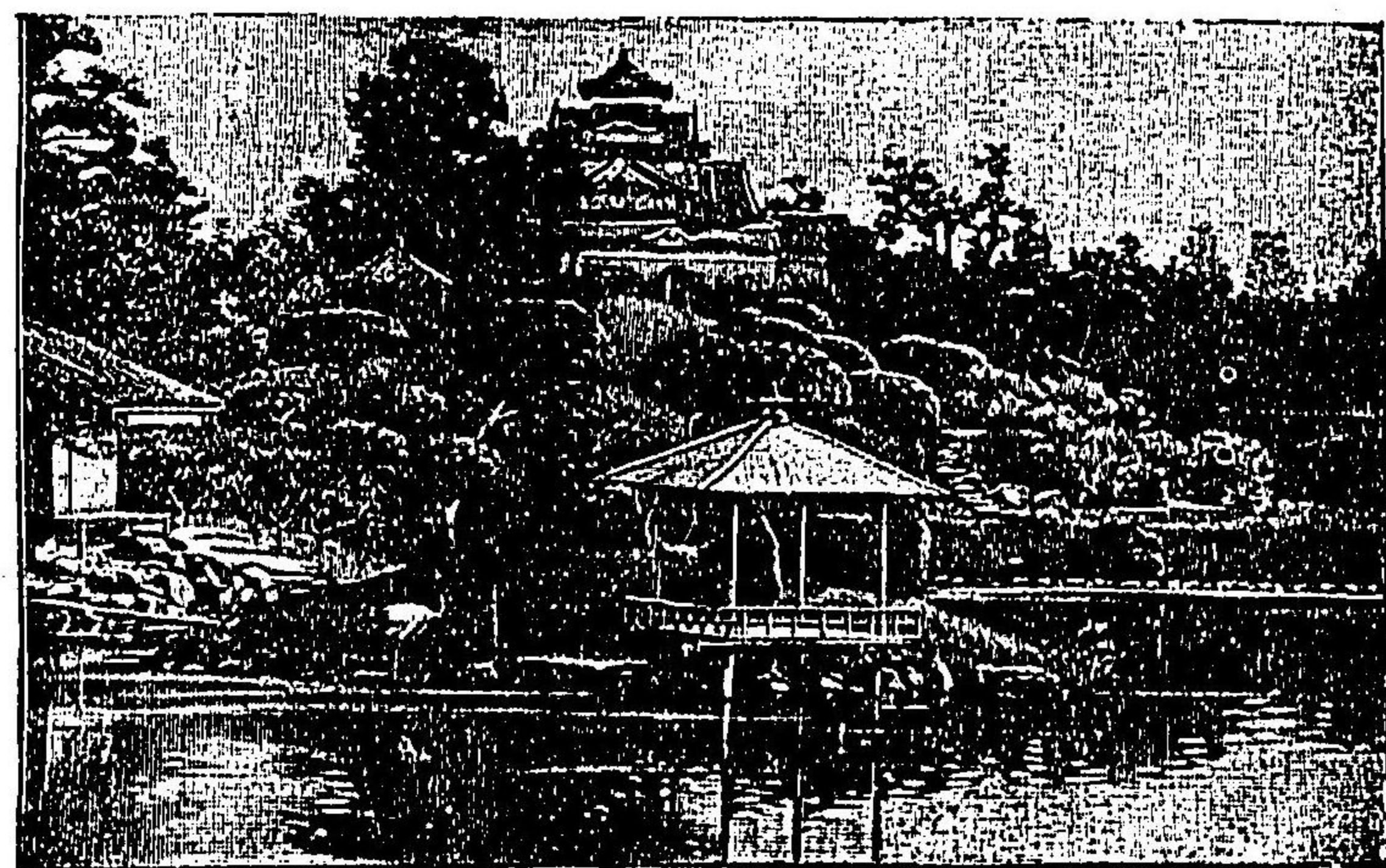
處誌

其の主なるものとす。他に此の兩街道を連絡する二二三の南北通路あれども、峻坂多くして、交通不便なり。○鐵道は山陽線の外、只中國鐵道の短き南北線あるのみ。

●處誌

岡山縣 岡山市は、縣廳所在の地にして、旭川市を貫流し、河口に三番港を控へ、商業繁盛、關西屈指の都會なり。物産には、紡績綿絲、花莫産を多く出す。第六高等學校、岡山醫學專門學校を此の地に置く。市内の後樂園は、天下の名園なり。

山陽鐵道は、史上に名高き舟坂峠のトンネルを経て、本縣の域に入り、蠟石の産地なる三石、及び和氣清麿の故郷なる和氣を過ぎて、岡山に來り、それより、玉島、笠岡を経て備



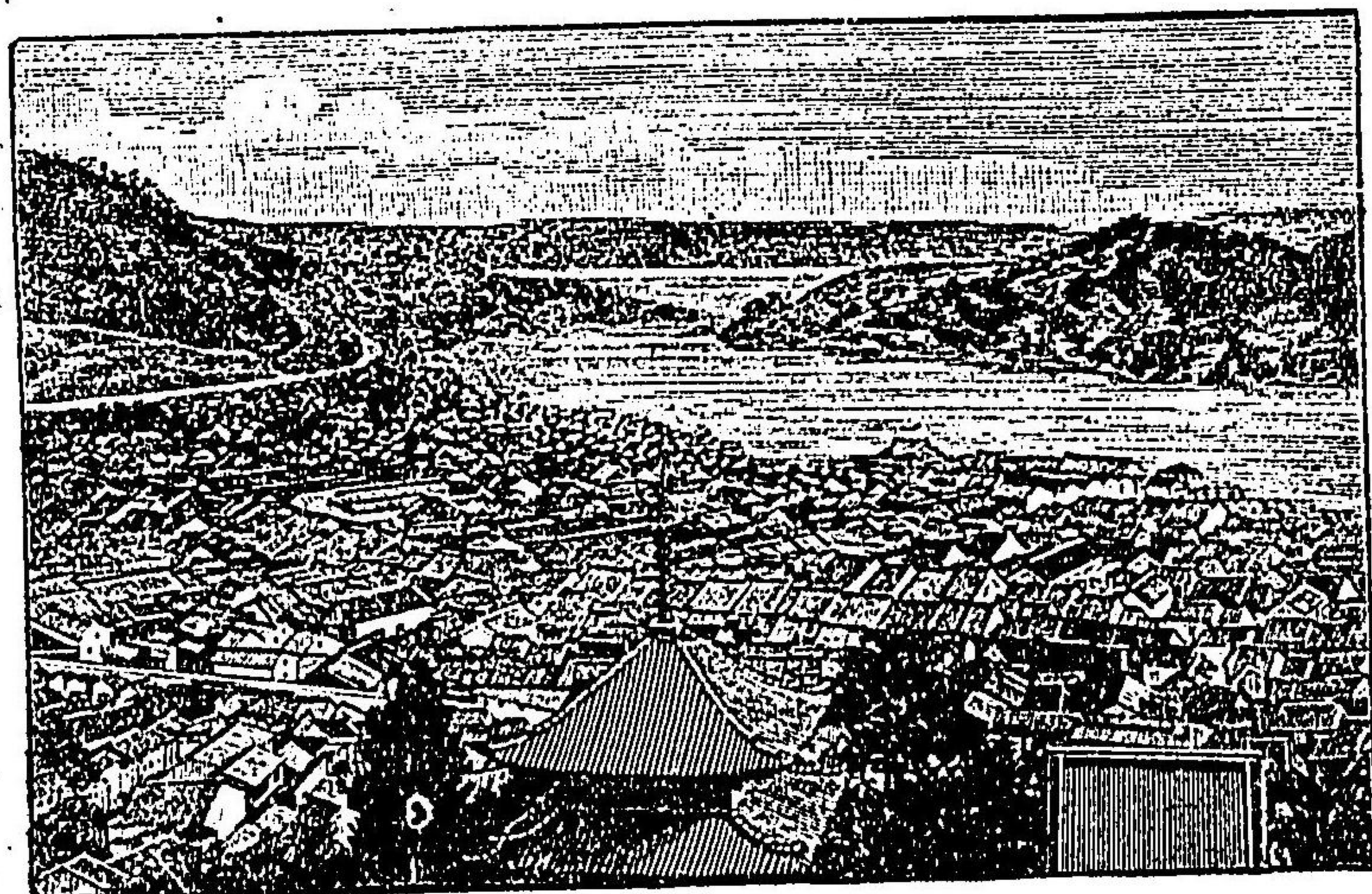
岡 山 後 樂 園

後に入る。和氣の南に、有名なる伊部燒(備前名)の産地なる伊部あり。○中國鐵道は、岡山より起り、津山に通ず。津山町は吉井川の上流に瀕し、南北の交通路に當り、作州第一の名邑なり。雲齋織、足袋等の特産を出す。その西方一里許に院庄あり。往時兒島高德が

櫻樹の詩を題せし古跡として有名なり。玉島町は、高粱川(西派)河口に近く、縣下の要津にして、商業地なり。高粱川の上流に高粱町あり、麥稈眞田を出す。其の西北、吹屋の銅山は、大同年間の開坑にして、今に至るまで盛に採掘せらる。

廣島縣 廣島市は、縣廳所在の地にして、太田川の三稜洲に位し、南海岸に宇品港を控へ、水陸の便を併せ、市況繁華にして、人口十二萬餘、實に中國第一の大都會なり。第五師團司令部控訴院を此の地に置く。廿七八年の戦役には、本市に大本營を置かれたるを以て、其の名大に著る。廣島の東南、吳は、第二海軍鎮守府の所在地なり。

山陽鐵道は備中より來り、福山、尾道、糸崎を経て、廣島を過



ぎ、西の方山口縣の域に入る。

福山町の南にある瀬

港は、一の要津にして、

保命酒の名産を出す。

尾道市は、内海第一

の良港を有す。船舶常

に輻湊し、商業頗盛な

り。鐵器を多く製す。

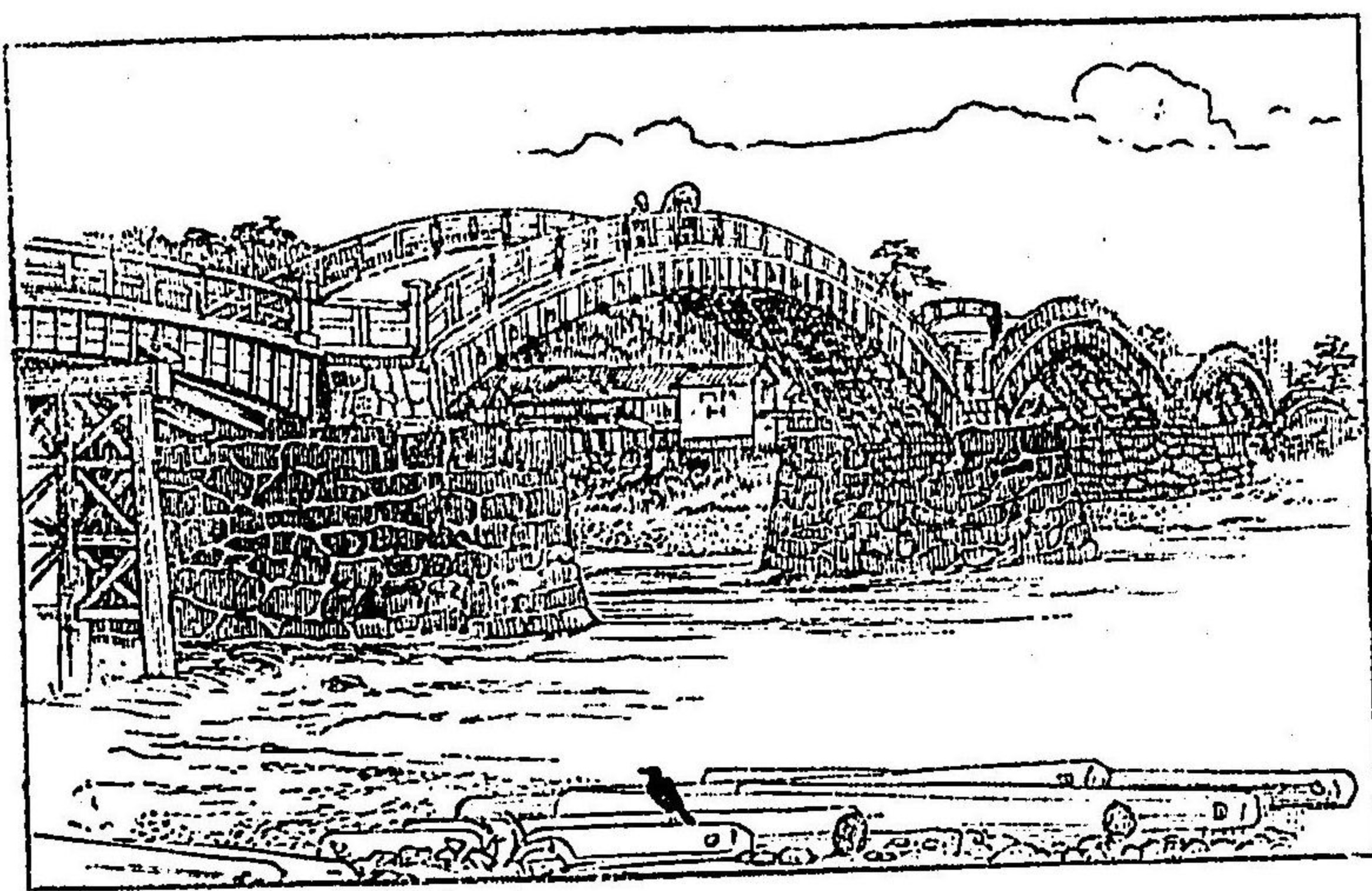
糸崎は開港場の一か

り。三次は江川の上

流なる三次川の畔に

尾 道 港

あり。備後より安藝に、
或は石見に通ずる要
路に當れるを以て、市
街繁華なり。
山口縣 山口町は縣
廳の所在地にして、又
第二十一旅團司令部
の設あり。山口高等學
校も此の處に在り。此
の地は、四面山を繞ら
し、要害の地なるによ
り、往昔大内氏此處に



錦 帶 橋

居城を置き、其の盛時は、關東の小田原と共に、天下の二大都會と稱せられしが、今は僅に山間の一小都會たるに過ぎず。(人口一萬七千餘)

山口の南方防府町は、縣下の要津なり。山陽鐵道は岩國徳山を經、此の地を通じ、西の方赤間關に達し、汽船によりて、九州鐵道と聯絡す。

岩國町は、岩國川(錦)に瀕す。此の川に架する錦帶橋は、奇巧を以て名あり。岩國縮を特産とす。赤間關市は、馬關又は下關とも稱せらる。開港場の一にして、主に、石炭を輸出す。赤間關と稱する硯材及び煙草は、市の名産なり。此の地は内海に通ずる咽喉に位するを以て、嚴重に砲臺を設けらる。又有名なる馬關條約は、當市に於て締結せられたるを

以て、市の名は宇内に響けり。

萩町は、長門の北海岸にあり。舊中國の雄藩毛利氏の城下にして、維新の際多く俊傑を出せり。此の地夏橙の産あり。島根縣 松江市は縣廳所在の地にして、人口三萬四千餘。山陰第一の都會なり。宍道湖に臨み、風景頗佳なり。

防州山口より國道に沿ひ、東北に山道を越え、津和野を經て、石見の海岸地方に出づれば、濱田に至る。濱田は開港場にして、紙の賣買盛なり。第五師團の分營此の地に置かる。それより、三瓶山を南に望み、杵築の南方を過ぎ、鰐川を渡り、湖南に沿ひ、松江を經て、伯耆に至るべし。杵築町は島根半島の西端にあり。出雲大社あるを以て、市街繁華なり。隱岐は、美保關を距ること十八里餘の海上にあり。

四大島より成る。東北の大島を島後トコノシマと云ひ、他の三島を島前シマノと云ふ。地質耕作に適せざれども、沿海は漁利に富めり。島後の西郷港は、良港にして、樞要の地なり。島前の中島に、後鳥羽上皇火葬所の址あり。

鳥取縣 鳥取市は、縣廳所在の地にして、千代川に瀕す。歩兵第四十聯隊の營所あり。

國道は、南に千代川に沿ひて、播州姫路に通ず。○山陰道往來は、西の方米子マコに、東は但馬丹波を経て遙に京都に通ず。米子町は、中海に瀕し、商業繁昌にして、繰綿の産あり。境港は、開港場にして、夜見濱の北端に位し、灣内水深く、北に島根半島を控へて、北風を防ぐ。故に冬季も碇泊稍安全なるを以て、船舶の出入多く、海産物の集散盛なり。

生業

◎生業 本域の北面は、地味瘠薄なれども、南面は肥沃にして農産に富めり。米は、山口縣に最多く産し、且良質を以て名あり。綿は鳥取縣の産額最多く、本邦第二なり。○牧牛は、一般に行はゆるも、廣島岡山二縣の頭數多きこと、全國中の首位を占む。○内海岸は製鹽業大に行はれ、山口縣の産出は、全國に冠たり。漁業は沿海到る處に行はるゝも、山口廣島の二縣最盛なり。○鑛業もよく行はれ、銀(大森山)及び鐵(砂鐵を産す)は石見より多く出で、特に鐵の産額大にして、本邦中第二に位す。銅は備中を最とす。(吹屋帯江の銅山最名あり)○製紙業は石見安藝を首とし、紡績業は、備前備中を推す。三備地方は疊表花筵の製造大に行はる。特に疊表は、備後表の名古來世に名高く、花筵は主として、備前備中に産出し、

多く海外に輸出せらる。備中産の麥・稗・眞田も、亦著名の製品なり。

四國區

本區は四國島全體にして、縣の區劃は國域と異らず、即左の如し。

香川縣 (讃岐)

徳島縣 (阿波)

愛媛縣 (伊豫)

高知縣 (土佐)

地勢・氣候

●地勢・氣候 本島の形狀は、恰兩翼を廣げたる蝙蝠の如く、脊梁山脈其の兩翼を貫きて、概東西に走り、地勢自北東南の三方に傾き、河谷及び沿海僅に小平野を存せり。○氣候は、概して温暖あれども南面は、特に温度高し。雨量は南北著しき差異あり。北面は山陽地方と同じく、寡雨にして

海岸

製鹽に適すれども、南面は本邦中最多雨地方に屬せり。

●海岸 本島と淡路との間に有名なる鳴門海峡あり。潮流大渦をなし、舟行危険の處とす。鳴門海峡と之より南蒲生田岬との間は、紀伊水道の西岸にして、其の西南にある、室戸岬は、蹉跎岬と相對して、土佐灣を擁す。灣内鯨・鯨珊瑚・眞珠等の産多し。此の灣の一部は、昔地震の爲に陸地の陥没して成りしものなりと云ふ。西岸には、佐田岬遠く海中に突出し、(岬の長十五里)九州の地藏岬と相對して、豊後海峡を挾む。(海峡の長三里)其の南は、豊後水道の東岸にして、出入犬牙の如く交はれども、北は平直にして、屈曲に乏しく、盡端大隅鼻は、箱岬と相對して、燧灘を抱く。其の東の海岸に、多度津・丸龜・高松等の要津あり。

山河

●山河 四國山脈は、高原性にして、著しき高山なし。阿波の劍山ツルギヤマは、脈中の最高峰にして、海拔六千尺以上に達す。山中に安德帝の御劍を奉祀す。伊豫の別子銅山ベツシは、銅の産額足尾に亞ぐ。市川鑛山其の近傍にあり。アンナモニーの産出世界第一なり。讚岐の象頭山には、名高き金刀比羅宮あり。賽客陸續す。伊豫の石槌山は、火山にして四國第一の高峯なり。(もと第一の高山とせり)○吉野川は一に四國三郎の稱あり。島中第一の大河にして、源を伊豫土佐の兩國に發し、東流五十餘里、數派に分れて海に入る。其の河谷は、廣くして農産豊かに、特に、藍の産額は、全國中第一なり。其他那賀川、仁淀川、渡川(一名四)、肱河等稍大なり。

交通

●交通 本區は、脊梁山脈南北の交通を妨げ、主要の道路

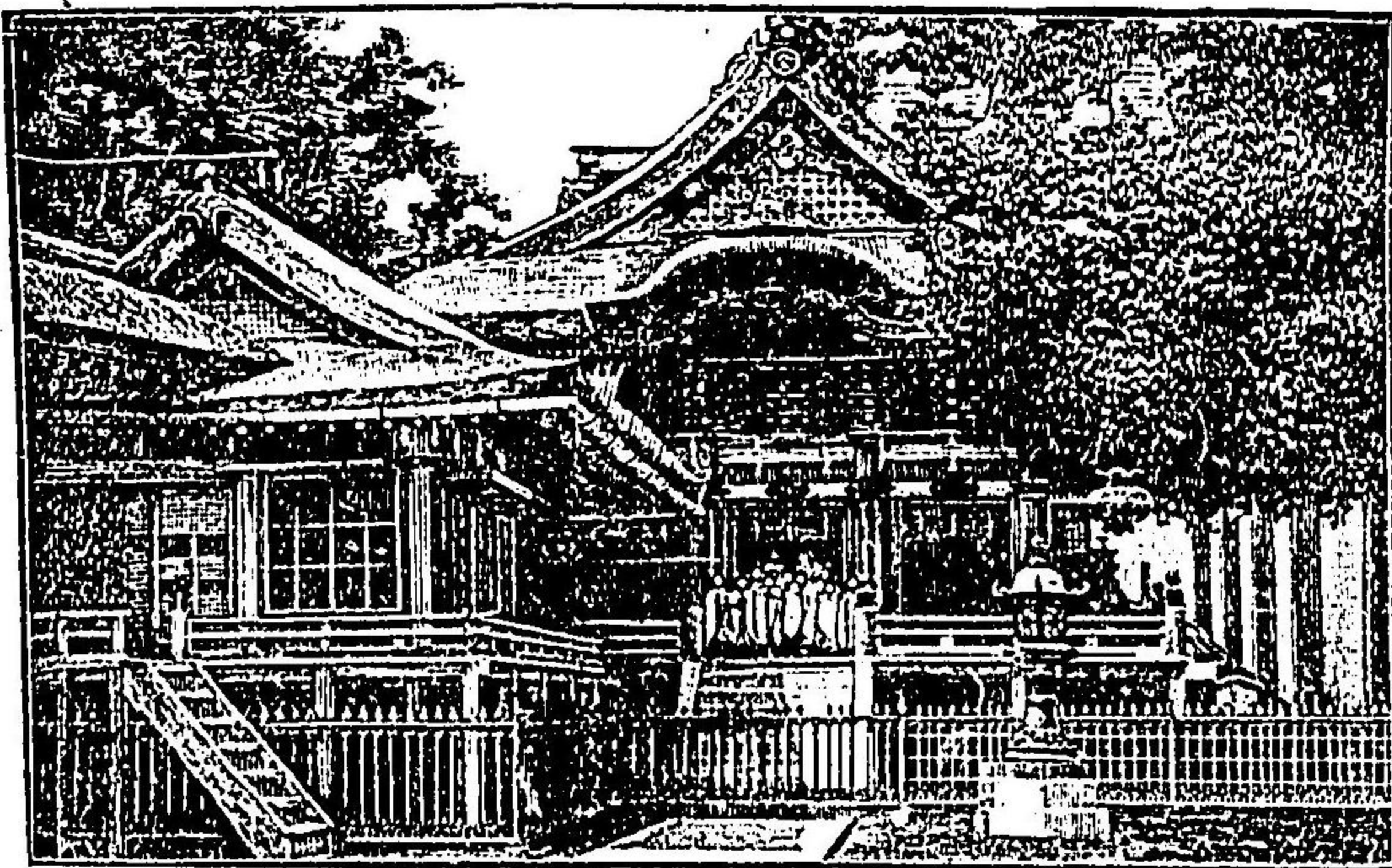
處誌

は、概*沿海地方を通ず。鐵道の延長は甚遅く、讚岐鐵道の外、僅に徳島及び松山附近に短距離線あるのみ。北部は内海に瀕し、定期汽船の往復頻繁なるを以て、海路の交通甚便なれども、南部は太平洋に面し、交通極めて不便なり。

●處誌

徳島縣 徳島市は、縣廳所在の地にして、人口六萬餘、四國第一の都會なり。吉野川の三角洲に位し、遭運の便あり。商業盛に行はる。又絨織ニセウ又阿波縮アハチヂム綿ワタヲルを多く出す。其の北方に、撫養港あり。淡路に渡る要津にして、有名なる齋田鹽(品質赤穂に次ぐ)の産地なり。

國道は徳島より土佐に至る二條の國道あり。一は南沿海地方を通じ、一は吉野川の沿岸を西行するものなり。○吉



金 刀 比 羅 神 社

野川の流域には、徳島を起點とする徳島鐵道の短線あり。香川縣 高松市は、縣廳所在の地にして、小港を有し、定期汽船の寄港あり。市況繁華にして、保多織を産す。市の東方に、源平の古戰場なる屋島あり。其の東方の半島に五劍山あり。休火山の一にし

ても、五峯鑽立せしも、今其の一峰を缺けり。高松の西方白峯には、崇徳上皇の御陵あり。讃岐鐵道は、高松より西に坂出・丸龜・多度津を経て南琴平に到る。

丸龜市は、縣下第一の要津にして、第十一旅團司令部を此の處に置く。南方に善通寺あり。第十一師團司令部を設けらる。東南に讃岐富士の稱ある飯野山あり。多度津は、縣下の要津なり。琴平町は、金刀比羅宮(大己貴神)の在る所なり。

愛媛縣 松山市は、縣廳所在の地にして、西北に三津濱を控へ、市街繁華なり。松山縞及び松山紵(木綿)は、市の名産なり。此の地に歩兵聯隊の兵營を置く。東方に有名なる道

後の温泉あり。三津濱は、四國第一の魚市場なり。道後松山等の間に短距離の鐵道を通ず。高繩半島の東岸に今治の良泊あり。

國道は、東に高繩石槌の二峰を連ぬる山地を越え、それより海岸を通じて讚岐に入る。○松山より土佐に通ずる道路二線あり。(一)は、肱川を渡り、宇和島を過ぎて海岸を通ずるものと、(二)は、四國山脈を越え、仁淀川の流域に沿うて南するものと之なり。

高知縣 高知市は、縣廳所在の地にして、汲江灣に臨み、南方に浦戸灣を控へ、市況繁盛なり。此の地に、歩兵聯隊の兵營あり。○國道は二條あり。一は海岸を過ぎ一は國比佐を經、山路を越えて、阿波に通ず。○高知より西行すれば、仁淀

生業

川を渡りて須崎に到る。須崎は、良港を有し繁華の地なり。

◎生業 本域は、耕地狹小なるを以て、農産豊からず。讚岐

平野は、稍廣く地味肥沃にして、最よく米穀に適す。藍は、吉

野川の河谷に産し、其の産額全國の四分の一に及ぶ。甘蔗

は、香川、徳島の兩縣に多く栽培せられ、盛に砂糖を製出す。

(但製造法は幼稚なり)特に香川縣の産出は、臺灣を除くの外、全國第

一に位す。○鑛産は、別子の銅最重要にして、次は市川のア

ンナモニーなり。○製鹽業は、香川、徳島最盛にして、香川の

産額は、山口に亞ぐ。漁獵は、沿海到る處大に行はれ、特に香

川縣には、遠洋漁業に従事するもの少からず。土佐灣は、最

水産に富み、鯉節の産は、全國第二にして、珊瑚と共に其の

名高し。○工産には、北部の三縣多く木綿織を出す。(阿波、松山、

保多)高知縣は、製紙の業盛にして、土佐半紙の産額は全國の首位を占む(伊豫の紙、亦名あり)其の他伊豫には、榿樹多きを以て、木蠟を出し、土佐には樟樹を産するにより、樟腦を製出す。

九州區

本域は、九州島及び所屬の島嶼より成り、西海道中琉球の一國を除き、他の十一國即豊前・豊後・筑前・筑後・肥前・豊岐・對馬・肥後・日向・大隅・薩摩を含む、之を左の七縣に分つ。

福岡縣(豊前北半部) 佐賀縣(肥前)

長崎縣(肥前西部) 熊本縣(肥後)

大分縣(豊前南半部) 宮崎縣(日向)

鹿兒島縣(大隅)

地勢・氣候

●地勢・氣候 九州島は、海岸屈曲に富み、半島・港灣の數最

海岸

多く、山脈・火山脈縱横に交はり、恰脊梁山脈南北に連れるが如き觀を呈し、河流四方に向つて流れ、海岸及び河谷に小平地あり。○氣候は、南北により多少異なる處あれども、概して、温暖にして雨量に富み、特に南部は、本邦中の最多雨地方に屬す。

●海岸 西の海岸は、頗錯綜を極むと雖、東の海岸は、屈曲甚多からず。豊前の北端に門司港あり、馬關海峽の口を要し、國東半島、内海に突出し、其の南に大分灣を擁く。地蔵岬は、四國の佐田岬と相對して、豊後海峽を扼す。日向の海岸は、一帯平直にして、其の海上を日向灘と云ふ。南海岸には、雙脚に似たる大隅・薩摩の兩半島あり。中間に鹿兒島灣を抱く。灣内の櫻島には、有名なる活火山あり。大隅半島

の南端は、佐多岬にして、其の南に種子屋久大島等の諸島あり。之等を薩南諸島と稱す。薩摩半島の南端を、開聞岬と云ひ、西端を野間岬と云ふ。

馬關海峡を出づれば、響灘にして、若松港あり。鐘崎の西は、有名なる玄海灘にして、風濤頗險惡なり。沿岸に博多灣あり。元寇覆没の古戰場なり。砂嘴其の北方に横はり、志賀島に連る。之を海中道と稱し、風景恰天橋立に似たり。肥前半島は、地體分裂して、更に數個の半島を成し、海上には、大小の島嶼碁布羅列す。從ひて良港に富めり。北に斗出するは、東松浦半島(半島の名は郡名より來る)にして、其の東を唐津灣とし、西を伊萬里灣とす。海上にありて、日本海の入口を扼する壹岐對馬の二島は、軍事上最樞要の地なり。次に西北に

山誌

斗出するは、北松浦半島(半島の名は郡名より來る)にして、平戸島と共に平戸海峡を挟み、彼杵半島と相對して大村灣(一、名を擁す。灣は廣濶にして水深く、其の入口に佐世保の軍港あり。)平戸島の西南五島の近海には、多く鯨を産す。彼杵半島の南に突出するは、野母岬にして、長崎港を抱く。其の海上の高島は、石炭の産出を以て名あり。野母岬の東は、島原半島にして、口津あり。肥前半島の東を有明海(一名筑紫海)と稱す。其の南に宇土半島を斗出し、八代灣の水を分つ。西に羅列するは、天草群島にして、其の西方の海上を天草灘と云ふ。

●山誌 九州島の北部に筑紫山脈あり。中國山脈の續きにして、山勢は高峻ならざれども石炭を埋藏すること夥し。南部に九州南部山脈あり。豊後水道を隔て、四國山



阿蘇山噴火口

の其る成りよ口火小の個四てしく長細形の其りおに上頂の岳中は口火
壁周餘間十六約き深餘間百三約徑直しなを形圓畧てしに大最口火一第
及氣蒸水すえ絶りよ之りあ孔氣噴の狀斗漏に底口火此し如かるれ削恰
りなるせ示をさ部一の壁口火と孔氣噴の此即は圖上ず出噴を等灰山火

脈に連る。祖母岳
市房山を脈中の
高峰とす。特に祖
母岳は、豊後日向
の二國に跨り、海
拔六千尺、九州第
一の雄峰たり。（とも
市房山を最
高とせり。）此
の兩山脈の間に
大小幾座の火山
を噴起せり。之を
阿蘇火山脈と稱

水誌

ず。脈中の主山なる阿蘇山は、最雄大なる活火山にして、其
の外輪山は、長徑六里に亘り、中央更に五個の小火山あり。
其の一峰中岳より常に烟を噴く。外に霧島帶火山脈あ
り。霧島山は、本脈の盟主なり。此の他薩摩富士の稱ある開
聞岳及び櫻島等何れも著名の活火山あり。

●水誌 九州島は其の中央を北より南に貫ける高地に

よりて、河流を四方に分水す。其の南に注ぐものは、悉細流
に過ぎざれども、北に流るゝものは、大野川、遠賀川の如き
稍大なるものあり。二川の流域は共に肥沃の農産地にし
て、特に大野川は、肥後に通ずる便路を開けり。東の方太平
洋に注ぐものは、美々津川、一瀬川、大淀川等にして、西の方
東海斜面に屬するものは、筑後川、球磨川、内川等なり。

交通

筑後川は、世に筑紫二郎と稱せられ、九州第一の大河にして、源を豊後の山地に發し、西流して有明海に注ぐ。長凡三十五里、其の流域は、九州第一の沃野をなせり。球磨川は、本邦三急流の一にして水勢箭の如し。川内川は、長四十里、九州の最長河なり。下流凡十六里舟楫を通すべし。

●交通 中央の高地は、九州を東西兩部に分つ。東部は、一般に交通不便なれども、西部は、之に反し水陸共に頗る便利なり。本區を通ずる主要なる國道三條あり。(一)九州街道は、小倉より起り、西南行して海岸地方に出で、それより南行して鹿兒島に至る。(二)東部沿岸街道は、小倉より南行し鹿兒島に到りて、九州街道に合す。(三)長崎街道は、福岡より西行して長崎に通ず。○鐵道は九州鐵道を主とし、其の他數

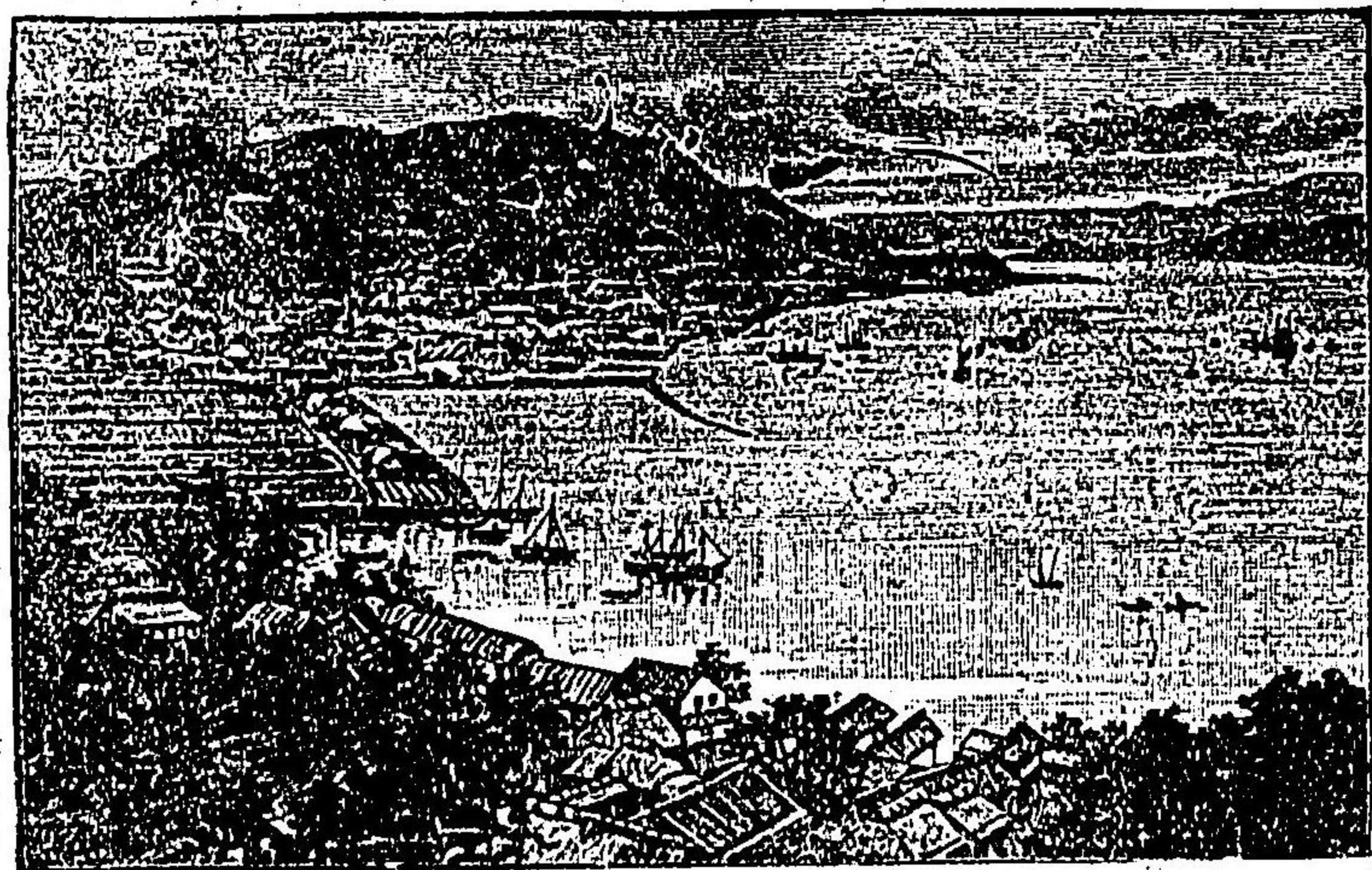
處誌

條を通ず。○汽船は、沿岸各港の間に定期往復頻繁なれども、東岸は、西岸より遙に稀疎なり。

●處誌

福岡縣 福岡市は、縣廳の所在地にして、又歩兵聯隊兵營を置かる。博多灣に臨み、博多を合せて一市をなす。水陸交通の便を兼ね、商業頗る繁盛にして、九州第二の都會たり。其の博多港は、開港場の一にして、頗る有望の地なり。博多織を市の名産とす。此の地の附近は、古來對外の史蹟に富めり。福岡の東北に箱崎香椎の二宮あり。共に其の名史上に著はる。又東南太宰府町には、昔時九州全部を管せし太宰府の遺跡及び菅原道眞を祀れる天滿宮あり。

九州鐵道は、門司より起り、小倉にて、支線を岐ち宇佐(大分縣下)

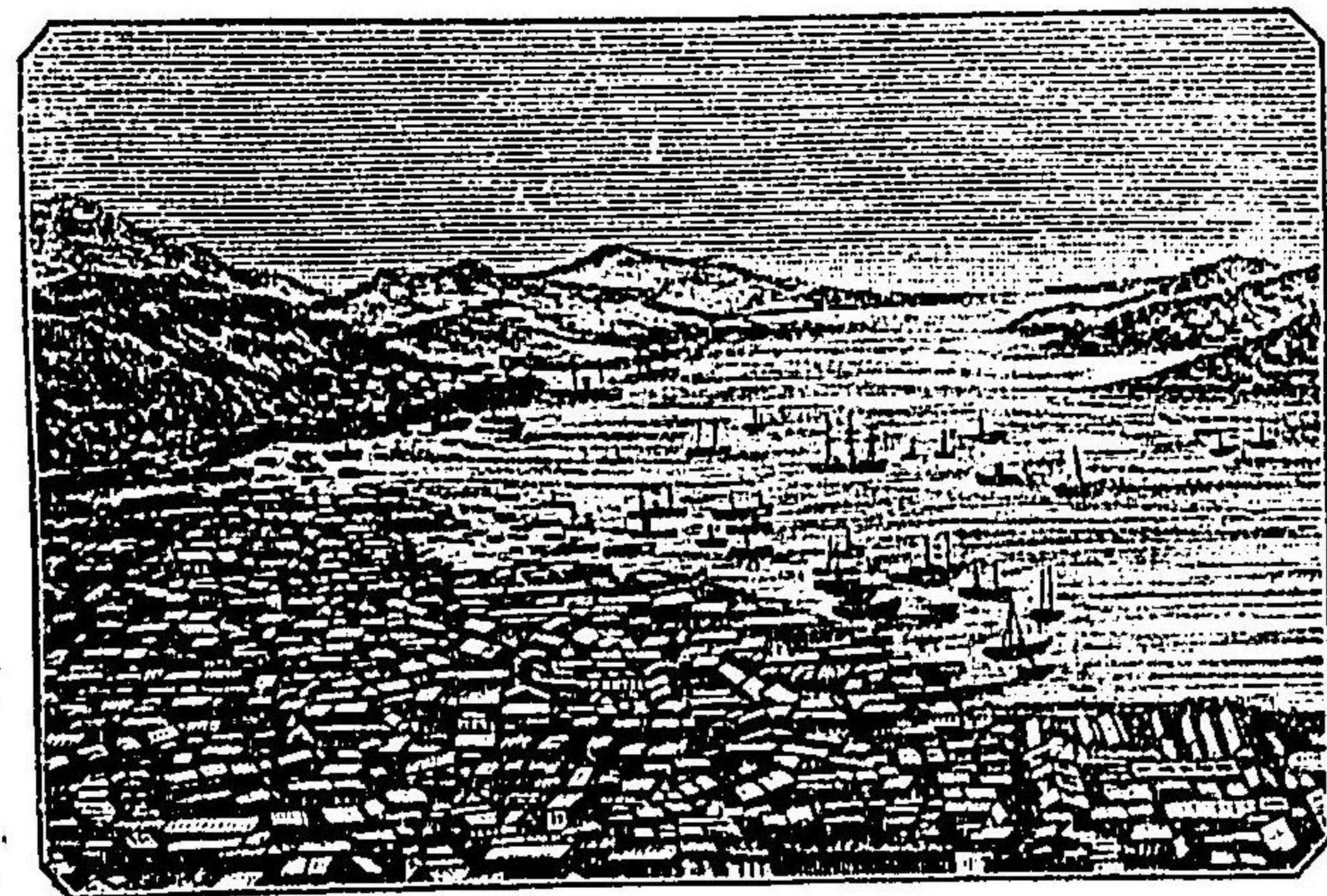


門 司 港

に通じ、本線は、遠賀川を越え、福岡を過ぎ、筑後川を渡り、久留米を経、有名なる三池炭の積出要港ある大牟田を通じ、熊本縣の域に入る。
門司市は、開港場の一にして、内海の咽喉に當り、盛に石炭を集散す。小倉町は、有名なる小倉織の本場なり。

此の地軍備上樞要なるにより、第十二師團の司令部を置かる。其の西の洞海に瀕する若松港は、遠賀郡上流一帯の炭田地方に鐵道を通じ、石炭積出の要港あり。有名なる八幡製鐵所は、其の近傍(一里)にあり。久留米市は、久留米絰及び疊表、花莫莖を多く産出す。
佐賀縣 佐賀市は、縣廳の所在地なり、九州鐵道の一支出長崎線此の地を通じ、有田を過ぎて長崎に至る。有田は北方伊萬里港に鐵道の便あり。有名なる有田燒(一名伊萬里燒)を産す。唐津は、佐賀の西北に位し、松浦川河口にあり。唐津燒、古來の名産にして、近年又唐津炭の産出頗多し。此の地に海軍の貯炭庫を置く。其の西北名護屋は、豊臣秀吉征韓の役に陣營を置きし處なり。

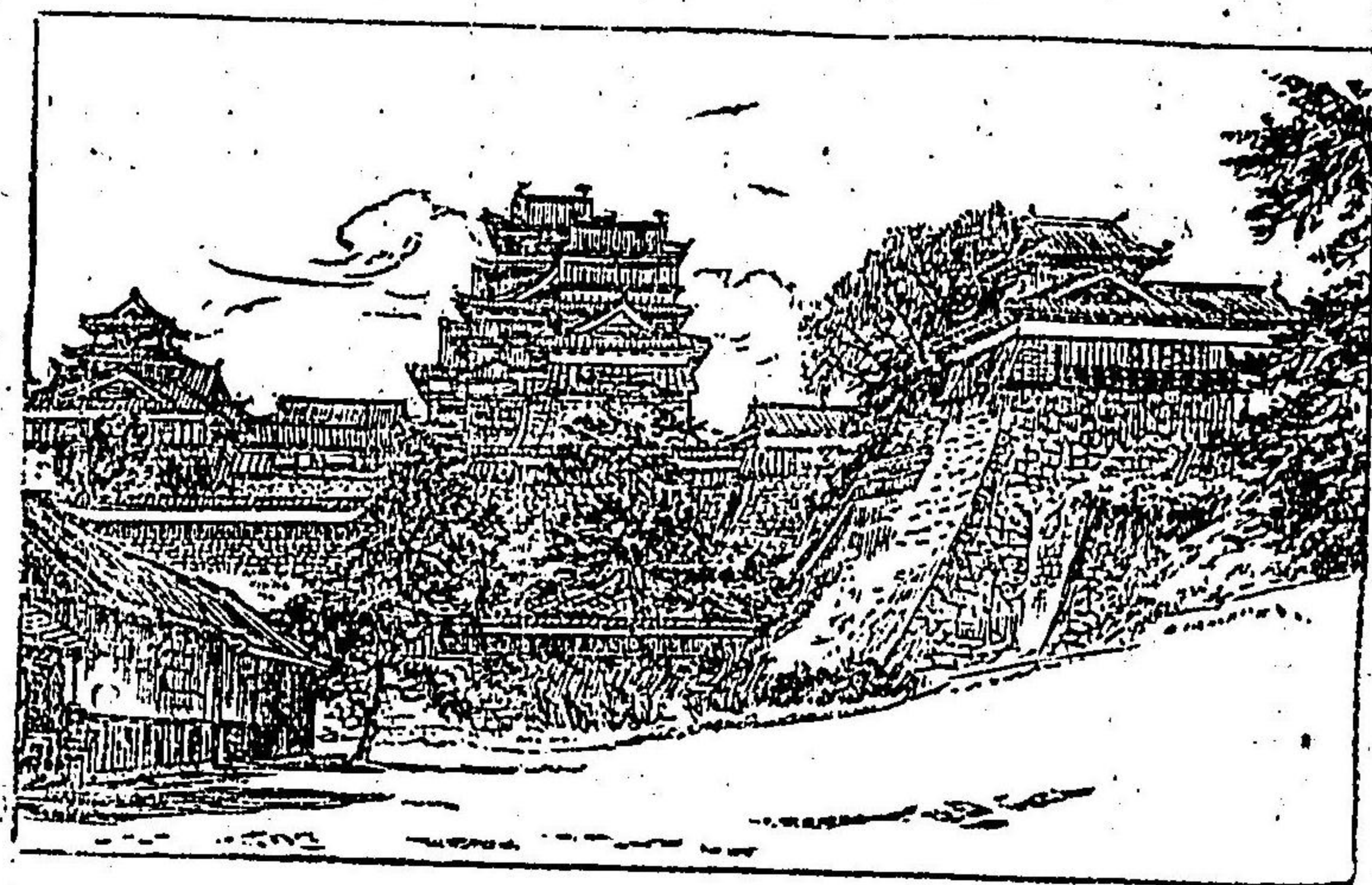
長崎縣 長崎市は舊五港の一にて、縣廳所在の地なり。人口十萬餘、九州第一の大都會たり。此の地に控訴院長崎醫



長崎港

學專門學校等を置く。輸出品の重なるものは、石炭、米等にして、輸入品は、砂糖、生牛皮、綿等なり。其の貿易額は、遠く横濱、神戸に及ばず。雖、海外航路の要衝に當り、港内は、廣からざれども水深くして、自然の良港をなし、

且宏大なる三菱造船所の設ありて、巨船の修復自在なるを以て、實に吾が國重要の商港たり。又往昔鎖國時代に在りては、吾が國唯一の開港場にして、泰西の文物は、悉此の地より輸入せられしなり。長崎煙草を市の名産とす。島原半島に口津あり。開港場の一なり。大村灣口に、佐世保町あり。軍港にして、第三鎮守府の設あり。平戸島の平戸は、往昔和蘭人との貿易場たりし地として名あり。五島の福江は、諸島中第一の名邑にして、捕鯨に従事するもの多し。壹岐に勝本の名邑あり。對馬の嚴原は、島廳の所在地にして、警備隊の設あり。鹿見及佐須奈と共に開港地にして、主として、朝鮮との貿易に従事す。對馬は、上下二島に分れ、兩島中央の淺海灣には砲臺を設け、本島の守備に



城 本 熊 舊

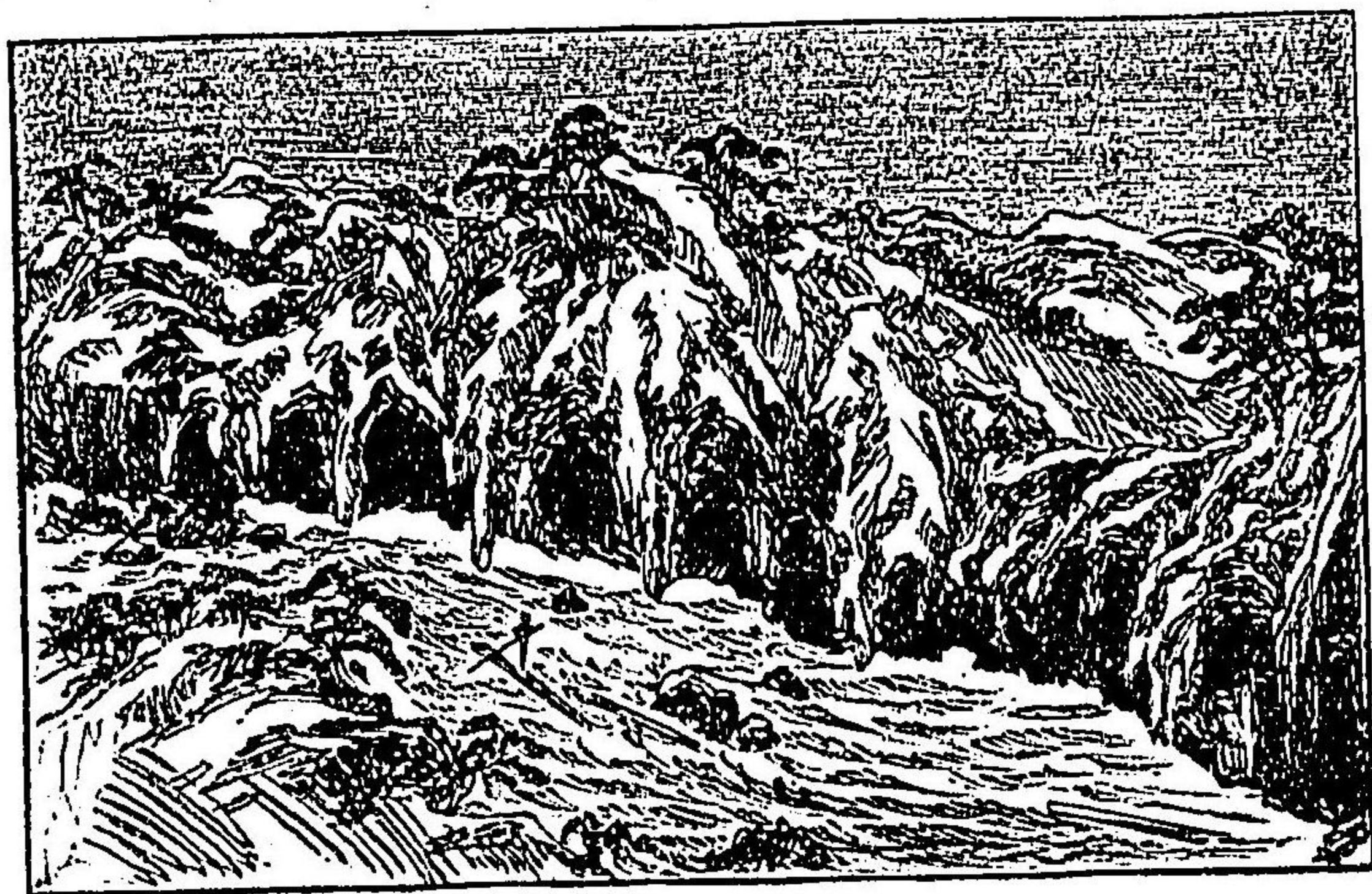
充てらる。竹敷は海軍要港の一なり。熊本縣 熊本市は九州の中央に位し、白川の右岸に臨み、縣廳の在る所なり。商業盛に行はれ、又第五高等學校の設あり。市の中央にある熊本城は、加藤清正の築きたる堅城にして、西南の役、谷干城の固守せし處あり。今第六師團の司令部

を此に置く。

九州鐵道は、佐賀縣より來り、菊池川を渡り、西南の役、官軍の苦戰せし田原坂附近を通じて熊本に達し、それより、南宇土半島の頸部を過ぎて八代に到る。

菊池川の上流に隈府町あり。菊池氏累代の城址なり。八代町は、球磨川の右岸に沿へる繁華の地なり。球磨川を溯れば、深山幽谷の間に五家莊の僻郷あり。傳へ云ふ昔平家の落人の隠れし處なりと。宇土半島の西端に三角港あり。開港場の一にして、多く米を輸出す。其の西南に天草群島あり。甘蔗、甘藷及び無煙炭を産す。

大分縣 大分町は、大分川に臨み、縣廳所在の地なれども、人口僅に一萬三千に過ぎず。其の東南臼杵町は、名邑に



耶馬溪

して、汽船の便あり。西
 北海岸の別府は、温泉を
 以て、其の名高し。由布嶽
 其の西北に屹立し、豊後
 富士の稱あり。
 九州鐵道は、福岡縣の域
 より來り、中津を過ぎ、宇
 佐八幡宮の鎮座せる宇
 佐に到る。他日延長して、
 大分に達せんとす。
 中津は、山國川に臨み、市
 况稍繁華なり。山國川

の上流は、有名なる耶馬溪の勝地にして、奇岩數里の間に

峙ち、本邦屈指の奇景たり。

宮崎縣 宮崎町は、大淀川に跨り、縣廳所在地あれども、人

口尙一萬に充たず。都城町は、宮崎の西南にあり。大隅に

通ずる要路に當り、縣下第一の市街にして、人口一萬餘、近

時茶業大に發達す。此の地に高千穂の宮址ありと云ふ。

(一) 説に五個瀬川上流
 の高千穂村とも云ふ)

(細説) 本縣下即日向國は、皇祖降臨の靈地として夙に開發
 したる地方なれども、山嶽域内に縱横し、殊に西境は、峻嶺鬱
 結し、平地乏しく、交通不便を極め、從ひて甚しく開明の氣運
 に後れ、今尙九州の北海道なりとの評を免かれず。但細島・油
 津等は、良港にして、大阪・神戸との間に汽船の往復あり。

鹿兒島縣 鹿兒島市は鹿兒島灣に瀕み、舊島津氏の城下

にして、今は、縣廳の所在地あり。近時又此の地に造士館第七高等學校を置かれ、其の海港は、船舶の碇泊に便なるを以て、市況賑なり。薩摩燒、薩摩煙草、薩摩上布、薩摩紵等の名産を出す。西郷隆盛の自盡せし城山は、市の近傍にあり。鹿兒島より、南行すれば、錫山を以て名高き谿山及び指宿等の名邑あり。西北行すれば、川内川を渡り、燒酎の名産地なる阿久根及び出水を過ぎて、熊本縣の域に入る。加治木村は、鹿兒島灣の北岸にあり。大隅最大の市街なり。國分村は、其の東北方にあり。國分煙草の名産地たり。種子島は、ホルトガル人の始めて鳥銃を傳へたる地あるを以て名あり。屋久島は、杉の良材を出す。此の二島の西南に散在せる列島を寶七島と云ふ。寶七島の南にある

は、大島諸島にして、大島、鬼界島、徳島、沖永良部島、與論島等順次羅列せり。其中、大島最大あり。大島紬、黒砂糖、疊表、芭蕉布等の名産を出す。鬼界島は、大島の東にあり。僧俊寛等の流されし處なるを以て、沖永良部島は、永良部縵を産するを以て、共に世に知らる。

(細説) 寶七島及び大島諸島は、舊小琉球と稱し、琉球の所屬なりしを、慶長年間島津氏之を征服せし以來、薩摩侯の所領に歸し、今尙鹿兒島縣の管内に入れり。然れども、地理學上より見れば、寧ろ南域なる琉球區に屬すべきものなり。

生業 九州は、一般に温暖にして、雨量多きを以て、農産は頗る豊なり。米は、熊本、福岡に多く産し、肥後米最良質を以て稱せらる。九州の西部なる鹿兒島、熊本、長崎等の諸縣は、多く甘蔗を栽培し、砂糖を製出す。○本域は、又よく樹木の

生育に適し、特に日向山林は、良質の巨材を出す。副産物として多く椎茸を産し、海外に輸出す。○牧畜は、稍盛にして、馬は鹿兒島熊本に多く、牛は豊後肥前に多し。○沿海は、一般に漁利に富めるも、特に肥前最盛にして、五島鯨五島鯨の名特に世に聞ゆ。○鑛業は、甚盛にして、石炭は、北部の諸處に産し、三池・筑豊・肥前(唐津・高島等)等諸炭田の産額夥しく、金は南部なる薩摩・大隅に最多く産し、全國中第一なり。○製造業は、未盛大からざれども、石炭の供給、其の他種々の關係により、將來甚有望なり。福岡縣は紡績及び製紙の業盛に行はれ、近時又製鐵業(官業)起れり。織物は、博多織・久留米・緋小倉織・薩摩緋等著名なり。疊・表・花・莫・産の製造は、豊後及び筑後に行はれ、陶器は、唐津・燒・有田・燒・薩摩・燒最名あり。

第二 南 域

本域は地勢上、分ちて琉球及び臺灣の二區となす。

琉球區

本區は、薩南諸島の西南海中に羅列せる、所謂琉球群島の全體を含む。之を分ちて、沖繩・宮古・八重山の三群島とす。後の二島彙は、之を總稱して、又先島列島と云ふ。諸島中の最大なる沖繩島を始め、島數五十有餘、全部沖繩縣の管轄に屬す。

地勢・氣候

●地勢・氣候 諸島到る處、山多けれども高からず。(一尺六最高)地味は悪しきにあらざれども、水利の便に乏しきを以て、米穀の産甚多からず。主として、甘藷の栽培に従事す。



琉球人の風俗

不人島ぶ緒てに前を帶しに左はく若右を冠す類に袖廣の地内は裝服
 る流に顔尿放てしと時せ杖に上頭を豚生はき如の女實豚すは根を深
 みのふ拭を之てしと然平もるあさこい

○氣候は、温暖にして殆、霜雪を知らず。四時綠葉鬱蒼とし
 て、特に熱帶的植物、盛に生育せり。

琉球人の容貌は、其の風俗と共に内地と稍異なる所あり。
 言語は小學教育の普及に従ひ、漸次内地語の増加を見
 ると雖、今なほ、一般に行はるゝに至らず。男女共に結髮
 して簪を挿み、女子は手背に入墨を施すの舊風、今に存
 すれども、之れ亦教育の効により、漸、其の俗を改めんと
 す。

處誌

●處誌

那覇區は沖繩島の西南海岸にあり。縣廳所在の地にして、
 人口三萬餘、縣下第一の都會にして、市況稍繁華なり。港は、
 開港場の一なれども、港内水淺く、大船を容るゝに便なら



那覇より首里の舊王城を望む

此處に見て以て左に在る隱に中林もどれあに方右の上丘は城王舊
後丘は街市の里首見え又もどれあ廟の初爲源に間樹の方左すは能
りあに

す。其の東方
一里餘に首里
區あり。舊藩主
尙氏の居城地
にして、城は今
尙丘上にあり
て、師範の校舎
に充てられ、其
の周圍に王子
士族等の邸宅
あり。此の地に
は、師範學校の

生業

外、中學校の設あり。運天港は沖繩島第一の良港なり。
◎生業 甘藷は到る所に栽培せられ、島民は之を常食に
充つ。又甘蔗多く、盛に之より砂糖を製出す。其の他泡盛飛
白芭蕉布・上布・紬・漆器等の産あり。

臺灣區

本區は、臺灣島及び其の附近の諸島を含む。此の地域は舊
清國の領土なりしが、明治廿七八年役戰勝の結果により、
清國より帝國に割讓せしものなり。其の地積九州島と略
相同じ。本域は總督府之を總管す。

(細説) 臺灣は總督府の下に臺北・基隆・淡水・深坑・宜蘭・桃園・
新竹・苗栗・臺中・彰化・南投・斗六・嘉義・鹽水港・臺南・蕃薯寮・鳳山・阿
猴・恒春・澎湖の二十廳を置く

地勢

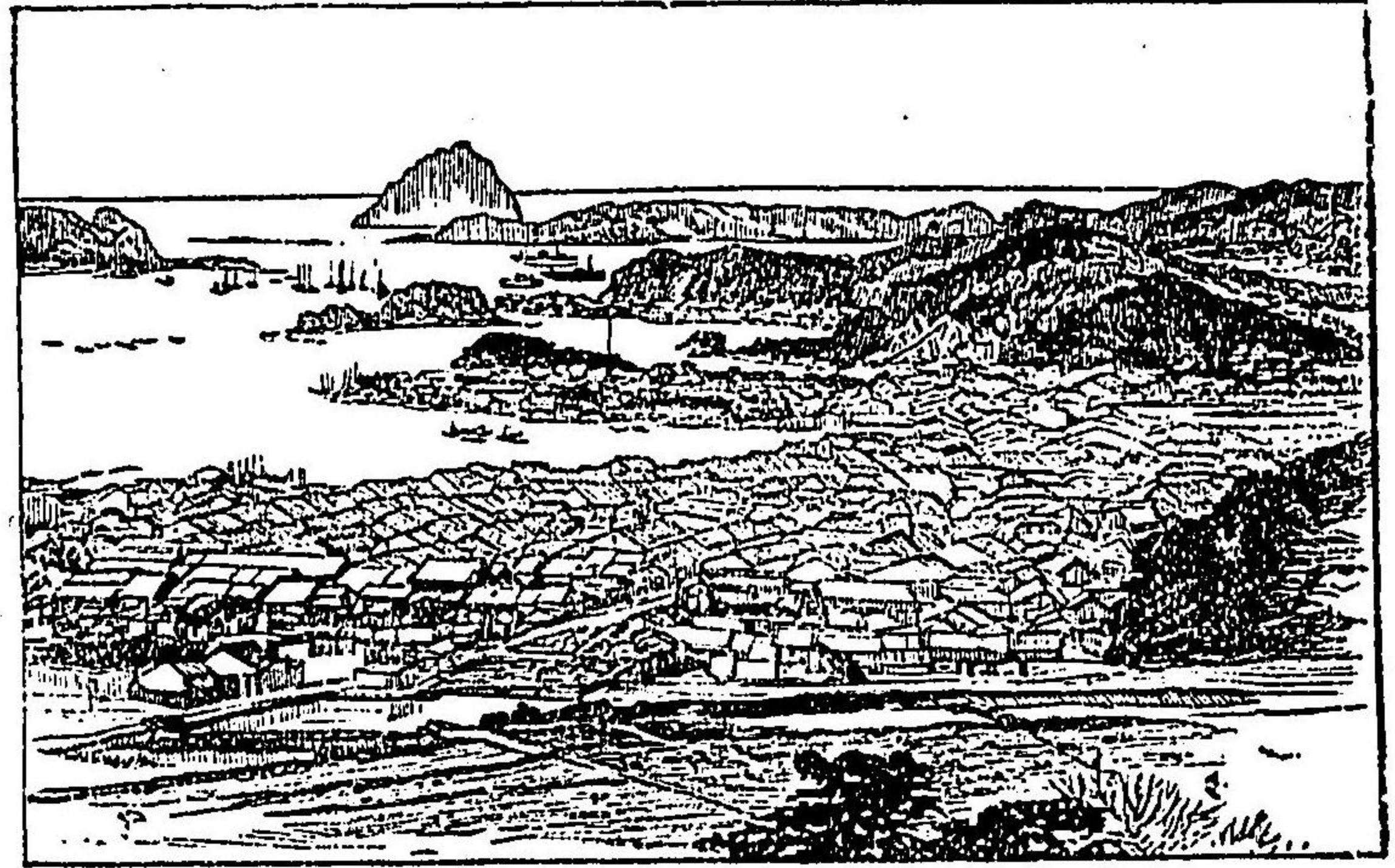
●地勢 本島の地形は、恰木葉の如く、其の中央より稍、東側に偏して、南北に貫ける大分水嶺あり、地勢之より東西に傾き、東部は山勢海濱に迫りて、平地寡けれども、西部は、沿海地方に一帶の平野をなせり。

氣候

●氣候 本島の南半は、熱帯に入るを以て、温熱なるは勿論なりと雖、元來島地なるを以て、海風氣温を和け、盛夏の候も凌ぎ難からず。但、温度に激變あり、晝夜の差著しきを以て、人の健康を害すること尠からず。雨量は、一般に富めるも、特に北部(冬季に)及び東部(夏季に)に夥し。

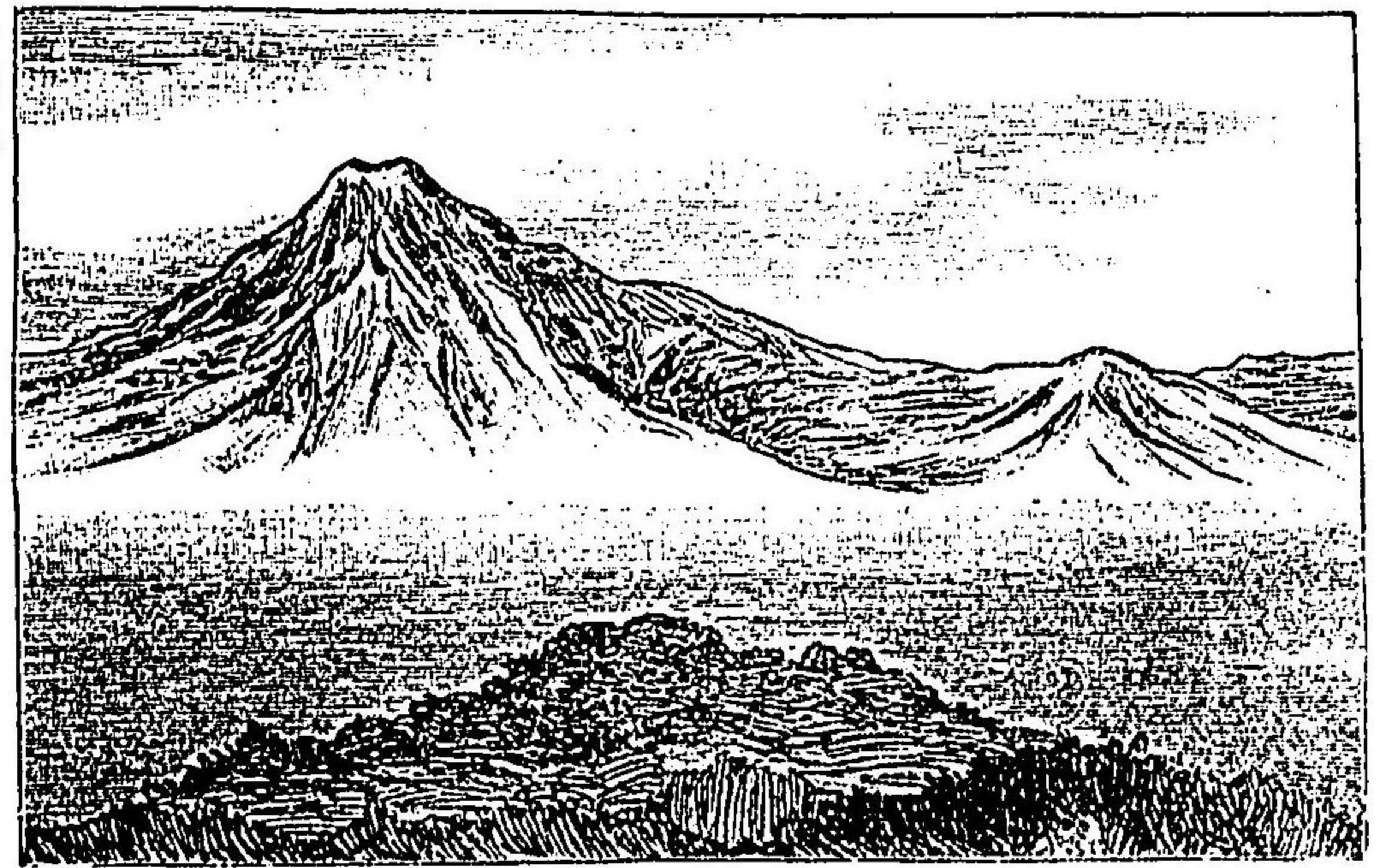
海岸

●海岸 本島の海岸は、最、屈曲に乏し。東岸は概して斷崖をなし、港灣少く、碇泊に便なるものは、唯蘇澳港あるのみ。西岸は、砂濱にして海底淺きを以て亦良港なし。北岸



基隆港

の東端を、三貂角と云ひ、明治二十八年五月皇軍の始めて上陸せし地なり。富貴角は本島の最北端にして、其の東に基隆港(龍巖)西に淡水港あり。共に開港場にして、特に基隆港は本島第一の良港なり。(港口諸所に暗礁ありと、冬季東北風烈しきとは、此の港の缺點なり。)



西海岸には打狗安
 平等の開港場あり。
 本島の南端を南岬
 と云ふ。(一名鷓)吾が
 國の最南端にして
 有名なる燈臺の設
 あり。其の西の小灣
 を南灣と云ふ。臺
 灣海峡に澎湖諸島
 あり。其の馬公港は
 如何なる方位の風
 をも避くるを得べ

新

高

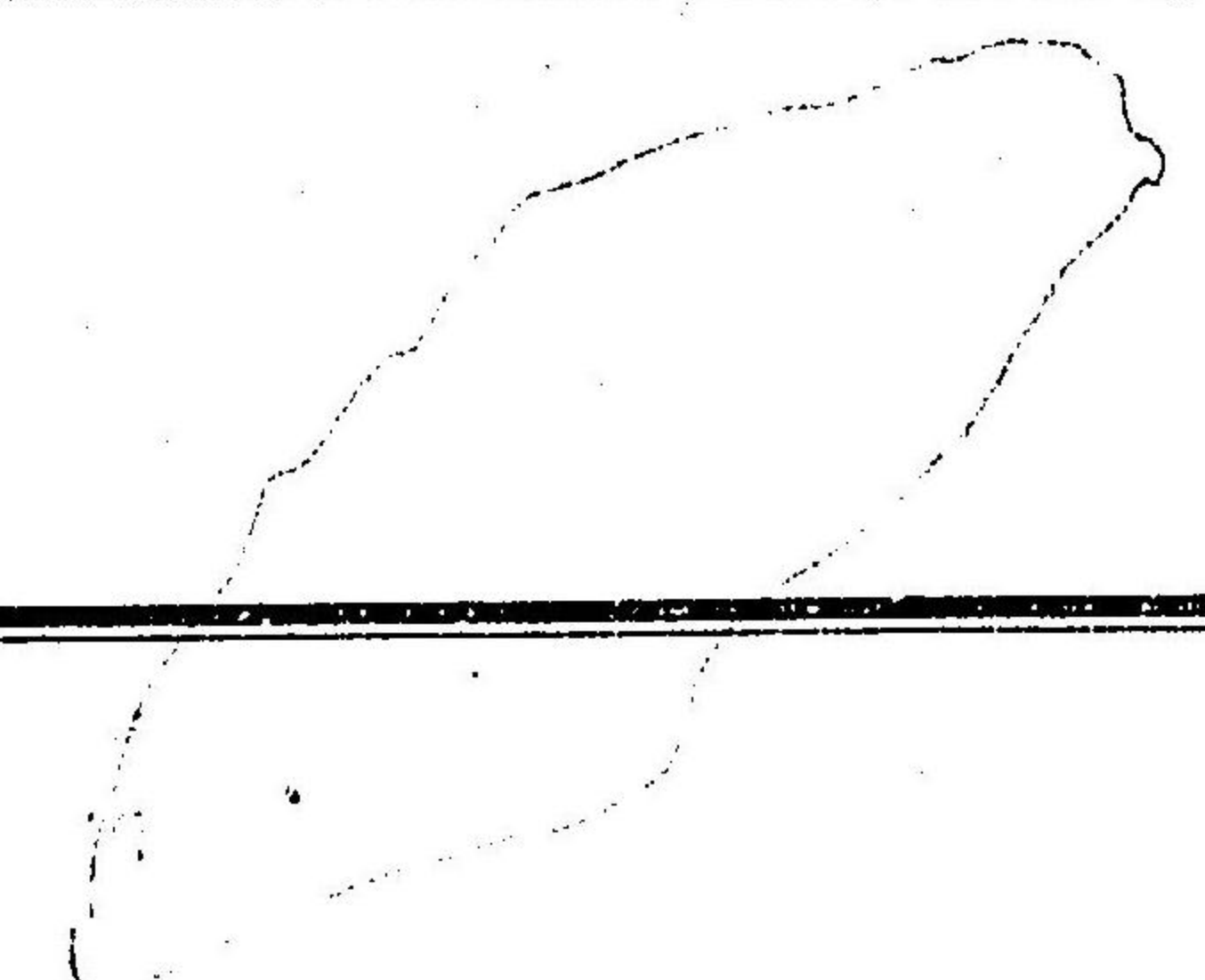
山河



(人類學教室所藏島居氏攝影寫真に據る)

山

し。實に臺灣區第一
 の良港と稱すべし。
(港外暗礁多きと、潮
 流急なるとの不利
 り。わ)
 ◎山河 臺灣島の
 脊梁をなせるを臺
 灣山系と云ふ。本邦
 最大の連嶺にして
 新高山・シルピヤ山
 等、皆一萬尺以上に
 達せり。新高山は、支
 那人の玉山と稱せ



しものにして主上新に此の名を命じ給ふ。海拔一萬三千六百尺、實に富岳を凌駕する高峰なり。又本島の北部には、大屯火山彙あり。霧島帶火山脈の一部にして、山脈附近の諸處に温泉を涌出す。○河流は、新高山脈によりて、東西に分水せられ、流水急にして、且長大なるものなし。稍、大なるものは淡水溪にして、上流を太崙坎溪と云ひ、シルピヤ山の北麓に發し、新店川を合せ、淡水港を過ぎて、海に注ぐ。下流には小汽船の往來あり。其他淡水溪、濁水溪等これに次ぐ。

交通

●交通 本島の交通は、之を舊清領たりし當時に較ぶれば、其の面目を一新せりと雖、之を内地に比すれば、尙甚不便なりと云はざるべからず。西部は、沿海地方に道路あり

と雖、車馬の便なく、只、轎と稱する乗物あるのみ。河流多くは、橋梁の設なく、竹筏を以て渡す。東部に至りては、山岳鬱結し、只、蕃民の往來するあるのみ。鐵道は、北部に臺北を起點とする一線と、南部に打狗を起點とする一線とあれども、二線を合せて僅に百數十哩に過ぎず。此の他尙輕便鐵道の設ありて本島の交通に便す。

處誌

●處誌

西北部(分水嶺以北) 臺北府は總督府及び廳の所在地にして、又混成第二旅團司令部を置かる。新店溪に臨み、鐵道を東北基隆に、西北淡水に、西南新竹に通じ、市街の規模廣大にして、且頗殷賑なり。此の地は方形の城壁(城壁の厚二間、高三間)を設けて、市を城内、城外に分つ。城南に猛岬の大市街あり。

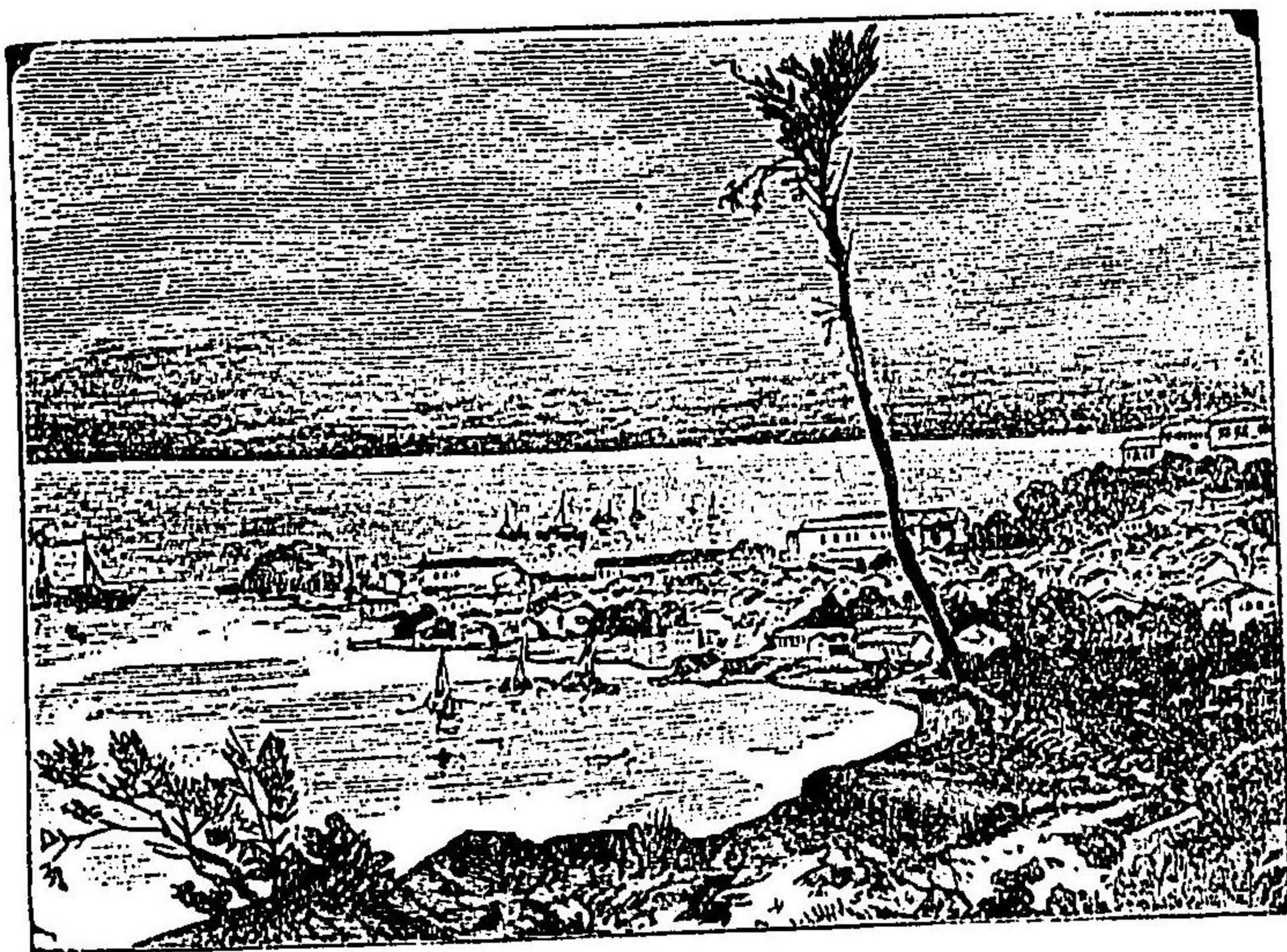
河口より此の地に小汽船を通ず。城北の大市街を大稻埕と云ふ。製茶の集散甚盛にして、艋舺と共に繁華の地なり。此の二市を合せて、臺北の人口は總べて五萬餘あり。(城内は人口五六千)基隆港は廳地にして、貿易場の一なり。主として石炭を輸出す。淡水港(一名泥尾)も亦廳地の一にして淡水河口にある開港場なり。本區中貿易最盛にして、茶樟腦等を盛に輸出す。新竹街も亦新竹廳の所在地にして、附近に開港場、舊港を控へ、稍繁華なり。臺灣鐵道は他日新竹より南方に延長し、臺南、打狗等と聯絡を通ずべき豫定なり。現時は新竹以南には輕便鐵道を通じ、樟腦の産出多き苗栗を過ぎ、臺中、彰化等を経て南行し、濁水溪を渡りて嘉義に到る。(本島は濁水溪の低地によりて地勢上、自南北二部によ

る分た)

臺中府は大肚溪の上流に臨み、臺中廳及び混成第二旅團司令部の所在地なり。市街の規模は大なれども、新設の地なれば住民未多からず。彰化街は臺中の西南にあり。廳地にして、西方に鹿港を控え、稍繁華なり。鹿港は貿易港の一あり。此の地巨商多く、且對岸清國に渡る最近の要津なるを以て、支那船の出入繁く、貨物の集散甚盛なり。

(細説) 後埔溪口に後埔港あり、貿易港の一なり。○大肚溪口に塗葛窟あり、輕便鐵道を臺中に通ず。臺中附近の貨物は主として此の港より輸出せらる。○塗葛窟の北方に梧棲港あり。

西南部(分水嶺以南)臺南府は臺南廳及び混成第三旅團司令部の所在地なり。府の周圍は城壁を繞らし、人口四萬七

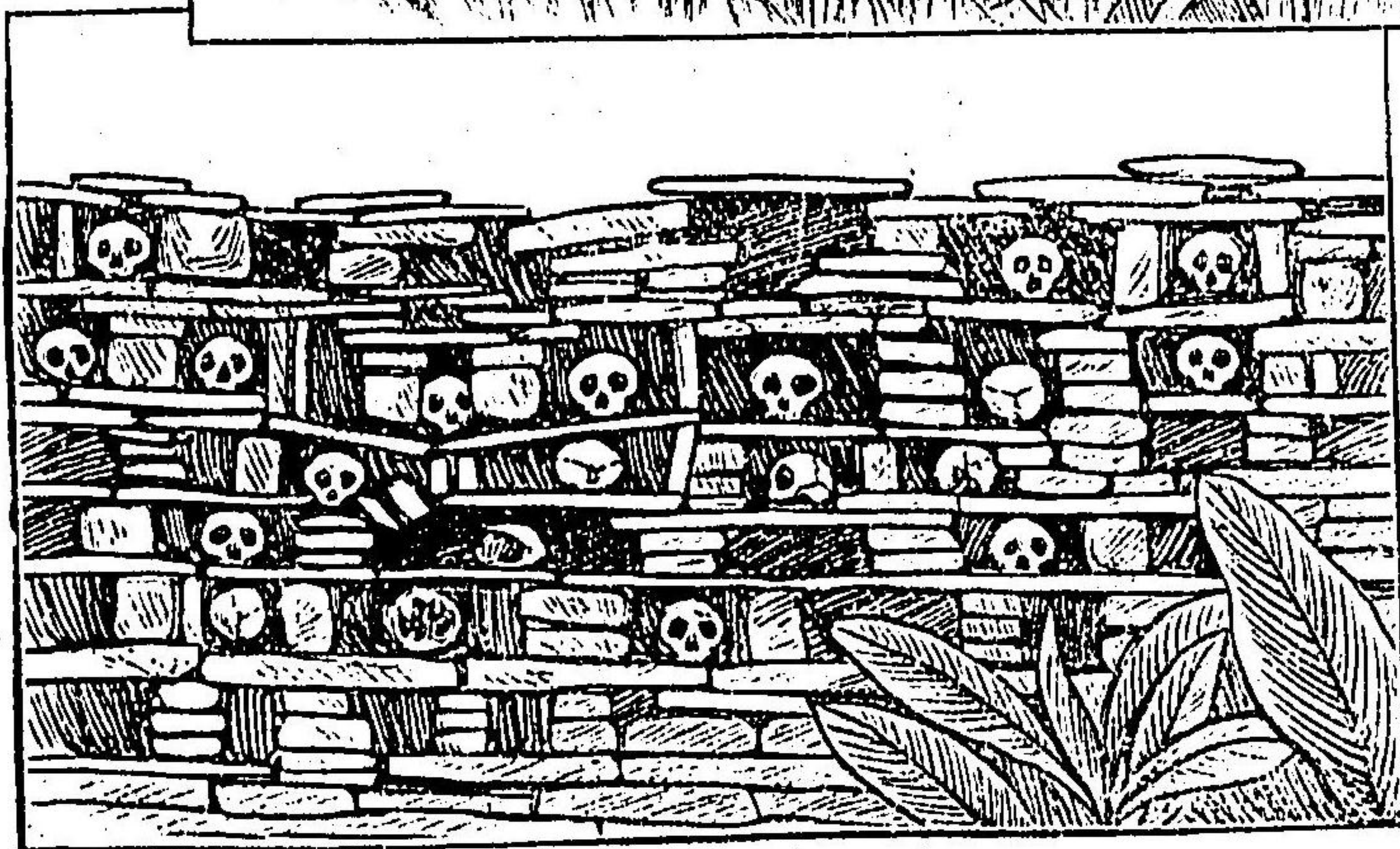


千あり。西方に安平
 港を控へ、市街頗繁
 華なり。安平港は
 打 開港場の一なり。港
 内土砂を堆積して、
 水淺く、船舶の碇泊
 港 港に便ならざれども、
 臺南の附屬港なる
 を以て、貿易盛に行
 はれ、米、砂糖、樟腦等
 の輸出夥し。
 臺灣鐵道の南部線

は臺南より南は鳳山を経て、打狗に達し、北は灣裡に到る。
 他日之より延長せば、嘉義、斗六を通ずる豫定なり。
 嘉義街は廳の所在地にして、西南部の一要區なり。其の
 西方に貿易場東石港あり。斗六街(雲林を合ひ)も亦廳地にし
 て、樟腦の産出甚盛なり。鳳山街は製糖業の一中心なり。
 其の西海岸に打狗の開港場あり。主として砂糖を輸出
 す。打狗の東南に東港あり。亦開港場にして、米穀の集散
 盛なり。恒春は本島最南の市街なり。其の東北に牡丹
 社あり。蕃人中凶暴あるもの一にして、今尙首狩の風習
 を存す。此の蕃人は明治七年我が征臺軍に最強く抵抗せ
 しを以て其の名を知らる。

(細説) 北港溪口に開港場下湖口あり。大板嶼港は南海中に

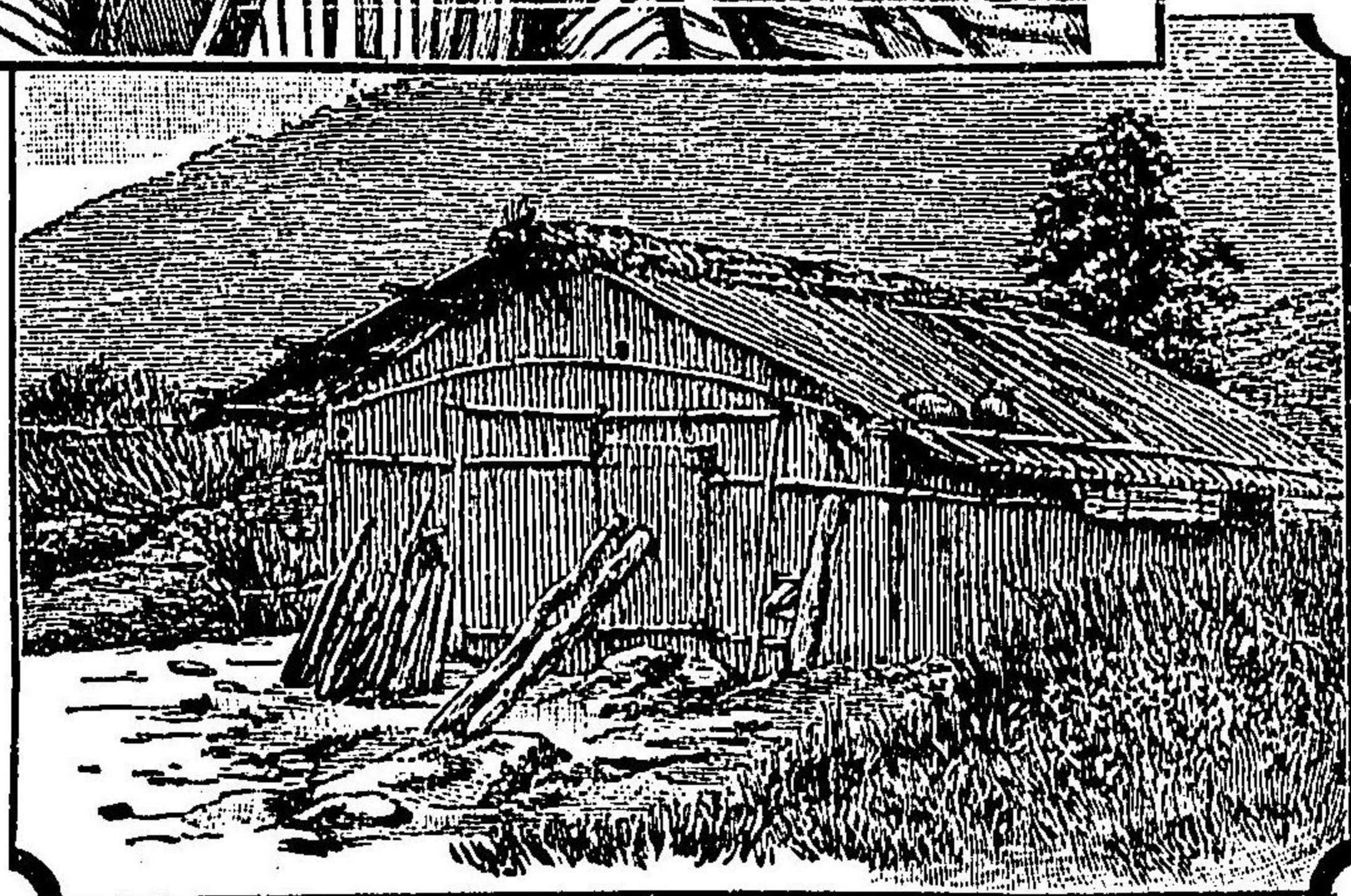
淡水溪上游之阿蘭族
 (圖甲) 圖の上途狩首
 甲圖は先年島居の氏分が分水嶺の上於て狩首の群一へ向に首狩に人々に
 遊近を彼等が撮影せられたる眞部一の首に背に負ひて携ふ銃小に手ひ帯を刀短



上蕃社首棚の圖
 (圖乙) 圖の棚首社蕃上
 乙圖も又島居の影係に眞部一の首狩好む蕃族は毎社に必
 一箇の首棚を有す棚首の個一に多り少其に様異なるに
 (二圖共人類學教室所藏眞據る)

ある天然の良港にして、港内は水深く汽船の碇泊に便なり。其の面積は基隆より廣く、且恒春を距ると一里半に過ぎず。東部 宜蘭は宜蘭平野にあり。宜蘭廳の所在地にして、熟蕃人の最多く住居する處なり。蘇澳港は宜蘭の南方にあり。水深く東海岸唯一の良港にして、開港場の一なり。卑南は卑南溪の平野に位し、臺東廳の所在地なり。臺東廳管下は、東部一帯生蕃の域にして、舊時は、殆不明の暗界かりしも、今や内地人の探検漸周く、域内の狀況略審なるに至れり。蕃族は、溪間處々に數多の村落をなし、之を何社と稱し、各酋長を戴き、一般に農業に従事するも、處により獵業・漁業を併せ營めり。生蕃は、體格・言語・風俗等により、之を數派に細別すべし

(蕃面 鯨有) 女 男 の 人 蕃



屋 家 の 蕃 面 鯨 有

は人蕃るす住に北以線の此げせ劃を線一に西東りよ社里埔るな流上の揆肚大
び及央中の額前は于男りあ唇風す施を墨刺に面顔に共女男てしに蕃面鯨有即
口りよ邊耳兩右左は于女す施を線一るたり成てれ重を線直の分三約徑に部領
四徑ち穿を孔に柔耳兩又す施を墨刺るれ成りよさ紋狀網さ線曲き如の圖に側
るは行に大風の首截尙今てしに暴凶買性す入招を管竹の分五

(東京大學所藏島居氏攝影寫眞による)

と雖、一般に馬來種に屬するを以て、膚色は黃褐色を帶
び、顔に鬚髯を生せず。容貌は世人の想像するが如く、獐
悪ならず。氣質は概、殺伐にして、中には、首狩を得意とす
る種族ありと雖、決して人肉を喰ふが如き醜風を見ず。
固より文字なく、歴日なしと雖、親子の情深く、特に一夫
一婦の義を堅く守り、盜賊を嚴禁する等の美風を有す。
食物は粟米を主とし、魚介鳥獸等の肉を併食す。衣服家
屋の制は、種族により、大に其の様を異にするを以て、一
概に言ひ難けれども、有鯨面蕃の如きは、竹木を組み
家を構へ、麻布を織りて、之を身に纏ふと云ふ。
澎湖諸島 本群島は、白沙、澎湖、漁翁の三大島と、數多の小
嶼より成り、三島相擁して内海をなす。中に最大なるは、澎

湖島にして、島内に馬公城あり。澎湖廳の所在地なり。軍事上樞要の地なるを以て、要塞砲兵隊を置く。此の港は開港場にして、又海軍要港の一なり。港口には砲臺及び燈臺の設あり。

澎湖諸島は海拔二百尺に足らざる低島にして、(最高點六尺)水利乏しく、風威強烈なるが爲、植物の生育悪しく、喬木なく、米穀を生せず。僅に落花生、甘藷等を産するに過ぎず。而も以て、島民の需用を充すに足らず。住民約五千餘に過ぎず。然れども臺灣海峽の要衝に當り、軍事上、交通上極めて樞要の地なり。
清佛戦争の際、一時佛軍の根據地となりしことあり。日清戦役には、比志島支隊、此の地を占領せり。

生業



澎湖土人の耕作

此圖は土人の水牛を以て耕作するを記し、其の地は、凡そ農業に用ひらるる地なり。其の地は、凡そ農業に用ひらるる地なり。其の地は、凡そ農業に用ひらるる地なり。

●生業

本區は、氣候温熱に、雨量夥しきを以て、熱帶性の植物、鬱林をなし、各種の農産物、甚饒多にして、米、甘藷は一

年二三回の收穫あり。又多く甘蔗を産し、米・茶・砂糖は、樟腦と共に臺灣の四大富源と云ふべし。茶は、北部地方に多く砂糖は、南部地方を主とし、樟腦は中央の山地より出で、其の産額は、世界第一に位す。その他礦物には、石炭・石油・硫黄・砂金等あり。家畜には、豚・水牛等を出し、果實には、檳榔子（鳳梨）、梨、龍眼肉、柑類等を産す。

第三 北城

本域は吾が邦の最北部に位せる十州島及び千島列島より成れる北海道全體を含む。十州は本州に次ける大島にして、實に全國面積の六分一を占む。之を渡島・後志・石狩・天鹽・北見・根室・釧路・十勝・日高・膽振の十國に分ち、千島を合せて十一國とす。然れども、土地いまだ開けず。人口甚稀小に

して、一方里僅に百餘人を容るゝに過ぎず。全城北海道廳の管轄に屬す。之を南城の區分に比し、十州及び千島の二區に分つ。

十州區

地勢 十州島は地形恰（赤罽）の躍れるが如くにして、山脈十字形に交叉し、其の交叉せる處、地勢最高峻にして、河流四方に分流し、石狩・十勝・釧路等の大平野をなす。

氣候 本區は吾が邦の北端を占むるを以て、從つて氣候の寒冷なるべきは勿論なりと雖、世人の想像するが如く甚しからず。西岸は對馬海流の影響を受くるにより、寒流に洗はるゝ東岸に比すれば、稍温暖にして、又雨雪の量も多し。但、雨量は一般に少く、從つて北陸地方の如き深雪を見

海岸

す。特に東北海岸は本邦中最寡雨地なり。

◎海岸 十州の西南に位し。赤罈の尾に當るは渡島半島にして、函館灣は津輕海峽を隔て、陸奥灣に對す。灣頭に五港の一なる函館港あり。其の西に斗出するは白神岬にして、陸奥の龍飛岬と相呼應し、又東の岬角は惠山岬にして、陸奥の尻屋岬と相對す。惠山岬の西北に在る圓狀の灣を内浦灣(一名火)と稱し、灣口に室蘭の軍港あり。之より東南襟裳岬に至る間は、海岸曲りて弓形を成せり。襟裳岬より東北納沙布岬に至る間も亦弓形に曲り、其の間に厚岸灣あり。納沙布岬と知床岬との間は、根室灣にして、根室海峽により國後島を分つ。知床岬より宗谷岬に至る間はオコツク海に瀕し、又弓狀にして屈曲に乏しく、良港無し。

山誌

宗谷岬は同名の海峽を隔て、露領樺太島の南端と對す。該岬を廻れば日本海にして、禮文・利尻(シリは島若)の二島相并べり。共に漁業の盛ある地なり。日本海に突出するは、積丹半島(處の義)にして、東に小樽港あり。日本海有數の良港なり。其の他壽都・増毛・江差・福山等の諸港あり。

◎山誌 十州島は石狩平野によりて地勢上たのづから東西の兩部に分たる。西部は赤罈の尾に當る狹小なる地域にして、之を東部に比すれば山岳平野共に小なるのみならず、膽振火山脈の火山群立するを以て、平低の地甚寡し。マツカリヌプリ(ヌプリ又はノボリ)を其の最高とす。東部には蝦夷山脈ありて、北、宗谷岬より南、襟裳岬に連亘し、千島火山脈東より來りて之に會し、其の交叉する處は

水誌

地勢最高峻にして、ヌタプカウシユベ・オプダテシケ及び石狩岳(蝦夷山脈中)の最高峰(十勝岳等)の諸高峰鬱結し何れも數千尺に達せり。

●水誌 石狩川・天鹽川・十勝川は悉、東部に在りて、北海道の三大河と稱せられ、水源を中央山彙に發して四方に分流す。就中最大なるを石狩川とす。其の上流は頗、激流なれども、中流以下凡五六十里間は小蒸汽船を通すべし。且多く鮭を産す。全長凡九十三里、實に日本第二の長流なり。之に次ぐを天鹽川とす。此の河は水勢緩にして流木の河中に横はるもの少く、舟行に便なるは石狩川と大に異なる處なり。之等諸川の流域は、何れも將來有望の原野にして、耕地又は牧場に適するもの茫々として其の際涯を知らず。空

交通

しく人の開拓を待てり。

湖沼には、澤湖又は火口湖多し。最大なるものを、北見の猿間湖とす。周回二十七里あり。北は一條の砂丘横はり、一方開きて海に通ず。其の他楓蓮湖(洞爺湖支笏湖等)あり。

●交通 本區は開拓未、周からざるを以て、交通甚、困難なり。道路は、函館より根室に通ずる南岸街道、及び北岸街道の二條あれども、峻悪なる處寡からず。○鐵道は夕張幌内(空知太等の諸炭山と小樽室蘭の二港とを連絡せる炭礦鐵道及び之より旭川に通じ更に岐れて北は天鹽南は十勝を貫通せんとする官線あり。此の他は硫黃運輸に供する釧路港附近の短距離線あるのみ。○海路には、函館を起點として、小樽・室蘭・根室等に定期汽船の往復あり。

處誌

●處誌 札幌區は石狩平原の西方、豊平川に臨める一都會にして、北海道廳の所在地なり。又有名なる農學校の設あり。製糖製麻等の諸會社あり。街衢整正、市況繁盛にして、鐵道は西に小樽南に室蘭、東北に諸炭山地方を聯絡して、交通頗便なり。小樽は後志の北岸にある開港場の一にして、其の札幌に於ける關係は、恰横濱の東京に於けるが如きのみならず、又石狩川上流地方へ通ずる門戸をなせるを以て、船舶常に輻湊し、貨物の集散極めて盛に、實に北海道第一の要津たり。石狩川の上流に旭川あり。十州の中央なる上川の原野に位し、第七師團司令部の所在地にして、又他日離宮を設けらるゝ豫定地なり。此の地は北海道の新市街なれども、其の發達著しく、現時其の繁榮札幌

に亞ぐ。室蘭は膽振の南端にあり。繪鞆岬其の口を擁し、良港をなす。開港場の一にして、石炭・硫黄・滿俺礦・木材及び板・酸に限り輸出するを得。第五海軍鎮守府の指定地なり。炭礦鐵道は此の地を起點とし、汽船は函館青森に定期往來し、海陸交通の要衝に當れるにより、頗有望の地なり。

函館區は函館灣に臨み、支廳控訴院等の所在地にして、人口七萬八千、北海道第一の都會なり。港は舊五港の一にて、水深く、巨船の碇泊安全なるにより、貨物の出入繁く、商業頗盛なり。此の地は津輕海峽通過航路の咽喉を扼し、交通上頗樞要の地なるを以て、他日日本海の航行盛なるの日は其の繁榮期して待つべし。函館の近傍餘里に五稜廓あり。維新の史上に名を得たる地にして、今は其の外濠にて

氷を製出す。

函館より西に渡島の海岸を過ぐれば、福山江差の二小港あり。福山は松前氏の舊城地にして、北海道最古の名邑たり。江差は漁業の一中心にして、商業又盛に行はる。

之より北行して後志に入り、漁業の盛なる奥尻島を左方に望み、進みて壽都岩内を過ぎ、積丹半島の頸部を越えて小樽に達す。

(注意) 以上述べたる處は、石狩川流域以西、即、本島の西部諸國及び石狩國等にして、本區中最開發したる地域に屬す。以東の地方は氣候及び交通上等諸般の關係により、開拓未其の緒に就かず、人口甚稀疎にして、都邑の稱すべきものを見ず。

札幌より北に海岸を過ぐれば、天鹽に鮭漁の盛なる増毛

あり。北見に稚内及び本島最北の宗谷あり。オユツク海沿岸を東南行すれば、猿間湖畔を過ぎ、常呂川を渡り、商港に適する網走に到り、知床半島の頸部を越えて、根室の國に入り、楓蓮湖畔を経て、根室に達す。

根室は支廳の所在地にして、本島東部唯一の小都會なり。港は、冬季氷結の憂あれども、漁業の中心にして、且千島に渡る要港なるを以て、市況漸次に繁盛ならんとす。(漁不漁人口の増) 根室港と腹背をなして、花咲港あり。之より西に釧路の海岸を過ぐれば、厚岸釧路の兩港あり。厚岸は牡蠣の産出を以て其の名を知らる。釧路は開港場の一にして、硫黃の輸出夥し。此の港に注入する釧路川は、其の源を北方の山中なる屈斜路湖に發す。湖の東方にある跡左



北海道土人風俗

中蔵の物に付き男の子に等しき女の子にせ注視の男の子に付き
 せらばの等禮の服又中々に小る屋の土人倉庫も云ふべき
 もしに各戸一棟を備ふの後に方に見ゆる即彼等の家のな

登^ガの^シ山は、硫黄の採掘盛大にして、産額の多き全國の首位を占む。爲に鐵道を設けて運輸に供す。釧路國の西は、十勝、日高の兩國にして、共に著しき都邑なく、河流の沿岸には、舊土人の村落甚多く、特に日高の沙流川沿岸を最とす。同國の新冠^{ニイカッ}高原は、牧養盛にして、良馬を産出す。此の二國の海岸は屈曲に乏しく、良港を缺けるを以て、開發の功を奏するは、蓋鐵道完成の後にあるべし。國道は海岸を通じ、沙流川を渡り、膽振の境に入り、石狩平原を横きりて札幌に達す。

アイヌ人は、一般に骨格逞しく、特に男子は鬚髯に富み、女子は口邊に入墨を施す風習あり。アツシの皮を^{一種}にして奥羽^{一種}地方にてオビ^{一種}と云ふ。織りて粗服を製し、家屋は丸木を支

生業

柱とし、茅を以て屋根及び四壁を蔽ふ。常に漁獵を業とし、魚介・鳥獸の肉及び百合根を食す。近年政府の獎勵により、中には農業に従事するものあり。性魯鈍あれども、順良にして、一夫一婦の良習を守り、親子の情特に厚し。

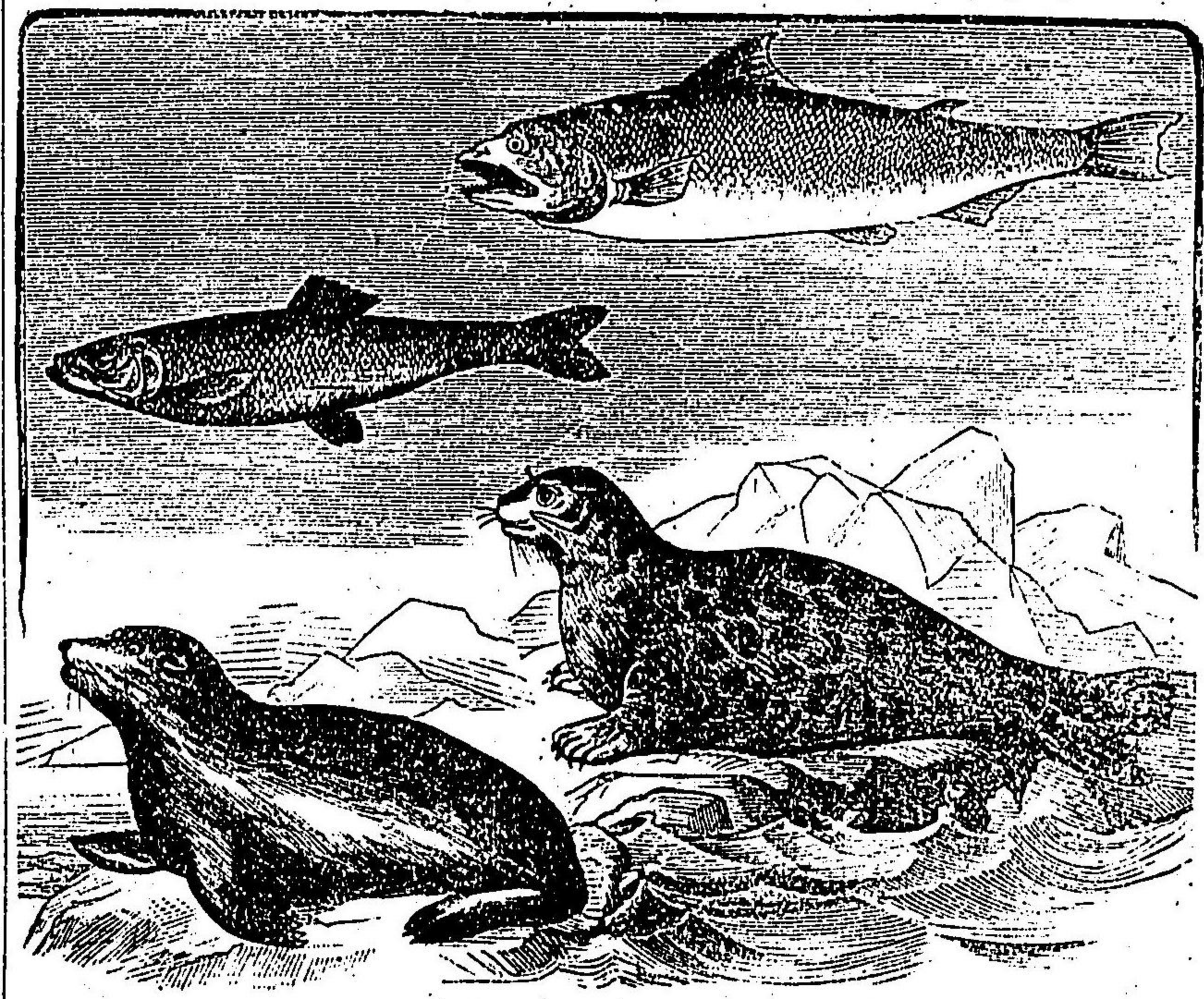
●生業 本區は年々内地人の移住者寡からずと雖、住民尙甚稀疎なるを以て、各種の産業未發達せず。然れども天然の産物甚饒多なれば、もし之を獲るに其の道を得ば、利源の多き實に帝國の寶庫たるに耻ぢざるべし。現時産物中最重要なるものは水産にして沿海・河岸到る處漁利あらざるはなく、緋・鮭・昆布等の産額莫大なり。次は礦産にして、石炭・硫黄の採掘夥しく、近時又多く砂金を産出す。農産には豆・麥・馬鈴薯・甜菜等を出し、又牧養の業盛にして、馬及

び牛の産出寡からず。森林は、蝦夷松・榎松・落葉松等の巨木鬱林をなす。故に多く良材を輸出し、又燐寸の軸木の製出甚盛あり。

千島區

本地域即千島列島は國後・色丹・擇捉・得撫・新知・恩禰・古丹・幌筵・占守・阿頼度等大小三十二個の島嶼より成り、得撫島以北はもと露西亞の領地なりしが、明治八年の條約により、吾が樺太島と交換せしものなり。總面積は實に琉球區の六倍に及び、四國區より稍小なるのみ。諸島概細長く、火山に富み、平地少く、冬季は氣候寒冽にして、北風強きを以て、得撫島以北は殆樹木を産せず。たゞ數種の矮樹を生ずるのみ。夏日は濃霧に掩はれ、冬日は怒濤に蹶られ、特に潮流

險惡にして、舟行頗危険の患を免かれず。舊時は、只僅少の土人此の地に住せしが、政府の保護上甚不便を感ずるに
より、明治十七年之等の土人を悉色丹島に移せし以來、一時得撫を限りて以北は無人の島嶼に歸したり。然るに明治二十六年、報効義會の志士數十名占守島に移住し、熱心に開墾・漁業等に從事せしかば、其の後稍内地人の移住するものありて、現今は幌筵・恩福・古丹・新知等に住民を見るに至れり。されども尙人口甚稀疎にして平均一方里僅かに二人を容るゝに過ぎず。然れども千島の近海は、十州の沿海と均しく、海産極めて豊多にして、鯡・鱒等の魚族を始め、海豹・鯨及鯨等の海獸到る處に群をなし、恰此の一大富源によりて、内地人の來住を誘ふものゝ如し。



北 海 道 重 要 水 産

國後島は、十州に最も近きものにして、島内山多きも、所々に平地ありて耕牧に適す。其の最高點爺々岳は、美麗なる二